
男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

令和6年度
四日市市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の設計	2
3	回収の結果	2
4	報告書の見方	3
5	自由回答	4
II	回答者の属性	5
1	回答者の属性	6
1-(1)	性別	6
1-(2)	年齢	6
1-(3)	家族構成	7
1-(4)	子どもの状況	8
III	調査の結果	9
1	男女平等について	10
1-(1)	男女の平等感について	10
1-(2)	男女が平等になるために重要なこと	23
2	結婚、家庭、子育てについて	25
2-(1)	婚姻の状況	25
2-(2)	配偶者又はパートナーの就労状況	26
2-(3)	配偶者又はパートナーの就労形態	27
2-(4)	家事の分担比率	28
2-(5)	結婚や家庭に対する考え方	30
2-(6)	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う理由	32
2-(7)	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思わない理由	34
2-(8)	男性が家事育児に参加するために必要なこと	36
3	職業生活について	39
3-(1)	現在の就業形態	39
3-(2)	管理職への昇格希望	42
3-(3)	管理職への昇格を希望する理由	43
3-(4)	管理職への昇格を希望しない理由	44
3-(5)	職場における男性の育児休業の取りやすさ	45
3-(6)	女性活躍の取り組みの進捗状況	46
3-(7)	女性活躍の取り組みが進まない理由	47
3-(8)	テレワークの導入と利用について	48
3-(9)	テレワークの利用による家事・育児への効果について	49
3-(10)	男性の育児休業について	50
3-(11)	希望する男性の育児休業期間について	51
3-(12)	育児休業を取りたくない（取ってもらいたくない）理由について	52
3-(13)	女性が職業を持つことについての考え方	53

3-(14) 女性が職業を持ち続けていく上で障害と思うこと	55
3-(15) 女性の再就職のために必要な施策・対策.....	58
3-(16) くるみん認定や、えるぼし認定の有無を参考にしたいかどうか	62
4 ワーク・ライフ・バランスについて.....	63
4-(1) ワーク・ライフ・バランスの現状.....	63
4-(2) ワーク・ライフ・バランスの実現のために重要なこと	66
5 社会活動等について	69
5-(1) 地域活動等への参加状況	69
5-(2) 地域活動等における現状	74
5-(3) 地域活動等に参加していない理由	77
6 ドメスティック・バイオレンスなどについて	78
6-(1) 暴力の加害、被害の有無	78
6-(2) 暴力などをした際の相談先	84
6-(3) 暴力などをした際に相談しなかった理由.....	86
6-(4) 暴力などを受けた際の相談先.....	88
6-(5) 暴力などを受けた際に相談しなかった理由.....	90
6-(6) 暴力などを受けた際の対応	93
6-(7) 暴力などを受けた配偶者等と別れなかった理由.....	94
6-(8) 暴力などを受けた配偶者等と子どものことで別れなかった理由	96
6-(9) 暴力などを受けた際の相談先の認知.....	99
7 性の多様性について	100
7-(1) 「LGBTQ」「性的指向」「性自認」の認知.....	100
7-(2) 自分の恋愛対象に悩んだり、自分の性に違和感を覚えた経験	102
7-(3) LGBTQ に対する否定的な言動を見聞きした経験	103
7-(4) 性の多様性を認め合う社会を作るために必要な施策・対策.....	104
8 男女共同参画社会について	107
8-(1) 政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由	107
8-(2) 男女共同参画を推進するための力点.....	109
9 男女共同参画センターについて	112
9-(1) 四日市市男女共同参画センターの認知度.....	112
9-(2) 四日市市男女共同参画センターでの実施事業の認知度	113

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、「男女共同参画プランよっかいち2021～2025」の計画期間が令和7(2025)年度で終了することから、新たな計画の策定にあたり、男女共同参画に関する市民の意識や生活について把握し、本市が取り組むべき施策等の検討及び進捗状況等の点検に資することを目的として実施した調査である。

2 調査の設計

調 査 対 象：四日市市に居住する満18歳以上の住民
(令和6年8月1日現在)

標 本 数：3,000 サンプル

標 本 抽 出 法：住民基本台帳より無作為抽出

調 査 方 法：郵送によって配布し、調査票またはウェブにて回答・回収

調 査 時 期：令和6年8月8日～8月23日

ただし、回収期限後にあった回答についても、9月13日到着分まで集計に反映させた

3 回収の結果

発送数 A	宛先不明等 B	有効配布数 C	回収数 D	無効回収数 E	有効回収数 F	回収率 F/C
3,000	19	2,981	1,143	5	1,138	38.2%
うち調査票			892	5	887	29.8%
うちウェブ			251	0	251	8.4%

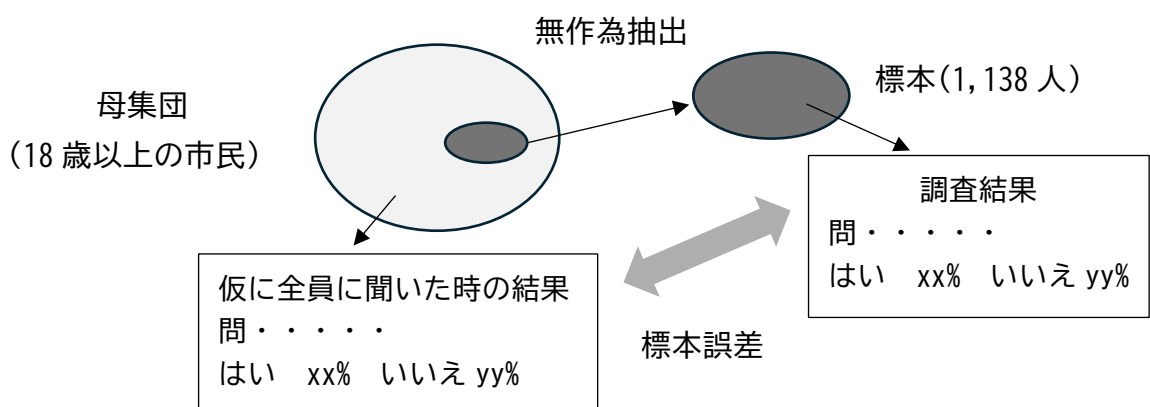
4 報告書の見方

- (1)比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。
このため、合計が100%にならないこともある。
- (2)基数となるべき実数は、件数として掲載した。したがって比率は、件数を100%として算出している。
- (3)複数回答が可能な質問の場合は、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%なのかという見方をする。このため、各項目の比率の合計は通常100%を超える。
- (4)本報告書中の文章、表、グラフ等の見出しの回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。
- (5)本報告書中の「前回調査」は、令和元年8月に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」をさす。なお、前回調査と共通する設問については、本報告書の各設問分の後に **前回共通** のマークを付けた。また、前回調査と共通するものの条件や選択肢の数など一部変更のあった設問については、同様に **前回共通(一部変更)** のマークを付けた。

参考 ーアンケート調査結果と母集団の推計値の関係についてー

【標本誤差について】

四日市市に在住する18歳以上の市民約26万2千人（母集団）を対象に無作為抽出し、そこから有効回収結果（標本数）として、1,138 人から回答を得た。標本から得られた結果が、母集団の値とどのくらい誤差があるかを示す指標が標本誤差である。



標本誤差は、次式で表される。ただし、信頼度を 95%とし、信頼水準（係数）を1.96 と設定している。ここで、信頼度 95%とは、その標本が 100 回に 5 回がその標本誤差の範囲内におさまらないことを意味する。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N：母集団（調査の対象となる集団の総数）

n：比率算出の基数（有効回収数）

P：回答比率（ある選択肢の回答割合）

上記の式により算定した標準誤差は下記の通りである。ただし、クロス集計では標本が分割されるため、標準誤差は拡大することに注意が必要である。

回答比率	5%または 95%	10%または 90%	20%または 80%	30%または 70%	40%または 60%	50%
標本誤差	± 1.26%	± 1.74%	± 2.32%	± 2.66%	± 2.84%	± 2.90%

5 自由回答

男女共同参画に関することについて自由にご意見やご要望を書いていたいただいた自由回答について、102人の記述があった。

Ⅱ 回答者の属性

1 回答者の属性

1-(1) 性別

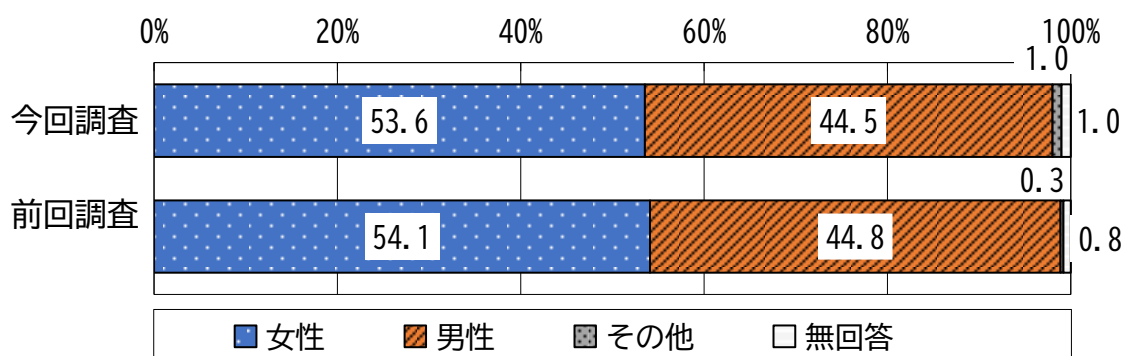
〔n = 1, 138〕 前回共通

問49 【すべての方におたずねします。】

あなたの性別について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

※戸籍上の区分とは別にご自身の主観によりお答えください。

- ◆性別の割合は、女性が53.6%、男性が44.5%となっており、女性が9.1ポイント上回っている。
- ◆なお、前回調査では女性が54.1%、男性が44.8%であり、回答者の傾向はほぼ同じとなっている。



1-(2) 年齢

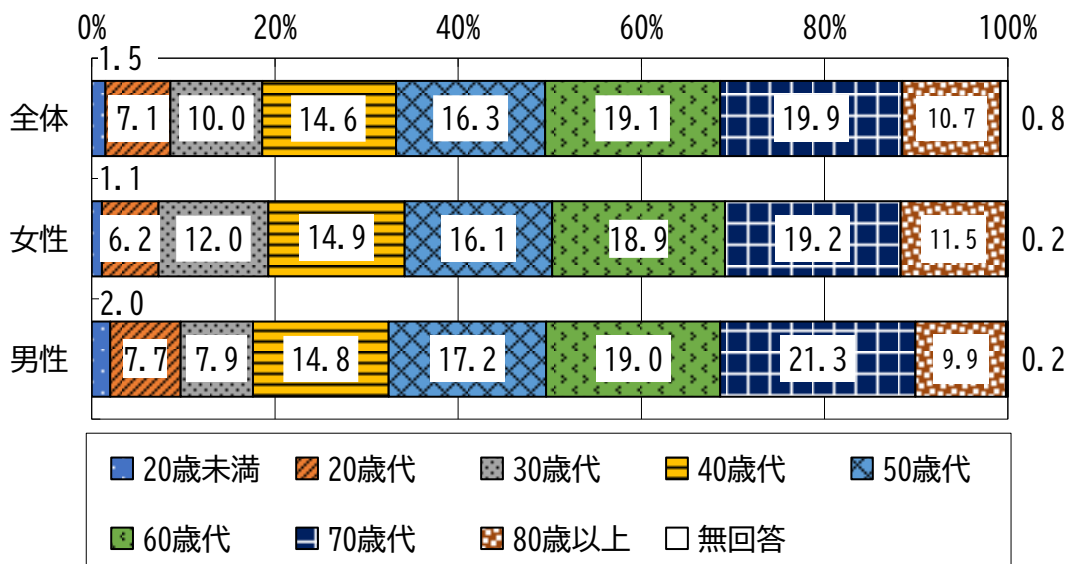
〔n = 1, 138〕 前回共通(一部変更)

問50 【すべての方におたずねします。】

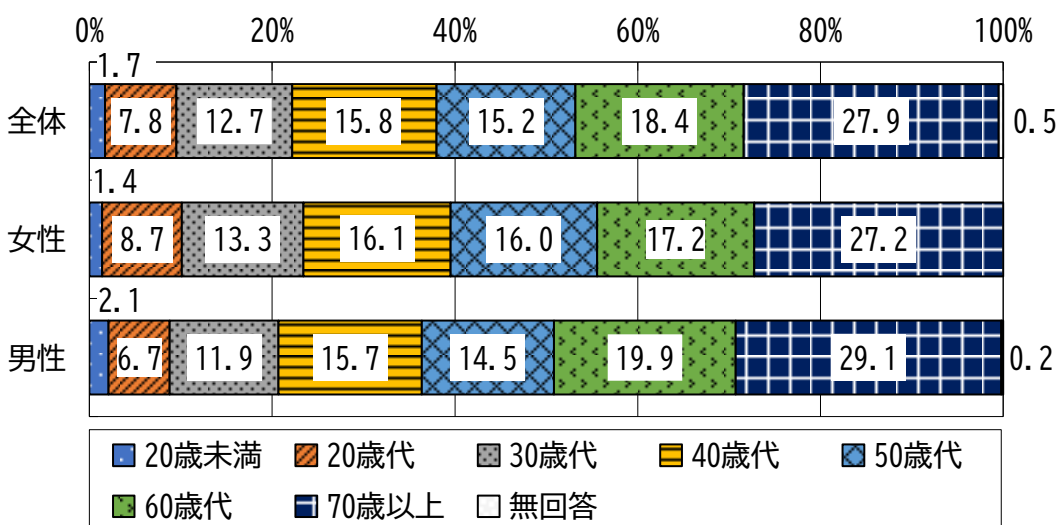
あなたの年齢について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆年齢の割合は、「70歳代」が19.9%、「60歳代」が19.1%と高くなっており、60歳以上の合計で49.7%となっている。
- ◆「30歳代」は前回調査から2.7ポイント、「40歳代」は1.2ポイント、それぞれ減少している。一方、「50歳代」は1.1ポイント、「60歳代」は0.7ポイント、それぞれ増加している。
- ◆「20歳代」は7.1%と低く、前回調査の7.8%、前々回調査の8.4%に比べると、わずかではあるが減少している。

今回調査



前回調査

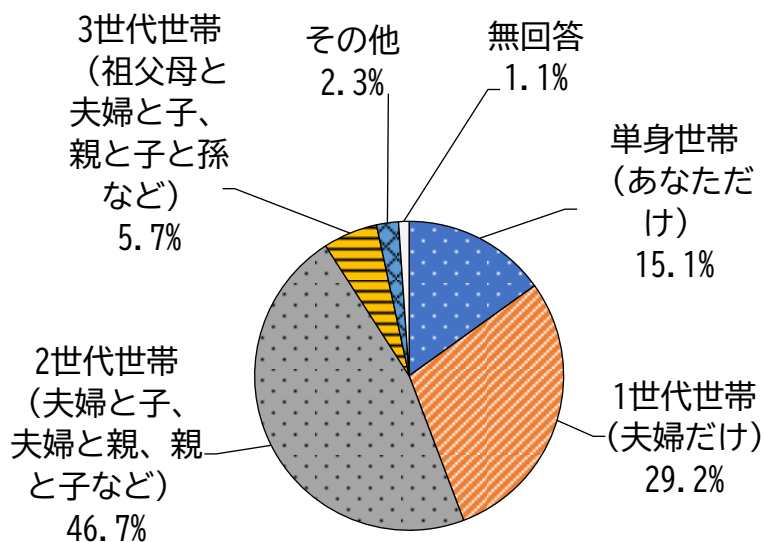


1-(3) 家族構成

〔n=1,138〕 前回共通

問51 【すべての方におたずねします。】

家族構成について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。



◆家族構成は、「2世代世帯」が46.7%と約5割を占めており、前回調査でも47.7%とほぼ同じ傾向である。

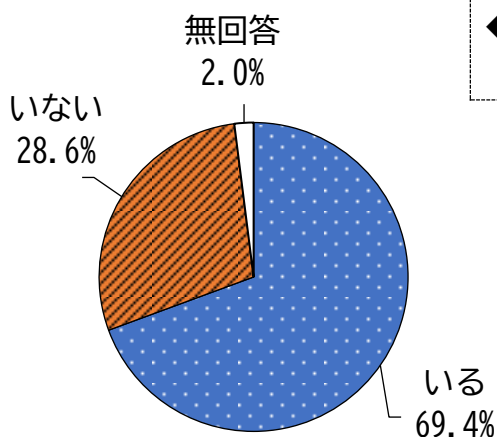
◆「単身世帯」は3.3ポイント、「1世代世帯」は1.4ポイント増加している。一方、「3世代世帯」は2.5ポイント減少している。

1-(4) 子どもの状況

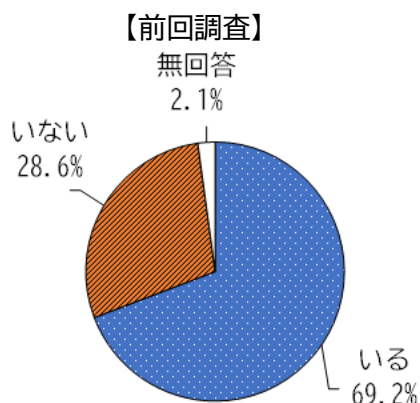
〔n=1,138〕 前回共通

問52 【すべての方におたずねします。】

あなたには子どもがいらっしゃいますか。いる場合はどの年代の子どもがいらっしゃいますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。なお、子どもが2人以上いる場合は一番下の子どもの年代でお答えください。

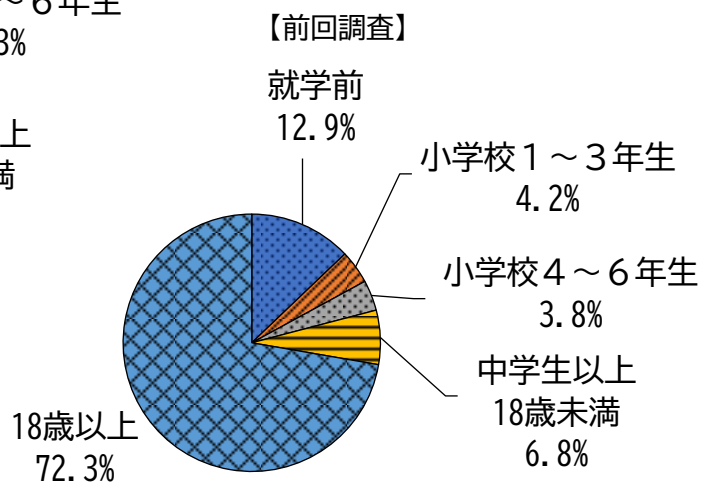
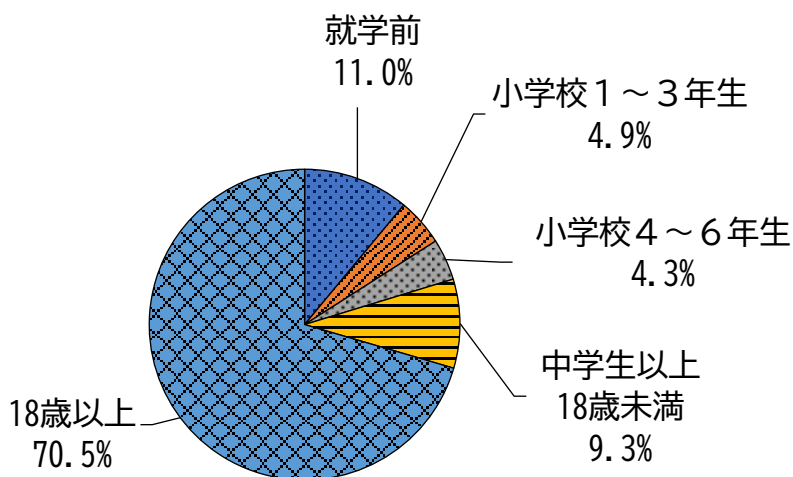


◆子どもが「いる」方は69.4%であり、前回の69.2%とほぼ同じ傾向である。



<いる場合の年代> 〔n=789〕

◆子どもがいる場合の一番下の子どもの年代としては、「18歳以上」が70.5%であった。



Ⅲ 調査の結果

1 男女平等について

1-(1) 男女の平等感について

〔n=1,138〕 **前回共通**

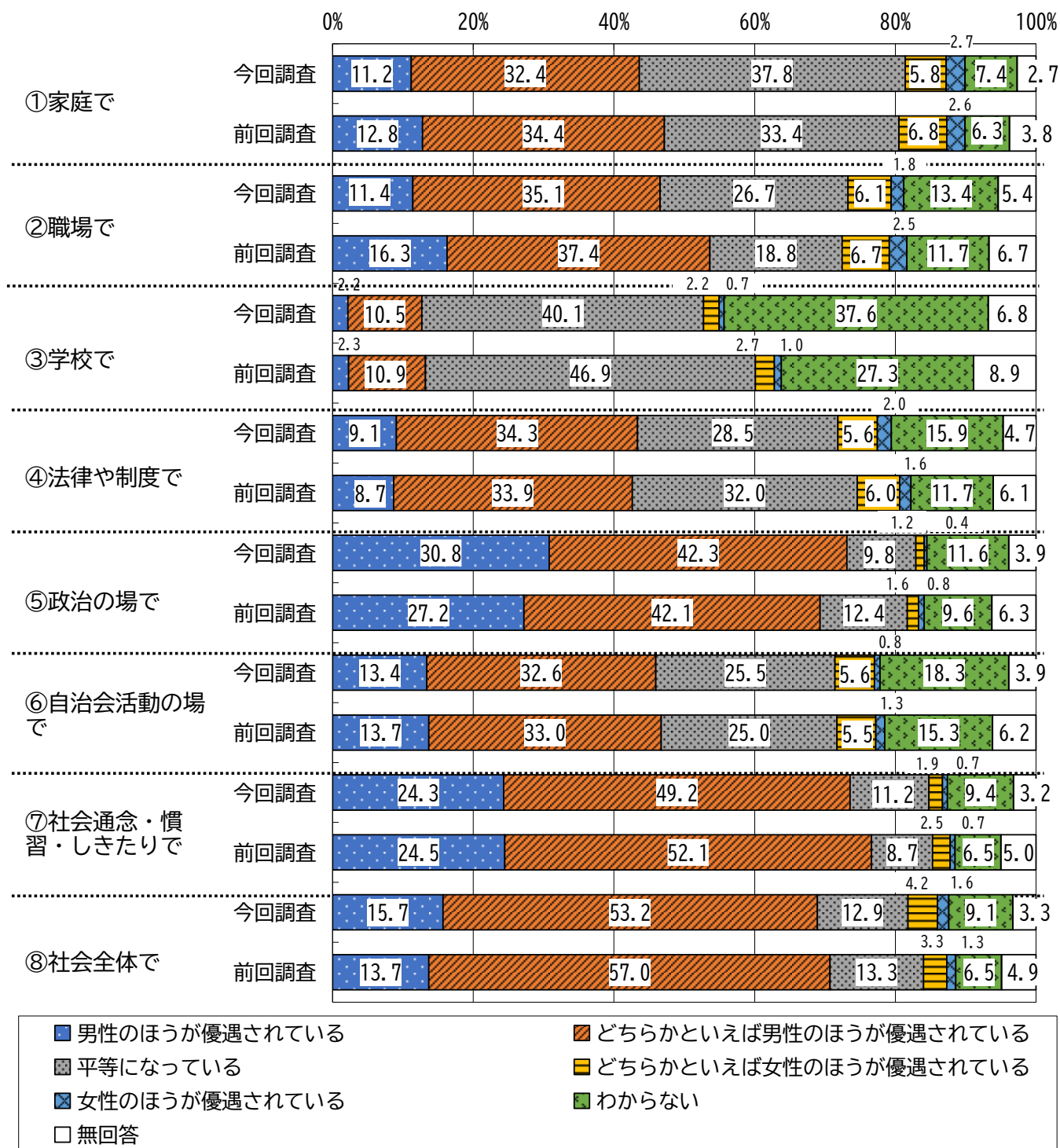
問1 【すべての方におたずねします。】

あなたは次の各項目の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑧の各項目について、それぞれ1つずつ選んで○印をつけてください。

◆男女の平等感については、「⑧社会全体で」は『平等になっている』と答えた方が12.9%と、前回調査に比べ0.4ポイント減少しているものの、差はほとんどない。各分野においては、「①家庭で」「②職場で」「⑥自治会活動の場で」「⑦社会通念・慣習・しきたりで」は増加しており、特に、「②職場で」は7.9ポイントの増加となっている。一方、「③学校で」「④法律や制度で」「⑤政治の場で」などでは減少しており、特に、「③学校で」は6.8ポイントの減少であった。

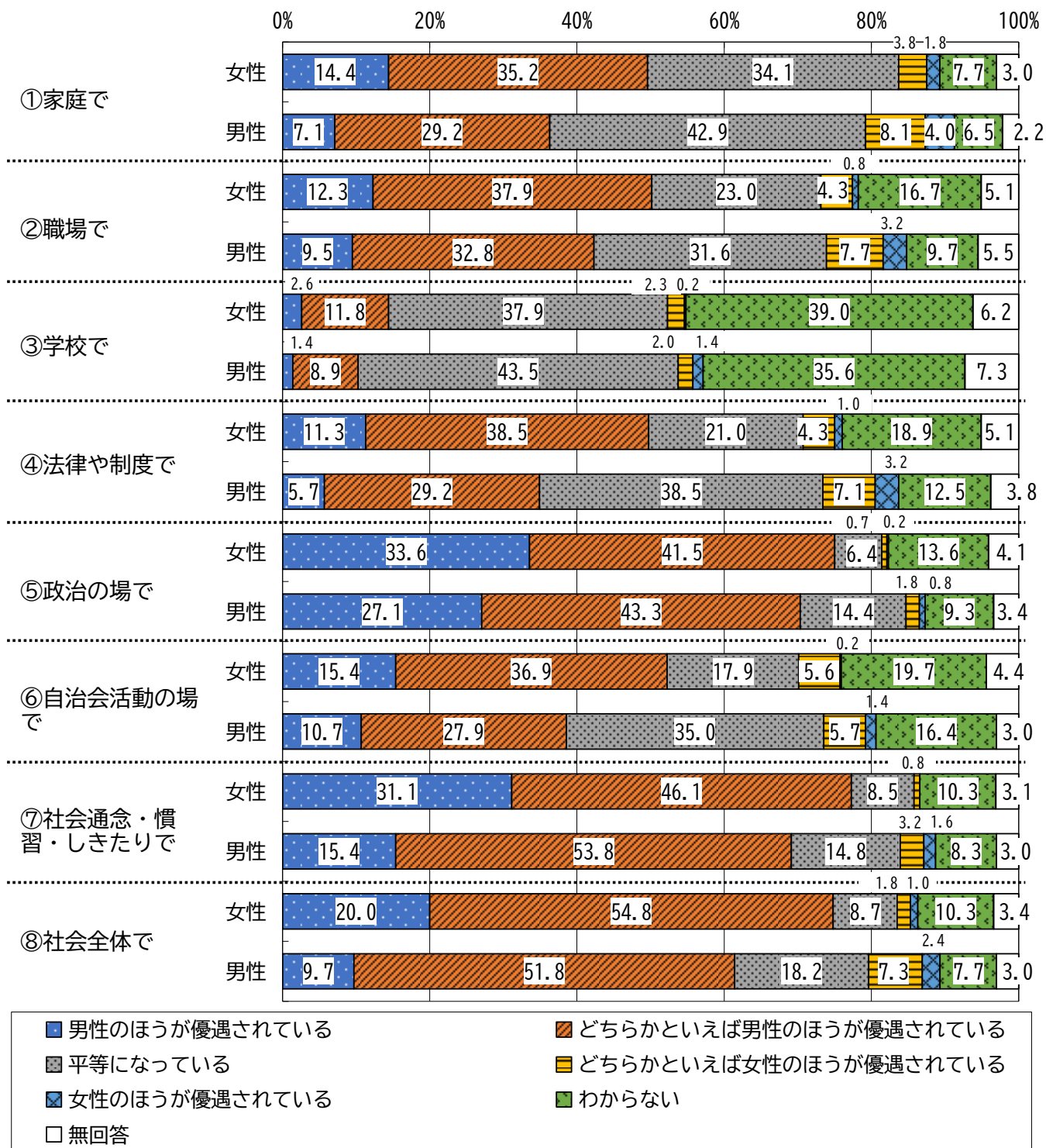
◆『男性のほうが優遇されている』※1の割合は、前回調査に比べて「④法律や制度で」「⑤政治の場で」で増加している。また、「⑤政治の場で」「⑦社会通念・慣習・しきたりで」「⑧社会全体で」では、依然として60%を超えており、特に、「⑤政治の場で」「⑦社会通念・慣習・しきたりで」では70%を超えている。

※1「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の計



- ◆性別で『男性のほうが優遇されている』の割合をみると、男女差が大きいのは「④法律や制度で」の14.9ポイント差、「⑥自治会活動の場で」の13.7ポイント差、「①家庭で」の13.3ポイント差、「⑧社会全体で」の13.3ポイント差などとなっている。
- ◆「平等になっている」の割合は、いずれの分野でも男性が女性を上回っているが、男女差が大きいのは「④法律や制度で」の17.5ポイント差、「⑥自治会活動の場で」の17.1ポイント差、「⑧社会全体で」の9.5ポイント差などとなっている。

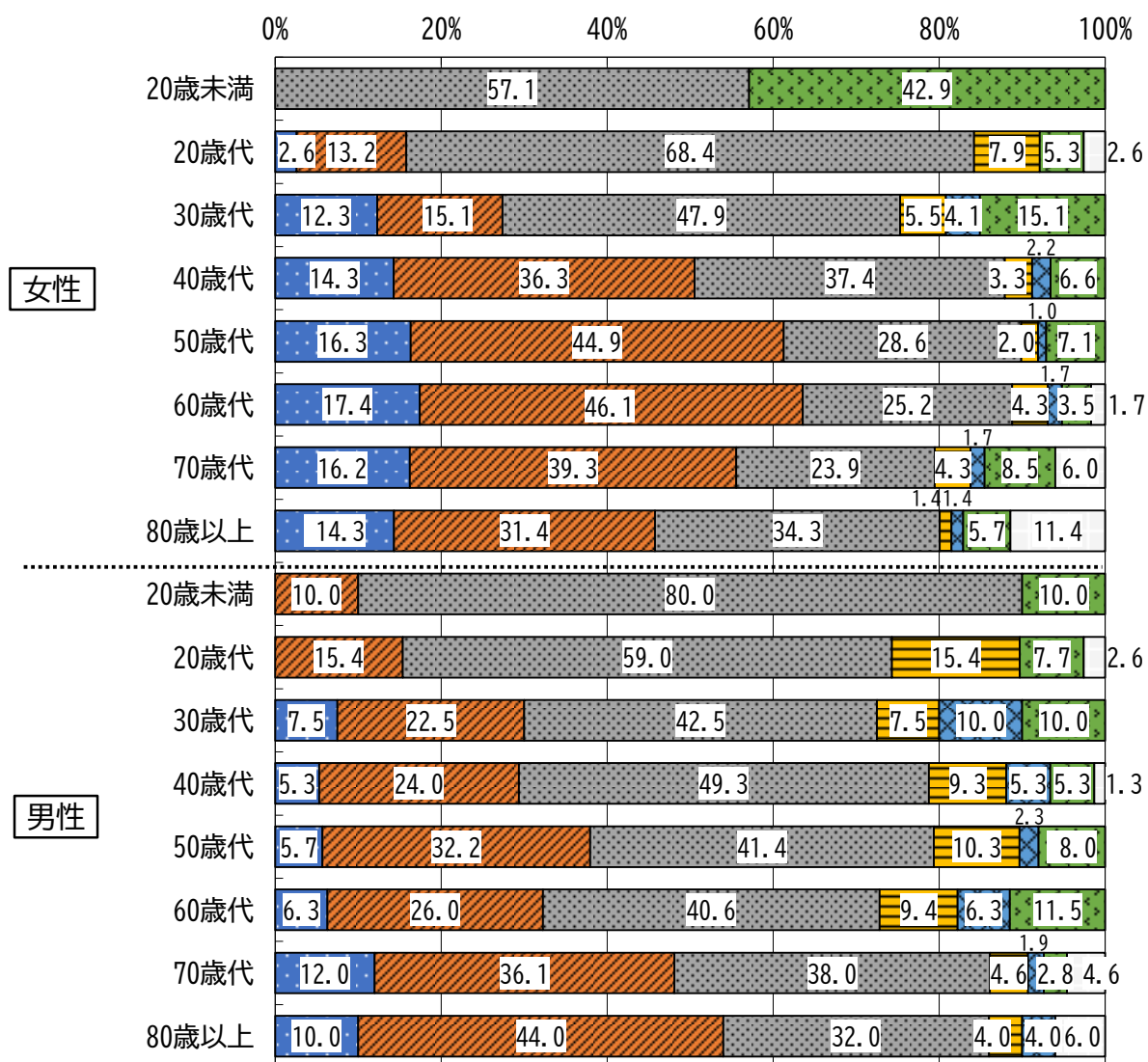
性別



- ◆性・年齢別に、「①家庭で」をみると、男女とも年代が上がるにつれ『男性の方が優遇されている』の割合が増加する傾向にあり、女性の40～70歳代では50%以上を占める。特に50歳代、60歳代女性では60%以上を占めている。「平等になっている」の割合は、20～30歳代、80歳以上を除き、男性が女性を上回っている。
- ◆「②職場で」をみると、男性の30歳代以上では『男性の方が優遇されている』の割合が40%以上を占めている。特に、40歳代では50.6%を占めている。女性は30～70歳代で『男性の方が優遇されている』の割合が約半数以上を占め、20歳未満と80歳以上を除き男性を上回っている。特に、60歳代では男性を17.7ポイント、30歳代では12.1ポイント上回っている。「平等になっている」の割合は、20歳代を除く年代で男性が女性を上回っている。
- ◆「③学校で」をみると、「わからない」を除き、男女ともどの年代も「平等になっている」が最も多くなっている。特に20歳代以下の男性は5割以上、女性は6割以上を占める。
- ◆「④法律や制度で」をみると、男性は30歳代、40歳代、70歳代を除き、「平等になっている」の割合が『男性の方が優遇されている』の割合より高い。一方、女性は20歳代、40歳～60歳代では『男性の方が優遇されている』の割合が過半数を占める。
- ◆「⑤政治の場で」をみると、女性の『男性の方が優遇されている』の割合は、70歳代以上を除くすべての年代で男性を上回っている。特に、30～40歳代、60歳代では『男性の方が優遇されている』と感じる女性が多く、8割を超えている。「平等になっている」の割合はすべての年代で男性が女性を上回っている。
- ◆「⑥自治会活動の場で」をみると、女性の『男性の方が優遇されている』の割合は40～70歳代で5割以上を占めており、男性を上回っている。「平等になっている」の割合はすべての年代で男性が女性を上回っている。
- ◆「⑦社会通念・慣習・しきたりで」をみると、女性は40～60歳代で『男性の方が優遇されている』の割合が8割以上を占めている。一方、「平等になっている」の割合は20歳未満、60歳代を除くすべての年代で男性が女性を上回っている。
- ◆「⑧社会全体で」をみると、『男性の方が優遇されている』の割合は80歳以上を除くすべての年代で女性が男性を上回っている。特に、20歳代では35.1ポイント差、40歳代では22.2ポイント差と、男女間の差が大きい。「平等になっている」の割合はすべての年代で男性が女性を上回っている。

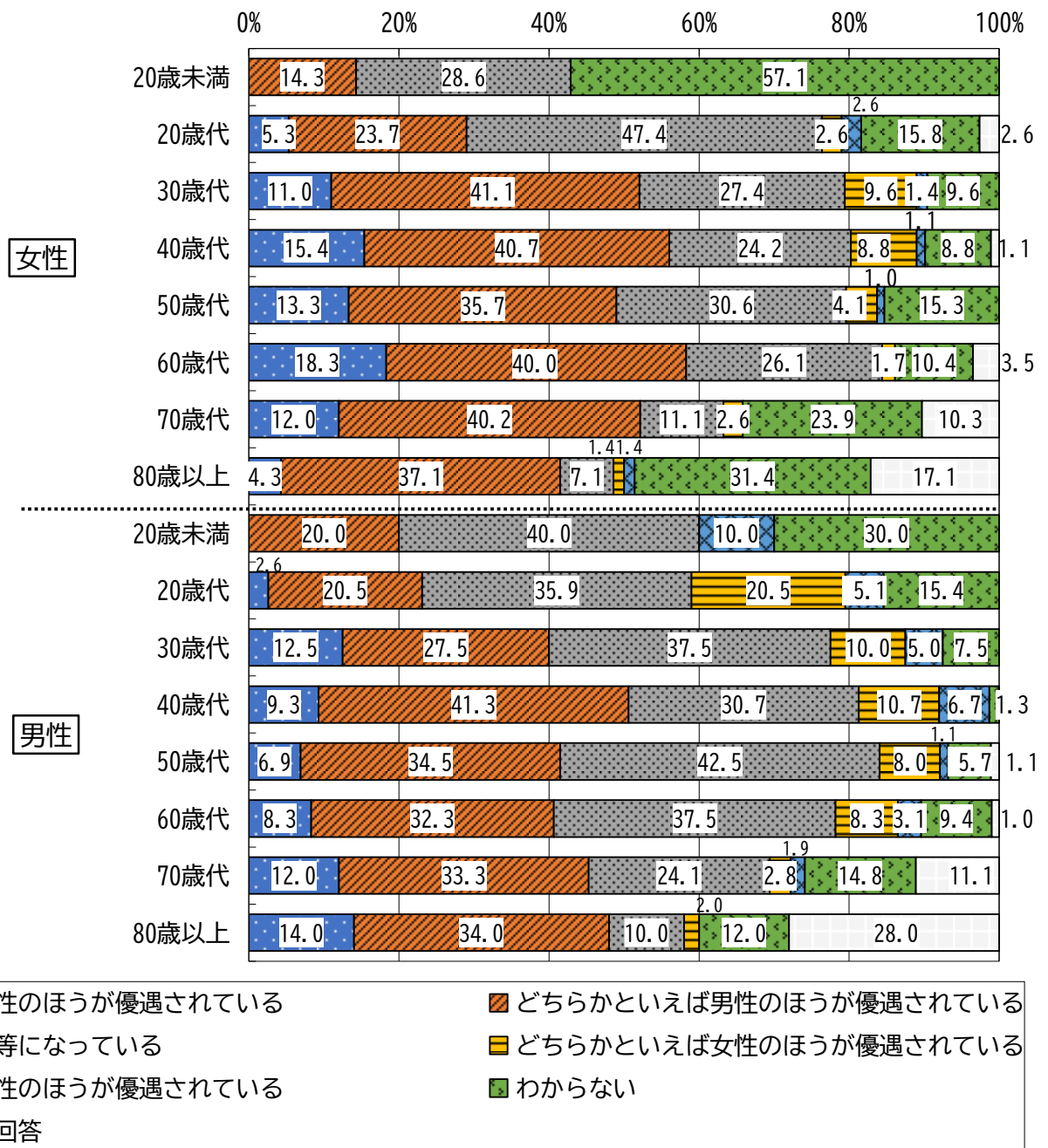
性・年齢別

①家庭で

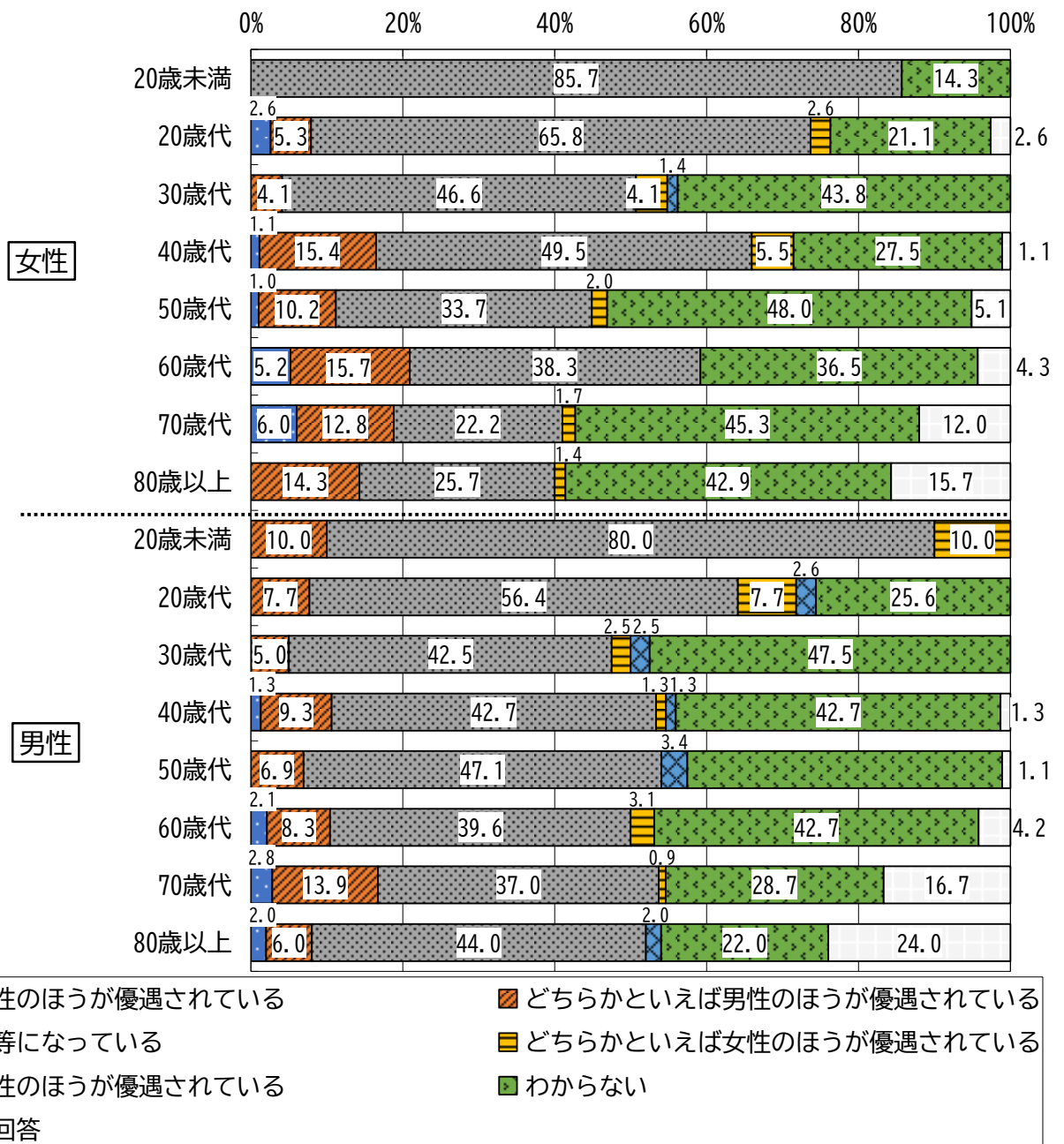


- 男性のほうが優遇されている
- 平等になっている
- 女性のほうが優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- わからない

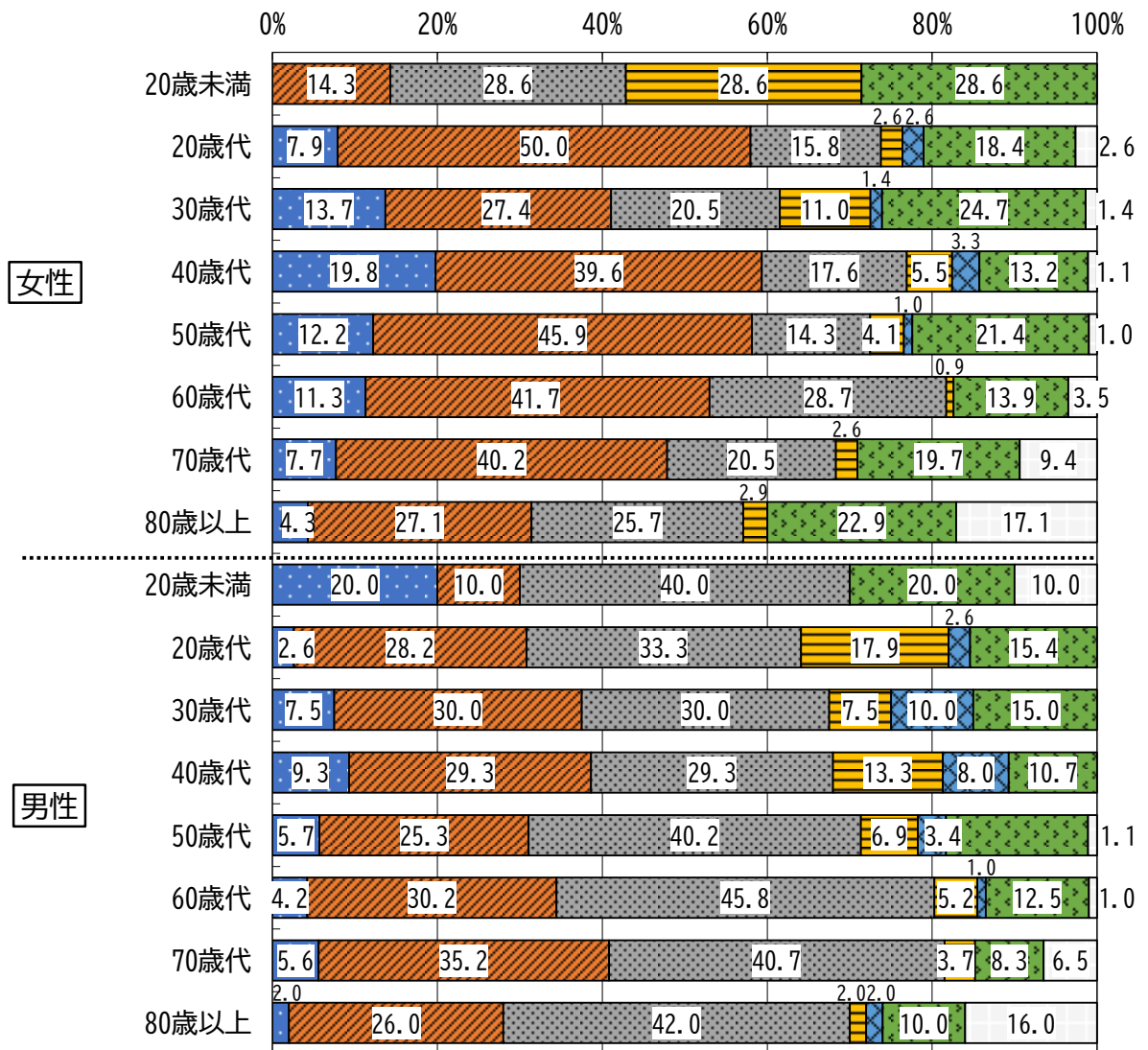
②職場で



③学校で

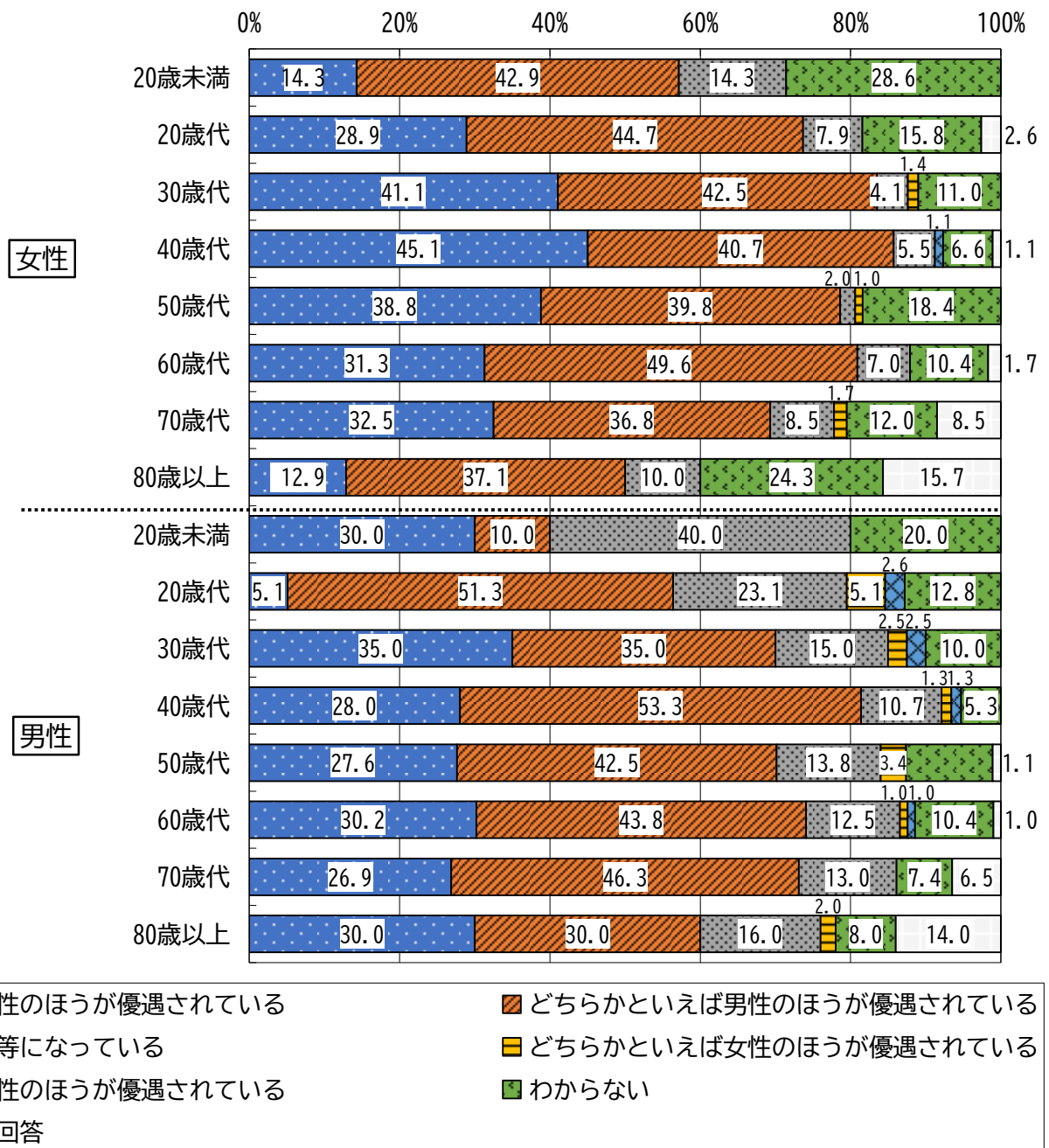


④法律や制度で

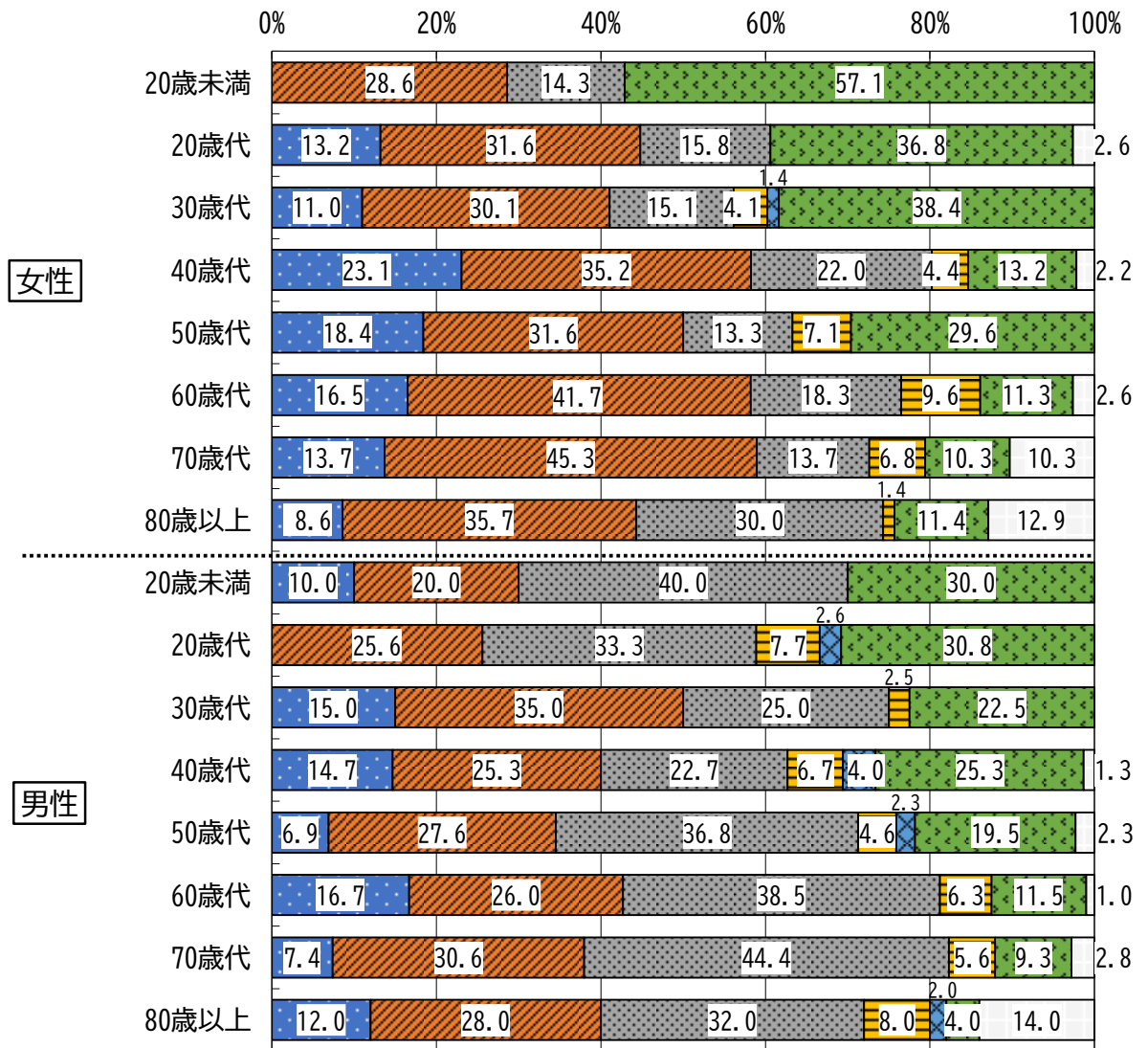


- 男性のほうが優遇されている
- 平等になっている
- 女性のほうが優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- わからない

⑤政治の場で

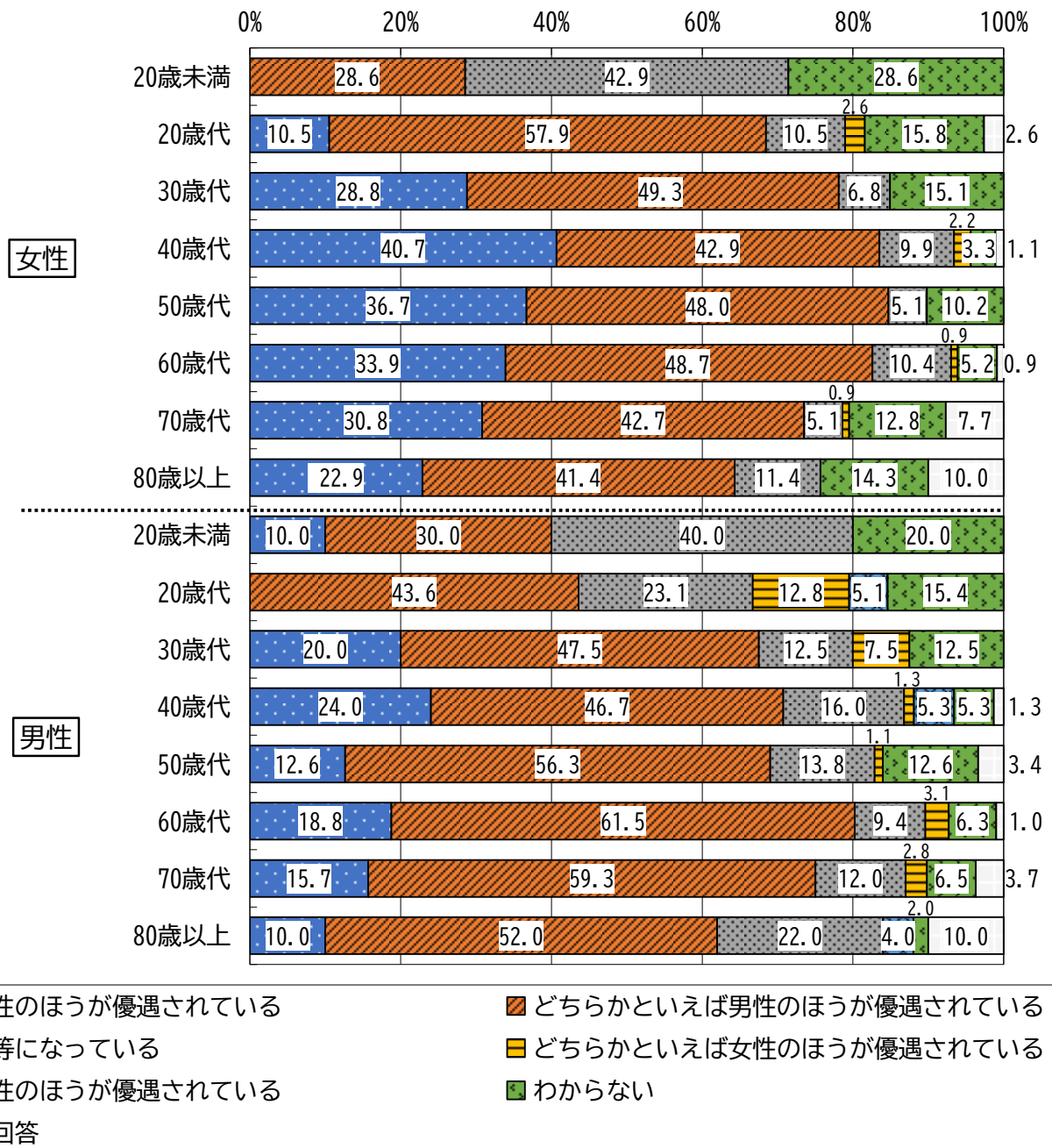


⑥自治会活動の場で

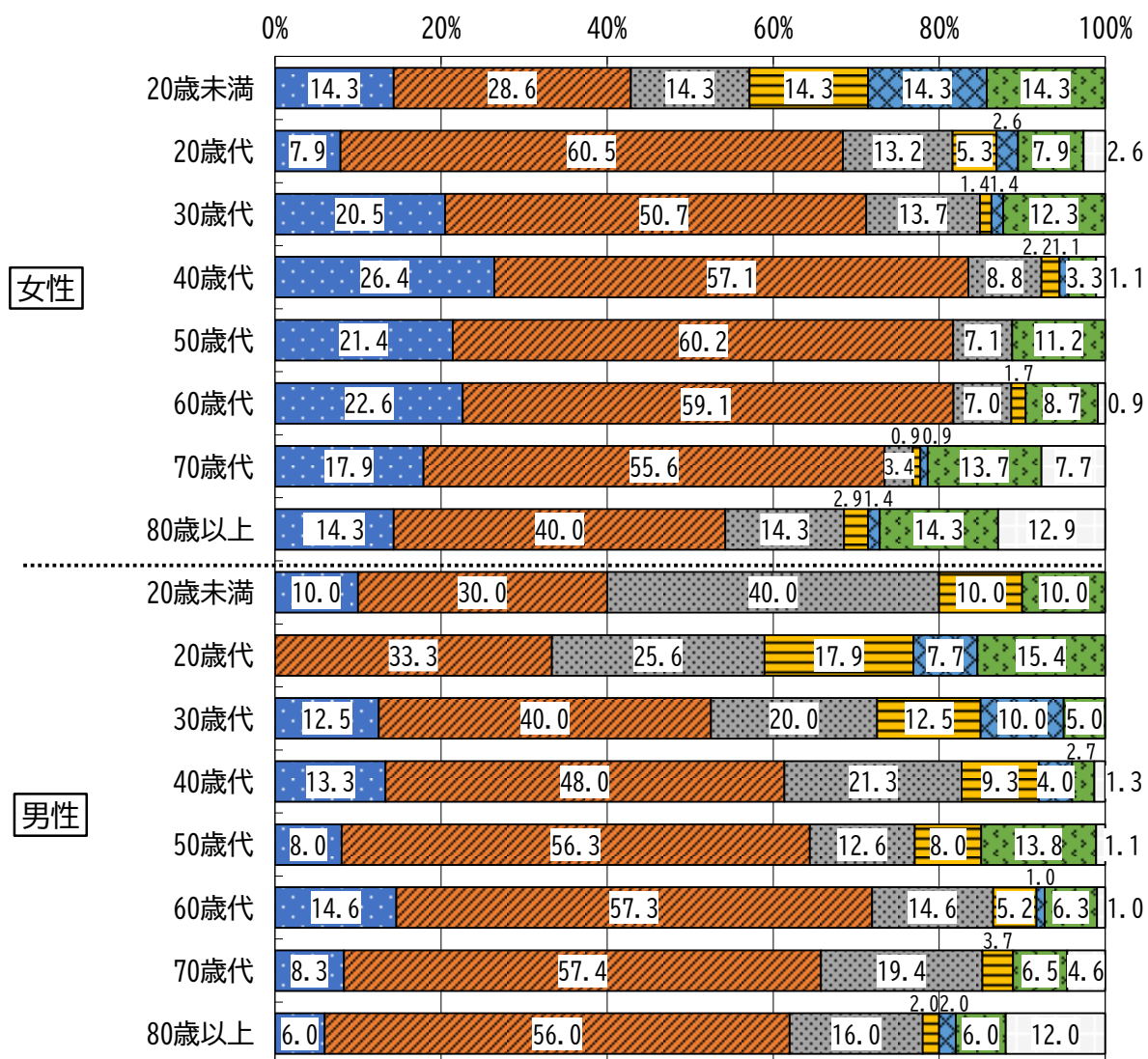


- 男性のほうが優遇されている
- 平等になっている
- 女性のほうが優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- わからない

⑦社会通念・慣習・しきたりで



⑧社会全体で



■ 男性のほうが優遇されている
 ■ 平等になっている
 ■ 女性のほうが優遇されている
 □ 無回答

■ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
 ■ どちらかといえば女性のほうが優遇されている
 ■ わからない

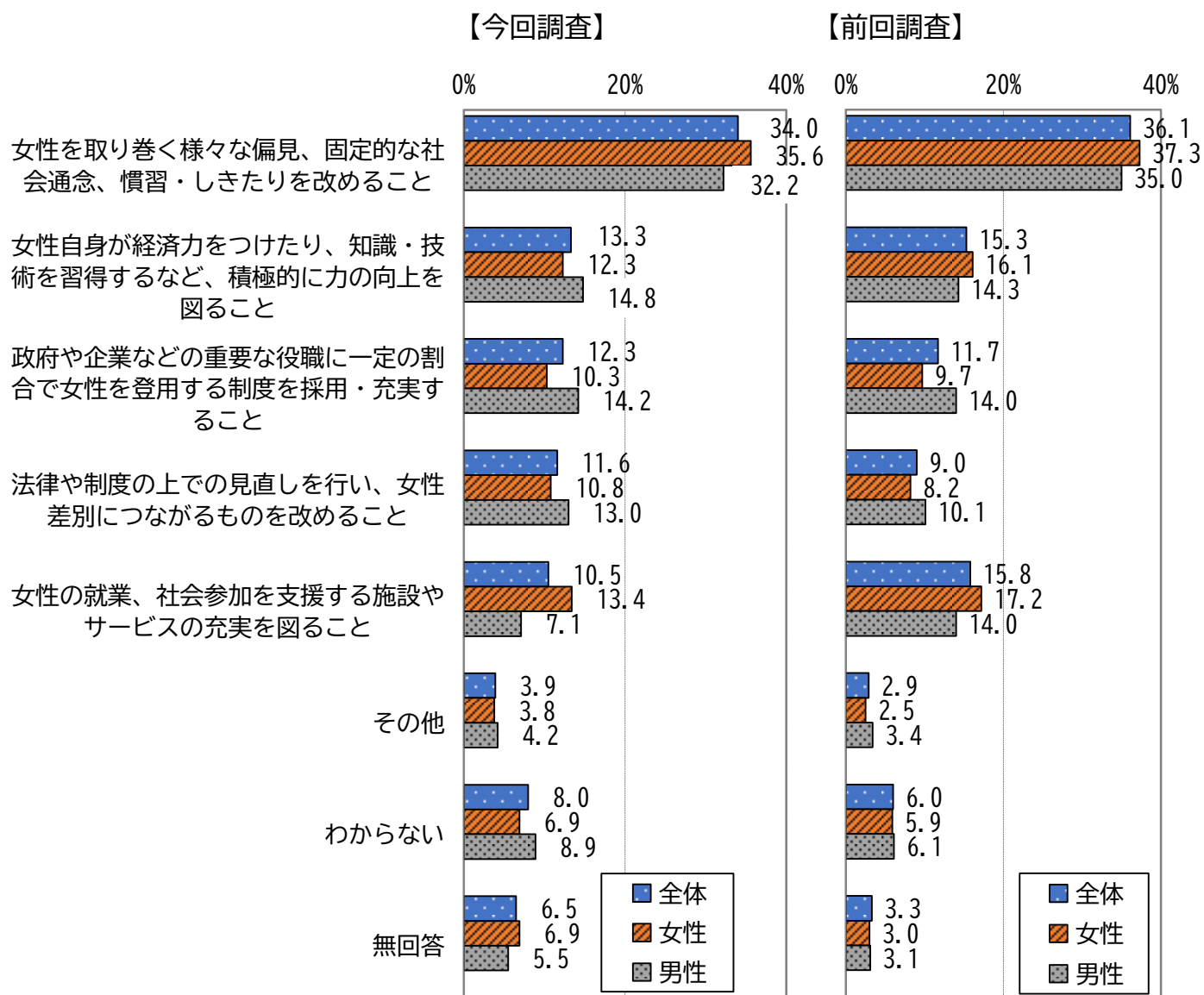
1-(2) 男女が平等になるために重要なこと

〔n=1,138〕 前回共通

問2 【すべての方におたずねします。】

今後、あなたが、社会のあらゆる分野でもっと男女が平等になるために最も重要だと思うことは何でしょうか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆社会のあらゆる分野で男女が平等になるために重要なことは、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が34.0%と最も高く、次いで、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(13.3%)、「政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」(12.3%)と続いている。
- ◆前回調査と比べると、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」の数値が減少し、「法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」の数値が増加している。
- ◆性別にみると、男女とも「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最も高く、次点は女性が「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」、男性が「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」となっている。



2 結婚、家庭、子育てについて

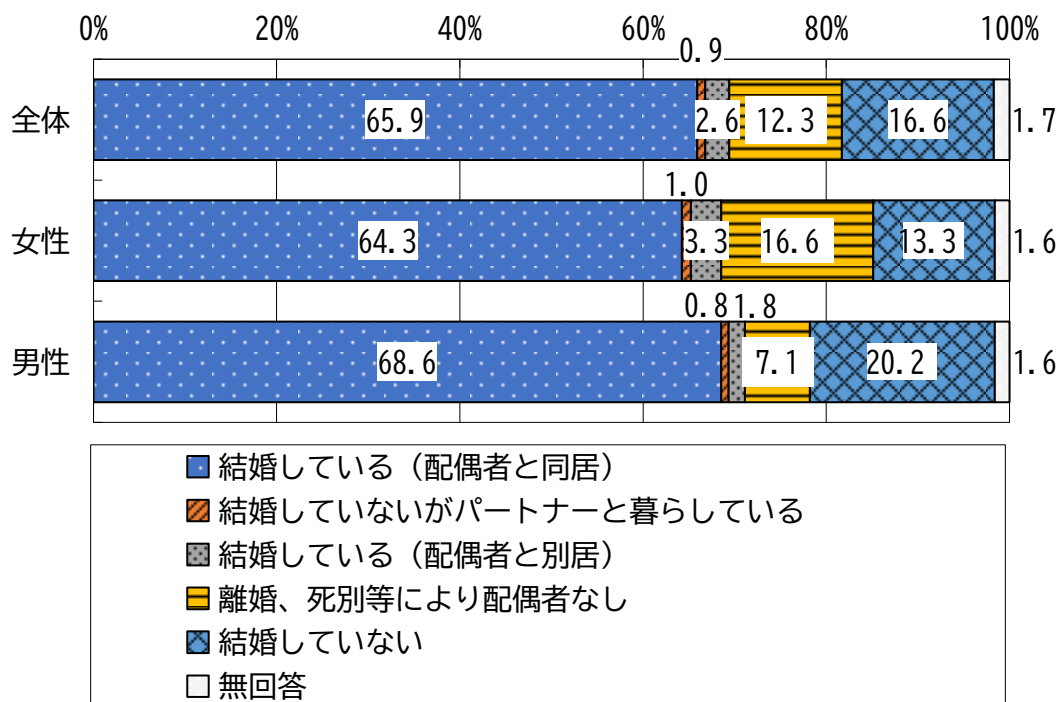
2-(1) 婚姻の状況

〔n = 1,138〕 **前回共通**

問3 【すべての方におたずねします。】

あなたは結婚していますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

◆婚姻状況は、「結婚している」が6割強となっている。



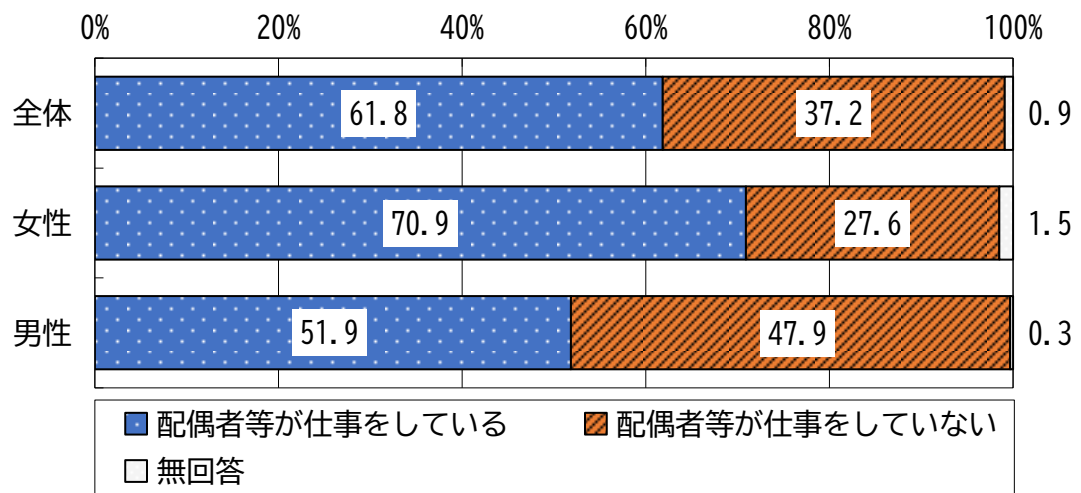
2-(2) 配偶者又はパートナーの就労状況

〔n=760〕 前回共通

問4 【問3で「結婚している」、「結婚していないがパートナーと暮らしている」と回答された方におたずねします。】

あなたの配偶者又はパートナーは収入を伴う仕事をされていますか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

- ◆「配偶者等が仕事をしている」と回答した方は約6割となっている。
- ◆性別にみると、「配偶者等が仕事をしている」と回答した方は、女性では約7割、男性では約5割となっている。



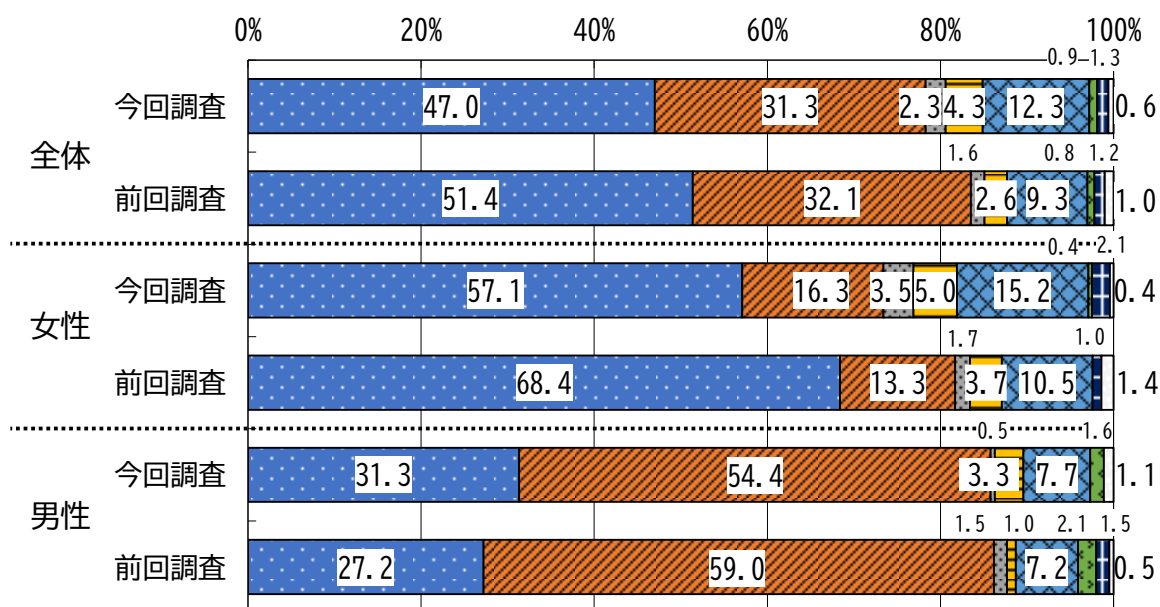
2-(3) 配偶者又はパートナーの就労形態

〔n=470〕 前回共通

問5 【問4で「している」と回答された方におたずねします。】

あなたの配偶者又はパートナーの仕事について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆配偶者又はパートナーの仕事については、「正社員・職員」が47.0%と最も高く、次いで、「非正社員・非正職員」(31.3%)、「自営業」(12.3%)と続いている。
- ◆前回調査に比べ、女性は「正社員・職員」が11.3ポイント減少し「自営業」が4.7ポイント、「非正社員・非正職員」が3ポイント増加している。一方、男性は「正社員・職員」が4.1ポイント増加し、「非正社員・非正職員」が4.6ポイント減少している。
- ◆性別にみると、女性では「正社員・職員」が約6割、男性では「非正社員・非正職員」が5割強となっている。



- 配偶者又はパートナーが正社員・職員
- 配偶者又はパートナーが非正社員・非正職員（パート、アルバイト、派遣、契約等）
- 配偶者又はパートナーが会社・団体の役員（経営者以外）
- 配偶者又はパートナーが起業家・経営者（法人）
- 配偶者又はパートナーが自営業（家族従事者含む）
- 配偶者又はパートナーが家庭内職
- 配偶者又はパートナーがその他
- 無回答

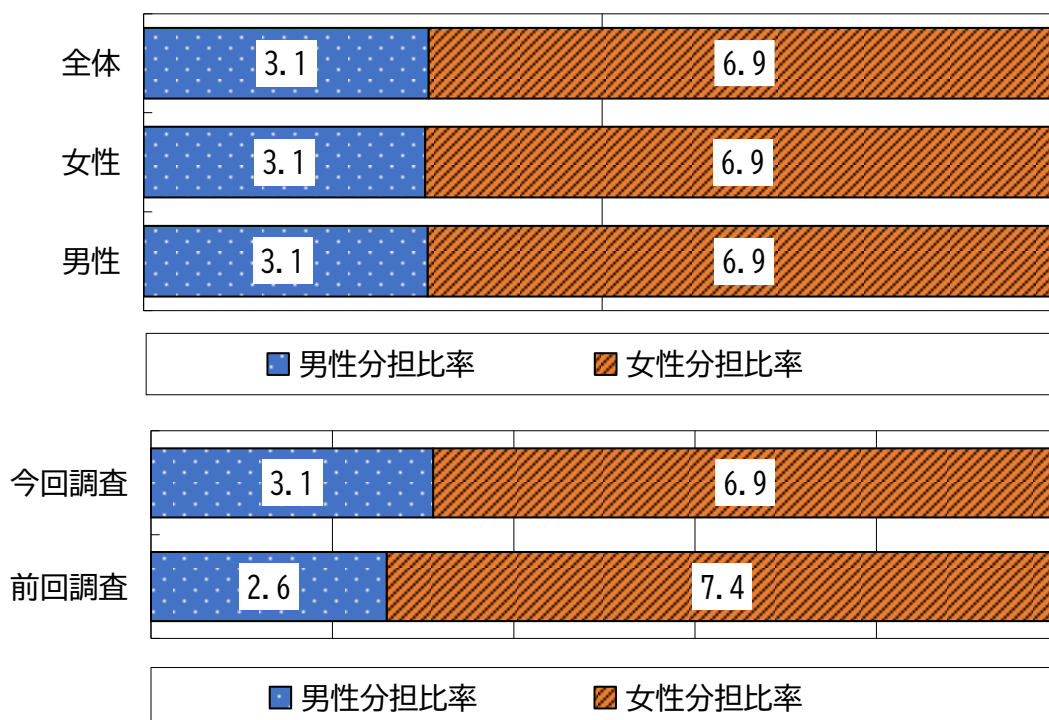
2-(4) 家事の分担比率

〔n=694〕 前回共通(一部変更)

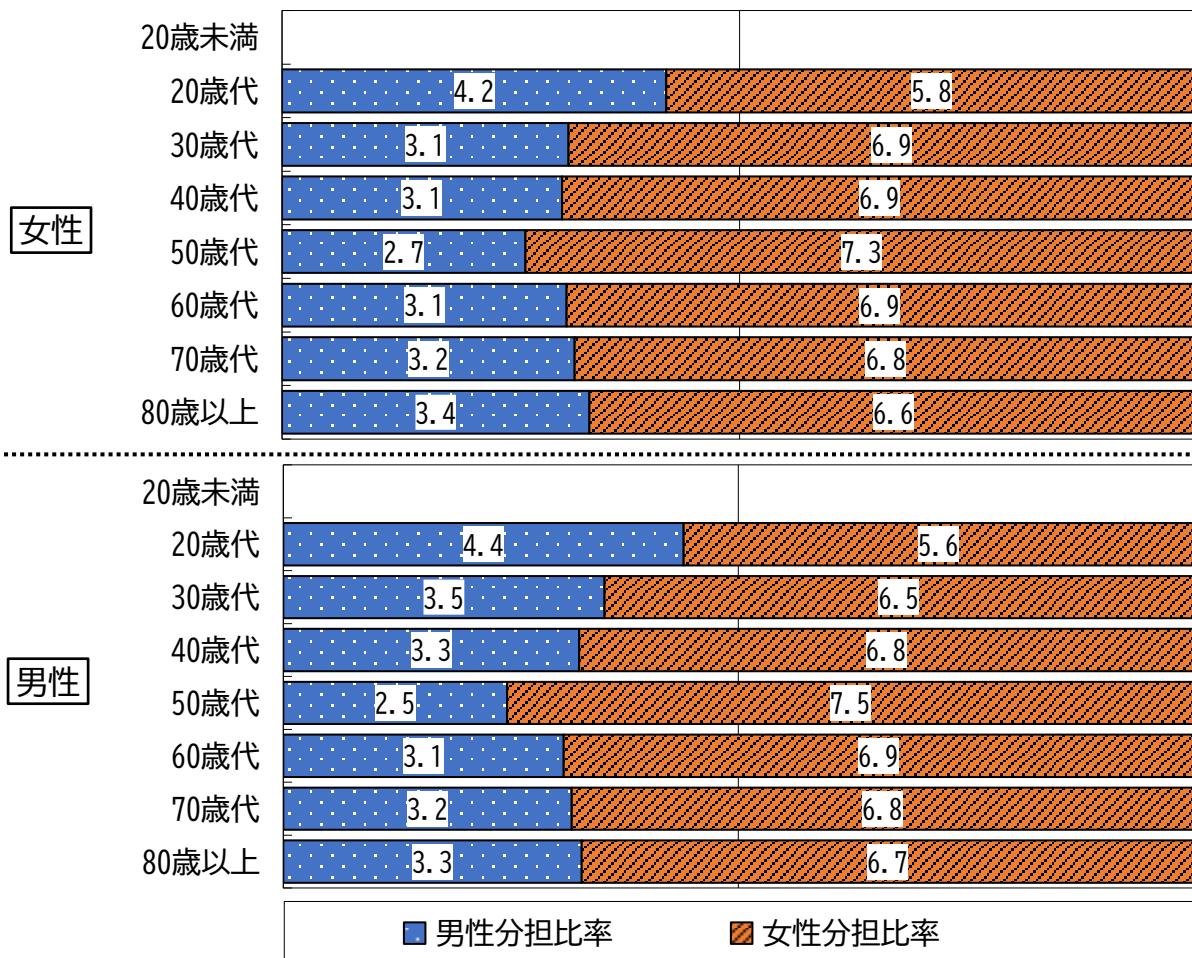
問6 【問3で「結婚している」、「結婚していないがパートナーと暮らしている」と回答された方におたずねします。】

あなたと配偶者又はパートナーとの家事(育児や介護を含む)の分担比率はどの程度ですか。下記表にご記入ください。

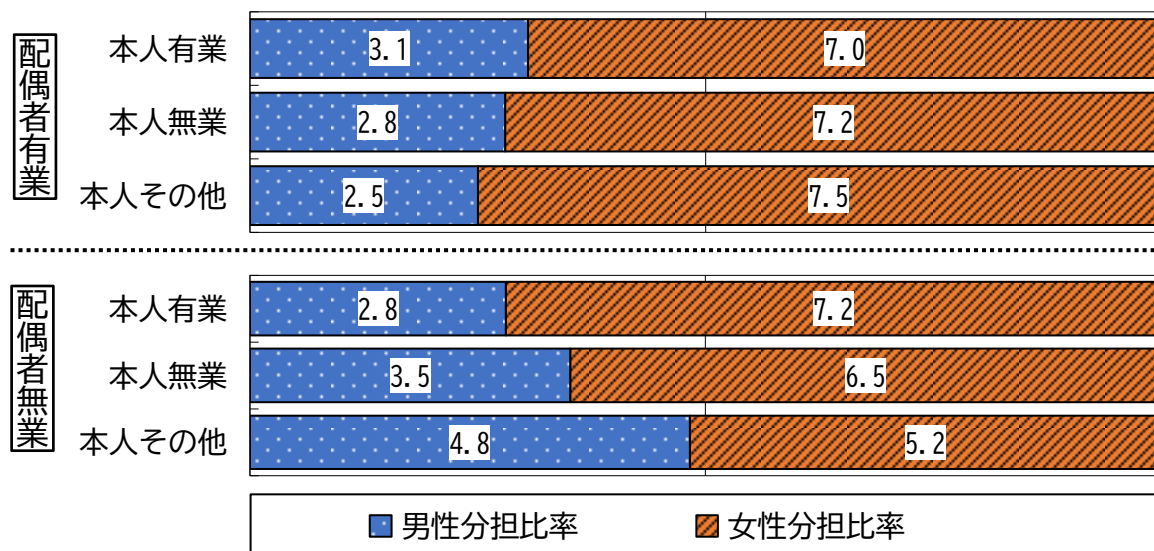
- ◆家事の分担比率は、男性3.1に対し、女性6.9となっている。
- ◆性別にみると、家事の分担比率は性別でほとんど差はみられない。
- ◆前回調査に比べ、男性の家事分担率がわずかに増加した。
- ◆本人就業有無・配偶者就業有無別にみると、本人・配偶者の一方が有業、もう一方が無業またはその他の場合、女性の家事の分担割合が高くなっている。一方、本人・配偶者ともに無業の場合、男性の家事の分担割合が高くなっており、特に、一方が無業、もう一方がその他の場合、家事の分担割合は半々となっている。



性・年齢別



本人就業有無×配偶者就業有無別



2-(5) 結婚や家庭に対する考え方

〔n=1,138〕 前回共通

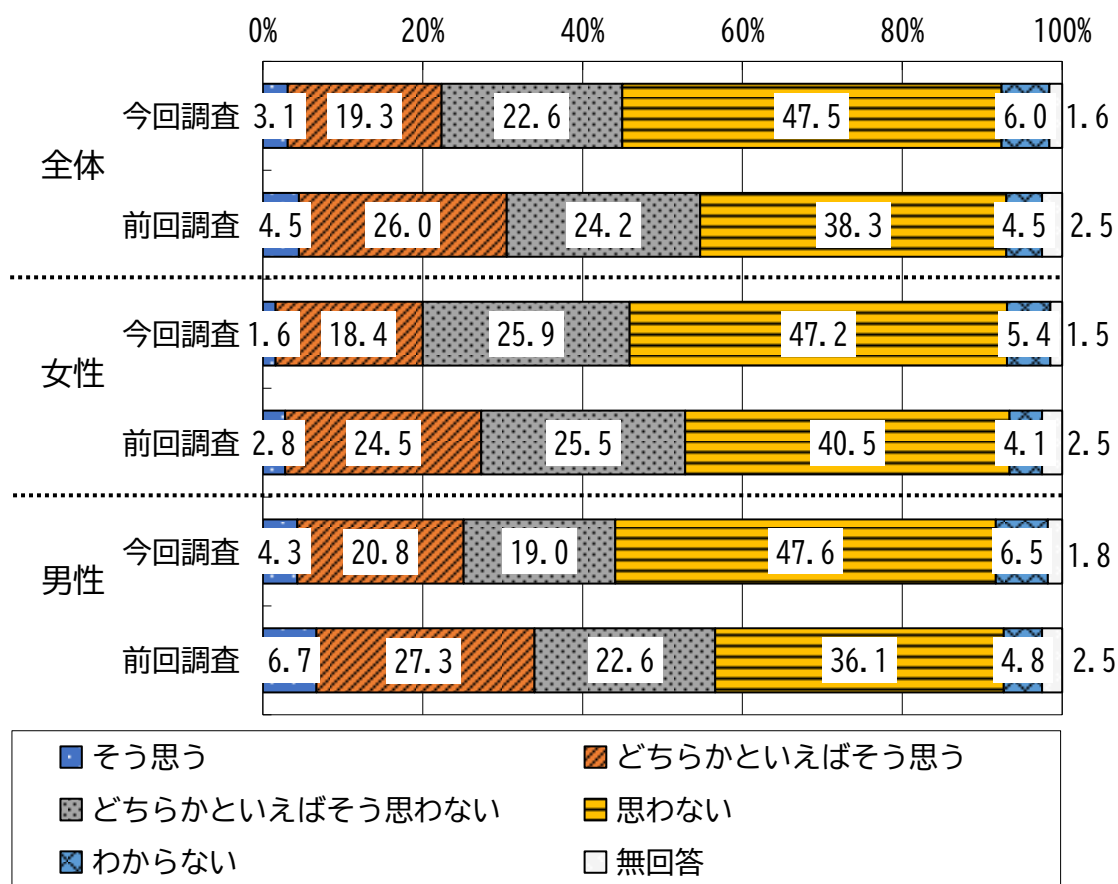
問7 【すべての方におたずねします。】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

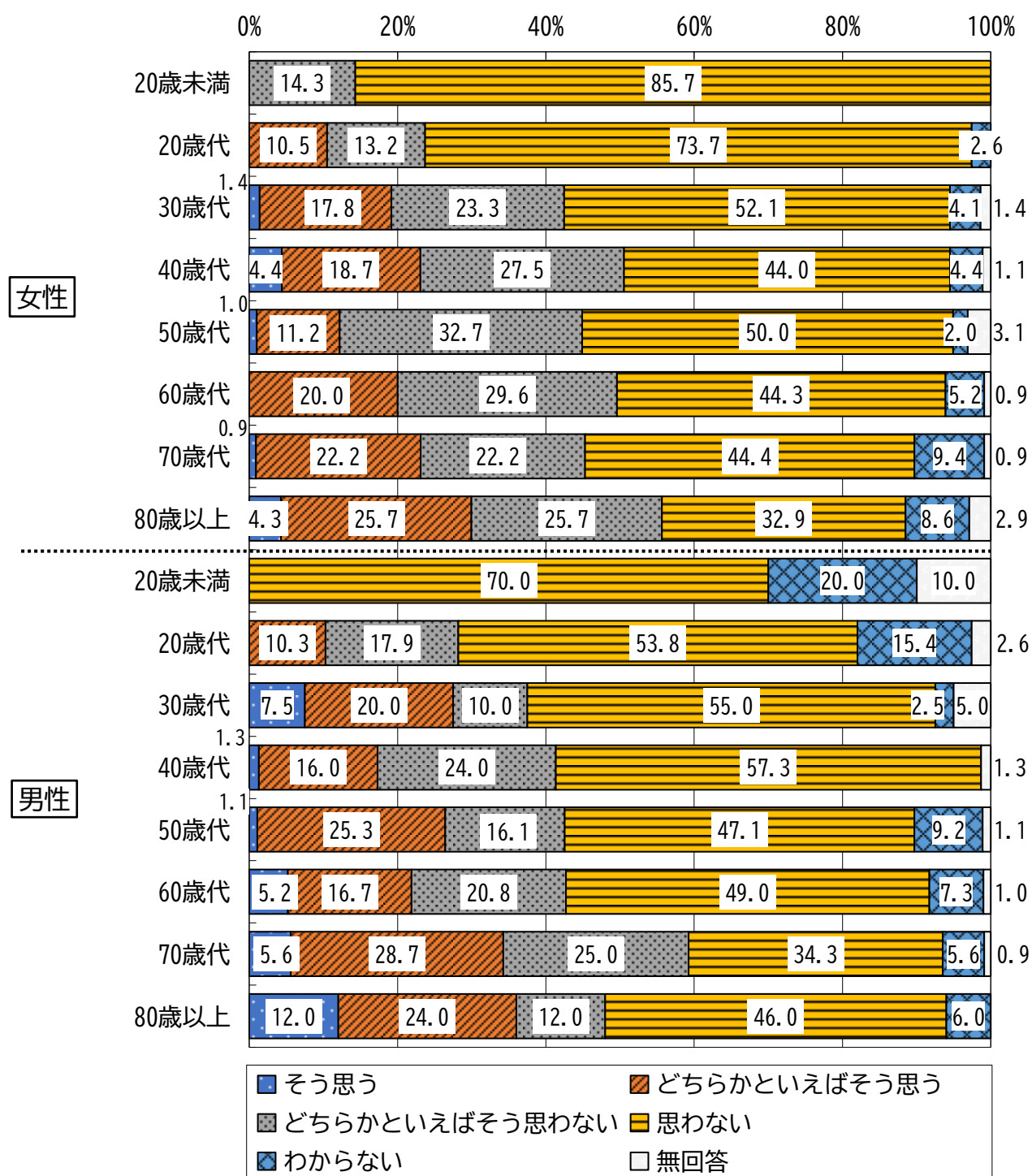
- ◆「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてたずねたところ、『そう思う』※2の割合が22.4%と前回調査から8.1ポイント減少しており、男女の固定的な役割分担意識に変化がみられる。
- ◆性別にみると、全体結果と同様に『そう思う』が女性では7.3ポイント、男性では8.9ポイント、それぞれ減少している。
- ◆性・年齢別にみると、男女ともに若い世代の方が『そう思わない』※3傾向にあり、特に母数は少ないものの、20歳未満の女性では100%、20歳代の女性では9割近くを占める。また、女性は30～70歳代においても、男性は30～60歳代においても、6割以上が『そう思わない』と答えている。一方で、女性は40歳代、60歳代以上、男性は30歳代、50歳代以上の2割以上が「そう思う」傾向にある。

※2「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計

※3「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の計



性・年齢別



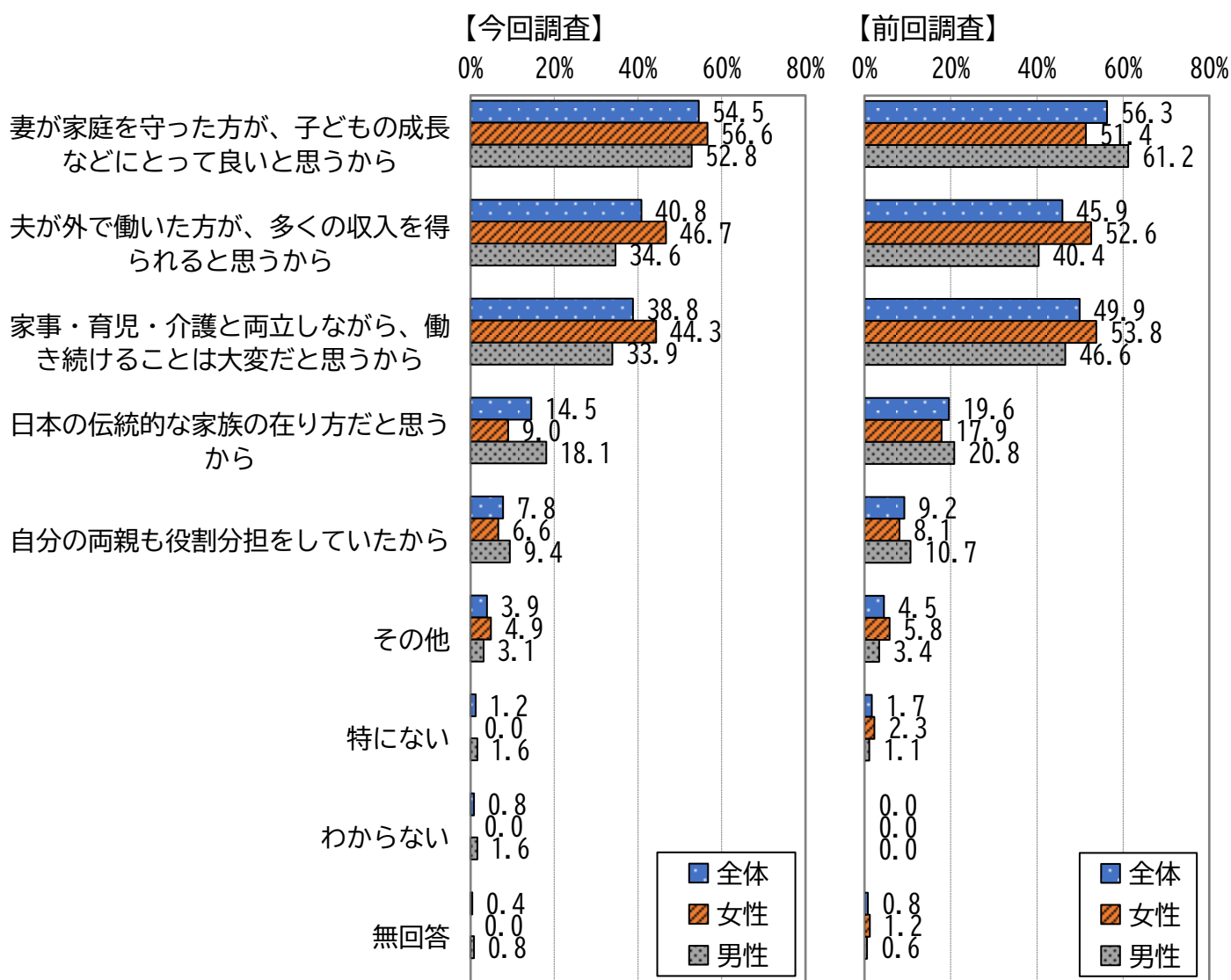
2-(6) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う理由

〔n = 255〕 前回共通

問8 【問7で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答された方におたずねします。】

そう考えるのはどのような理由ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について『そう思う』理由は、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が54.5%と最も高く、次いで、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(40.8%)、「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」(38.8%)と続いている。前回調査から「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」は11.1ポイント減少している。
- ◆性別にみると、男女ともに「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が最も高い。また、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」は女性が男性を12.1ポイント、「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」は10.4ポイント上回る一方、「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」は男性が女性を9.1ポイント上回っている。



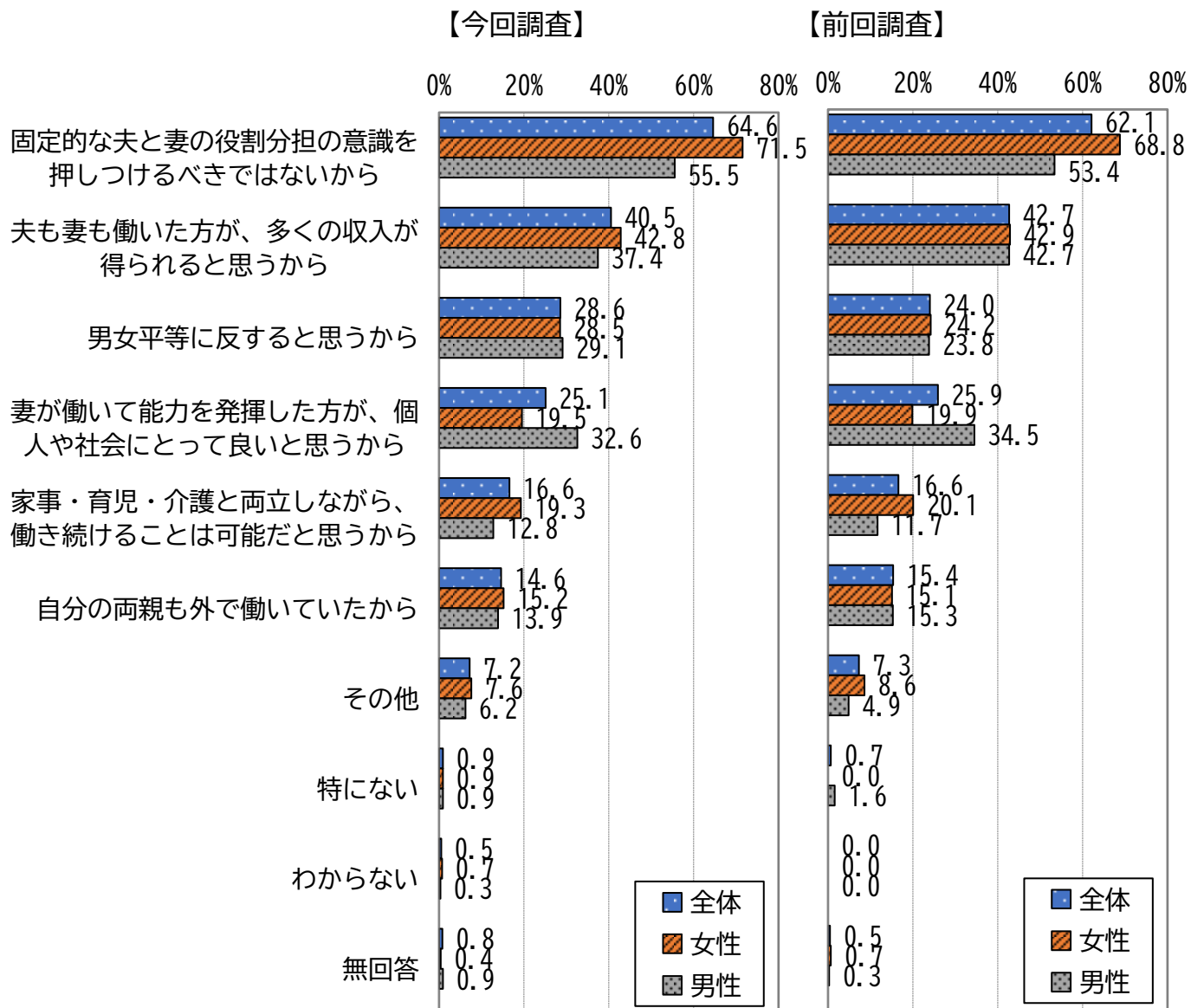
2-(7) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思わない理由

〔n = 797〕 前回共通

問9 【問7で「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と回答された方におたずねします。】

そう考えるのはどのような理由ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について『そう思わない』理由は、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が64.6%と最も高く、次いで、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」(40.5%)、「男女平等に反すると思うから」(28.6%)と続いている。前回調査から「男女平等に反すると思うから」は4.6ポイント増加している。
- ◆性別にみると、女性では「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が16.0ポイント、「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは可能だと思うから」が6.5ポイント、男性を上回っている。一方、男性では「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が13.1ポイント女性を上回っている。



2-(8) 男性が家事育児に参加するために必要なこと

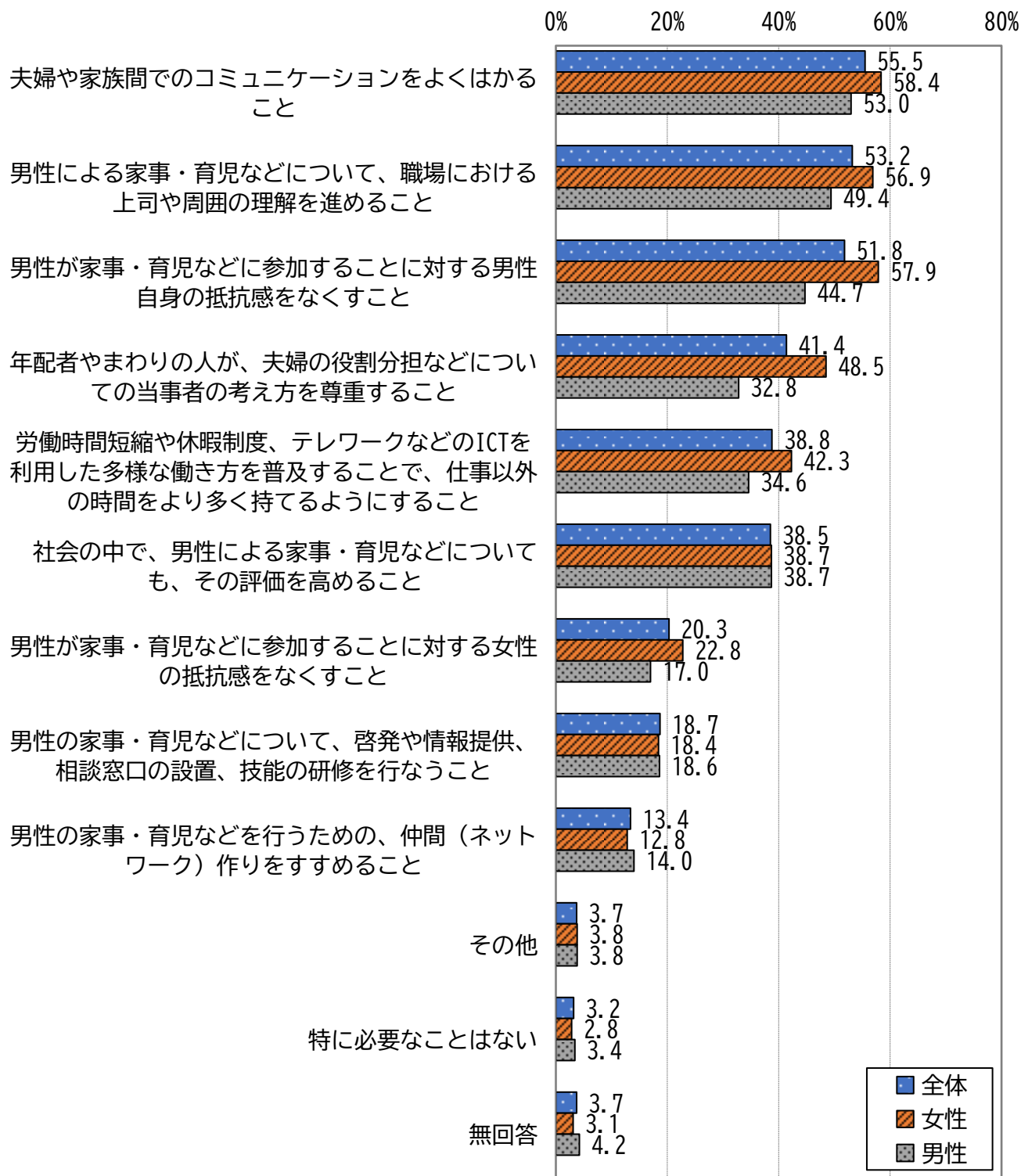
〔n=1,138〕 前回共通

問10 【すべての方におたずねします。】

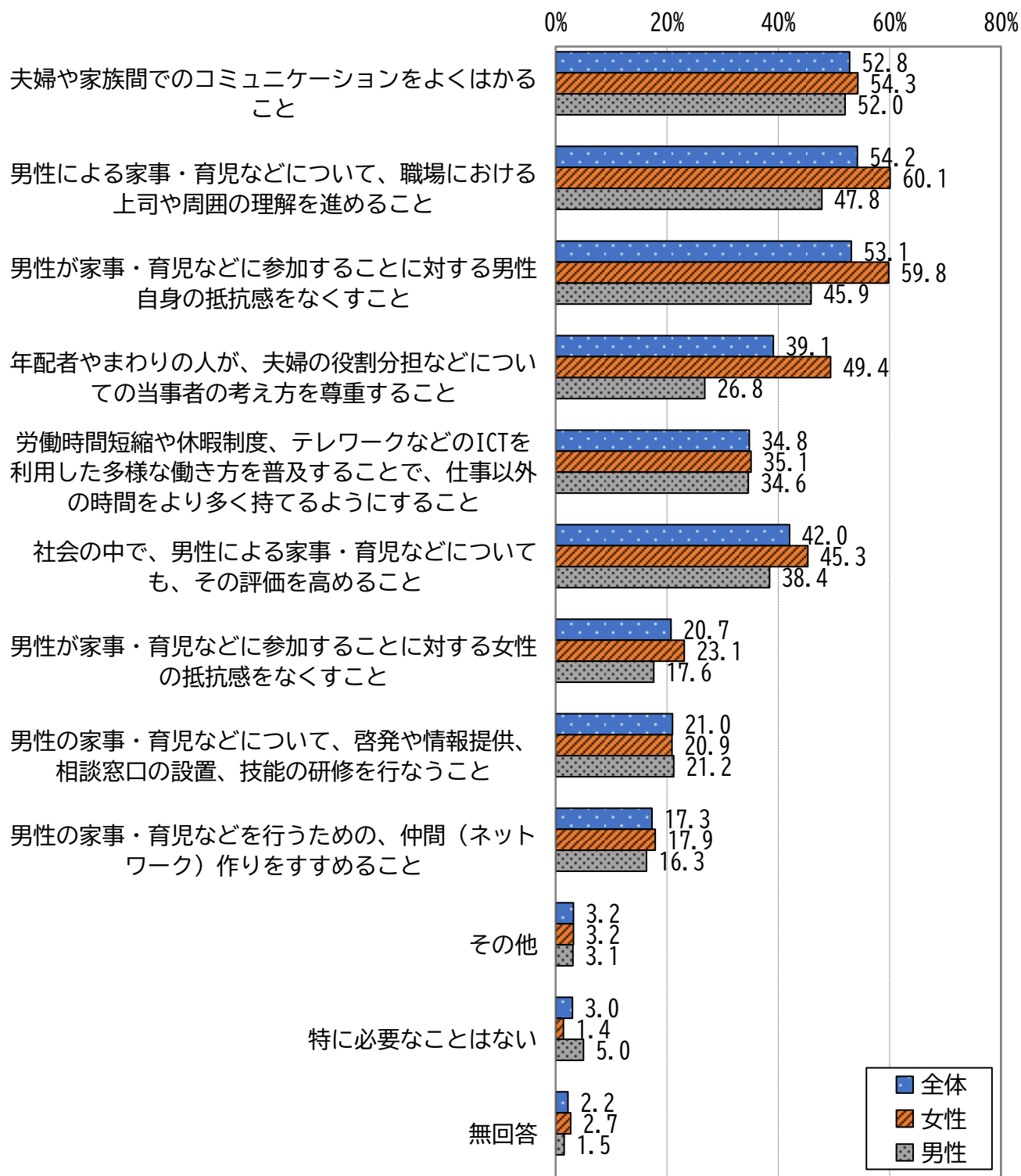
今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(55.5%)、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」(53.2%)、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(51.8%)が僅差で高くなっている。
- ◆性別にみると、男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高くなっている。また、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」では女性が男性を15.7ポイント、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」では13.2ポイント上回っている。一方、男性が女性を上回った項目として、「男性の家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること」、「男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行なうこと」、「特に必要なことはない」が挙げられる。

今回調査



前回調査



3 職業生活について

3-(1) 現在の就業形態

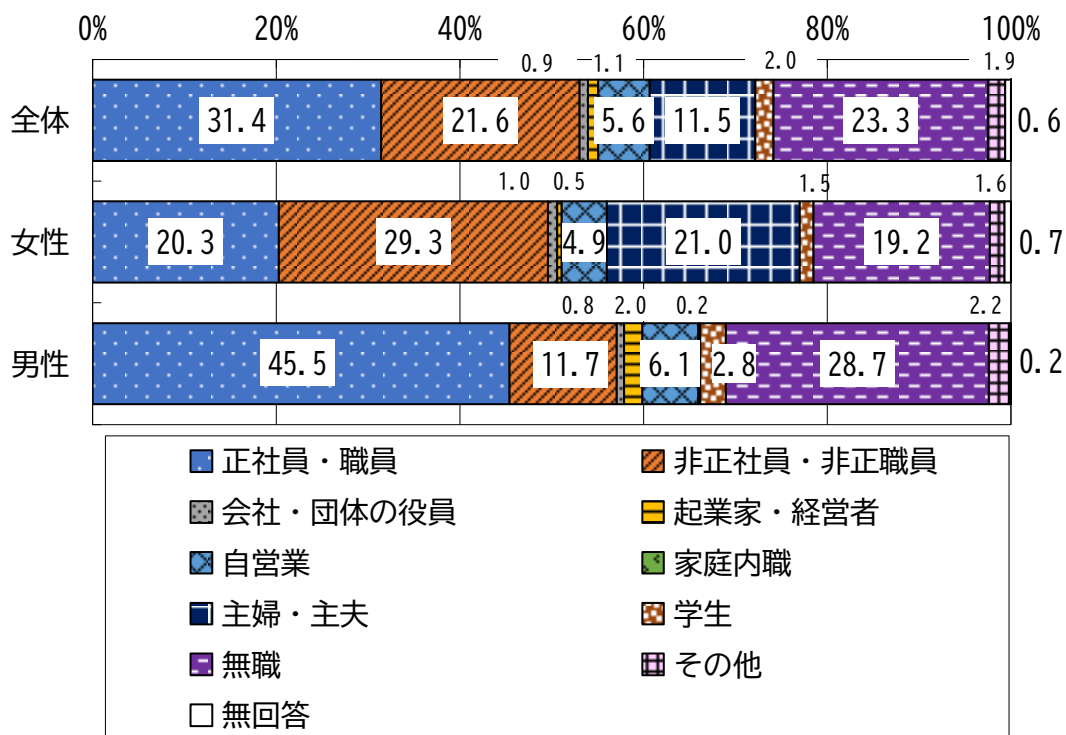
〔n=1,138〕 前回共通

問11 【すべての方におたずねします。】

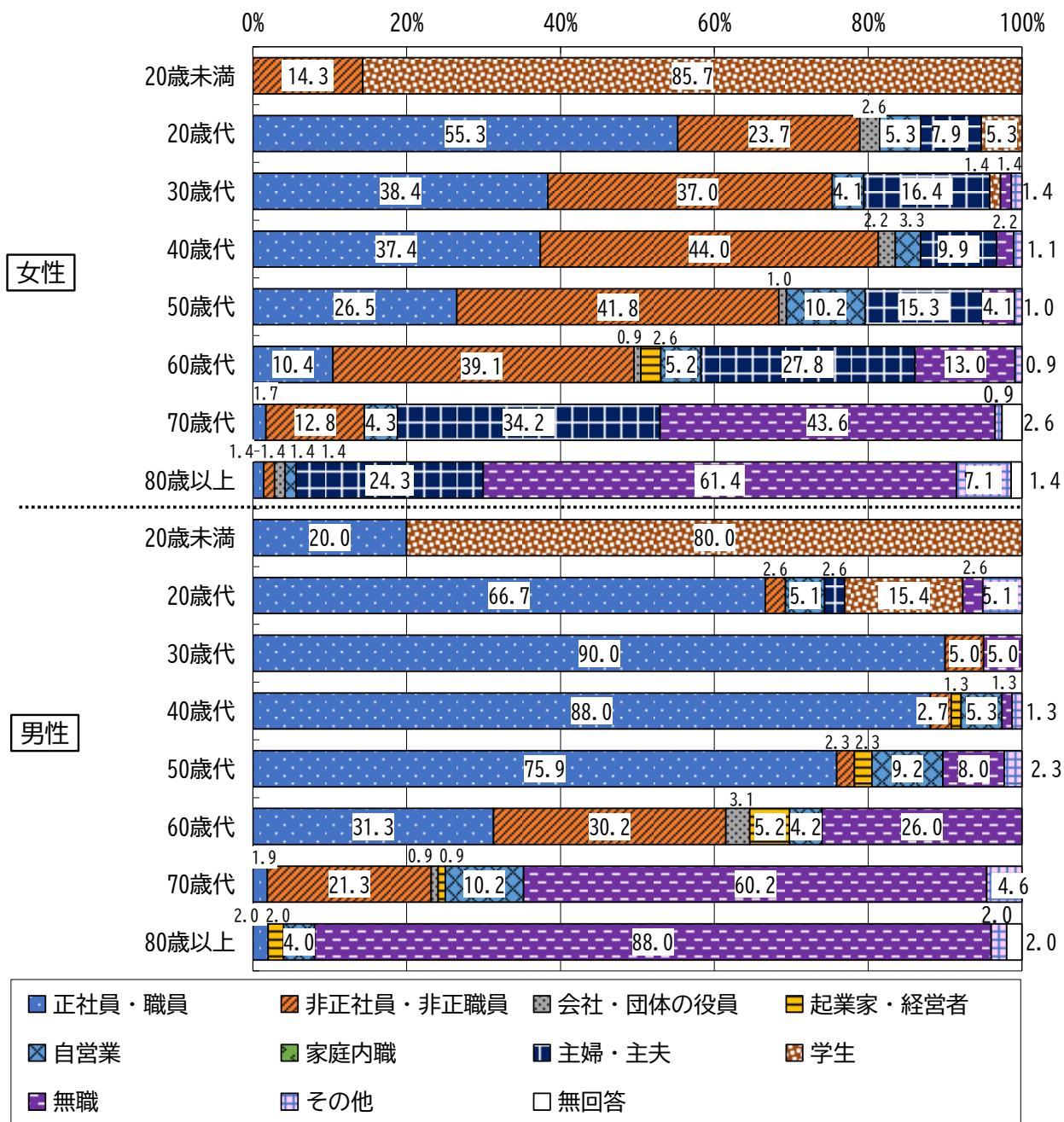
あなたは現在どのような仕事についていますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆「正社員・職員」が31.4%と最も高く、次いで、「無職」(23.3%)、「非正社員・非正職員」(21.6%)と続いている。
- ◆性別にみると、女性では「非正社員・非正職員」が、男性では「正社員・職員」が、それぞれ最も高い。
- ◆『有業』※4割合は全体で60.6%、男性で66.1%、女性で56.0%となっている。
- ◆性・年齢別にみると、女性は年代が上がるほど「正社員・職員」の割合が減少傾向になる。それに対し男性は、30～50歳代まで大きな変動はない。
- ◆性・子どもの年代別にみると、子どもが未成年の場合の有業割合は女性が82.1%、男性が96.8%となっており、それほど大きな差はない。しかし、就業形態の内訳をみると、男性は8割以上が「正社員・職員」に対し、女性は約3割が「正社員・職員」である。また、子どもが「就学前」では、女性の「主婦」割合は20.0%と、未成年の子どもを持つ年代の中で最も高い。

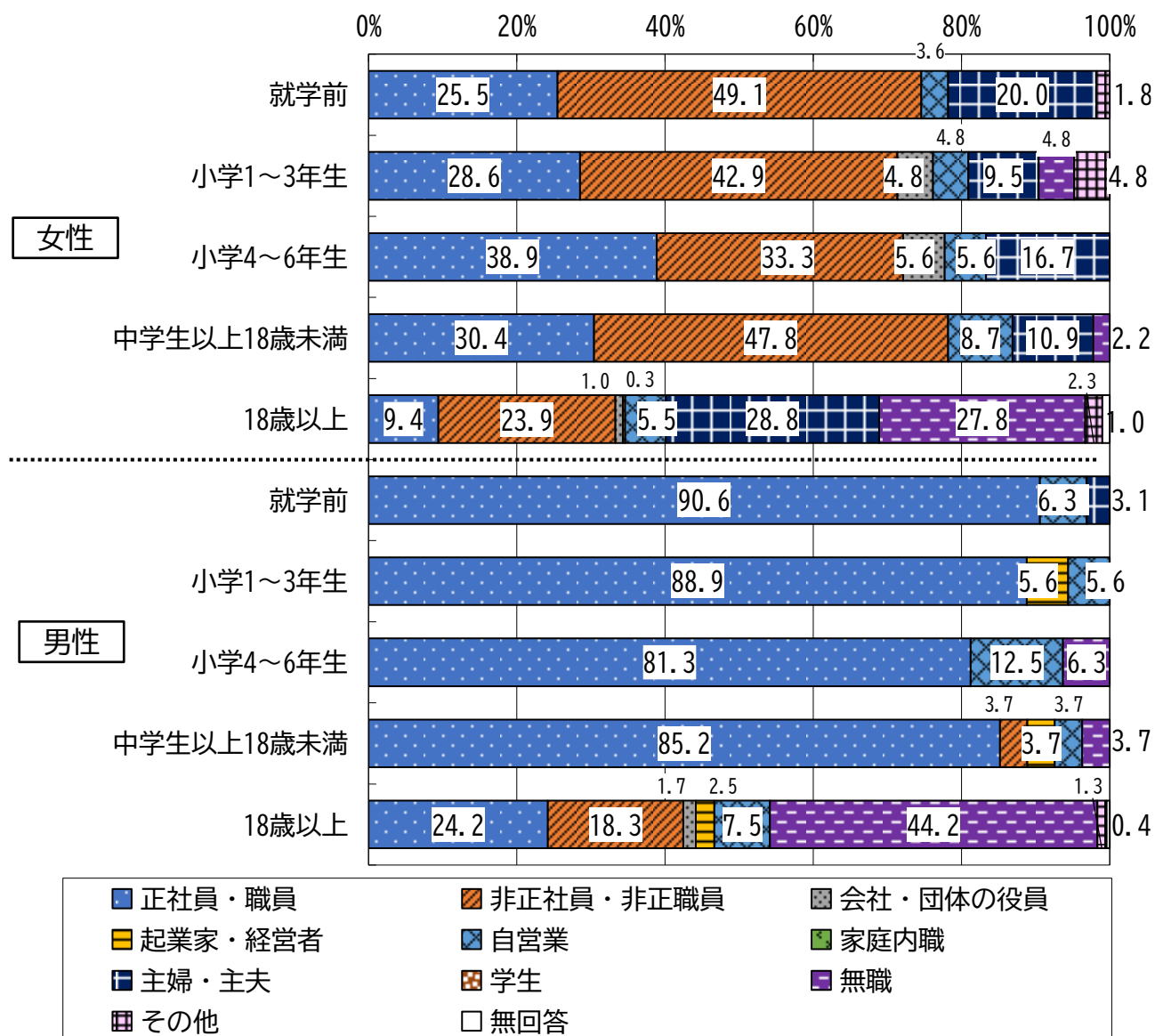
※4有業：「正社員・職員」「非正社員・非正職員」「会社・団体の役員」「起業家・経営者」「自営業」「家庭内職」の計



性・年齢別



性・子どもの年代(一番下の子ども)別



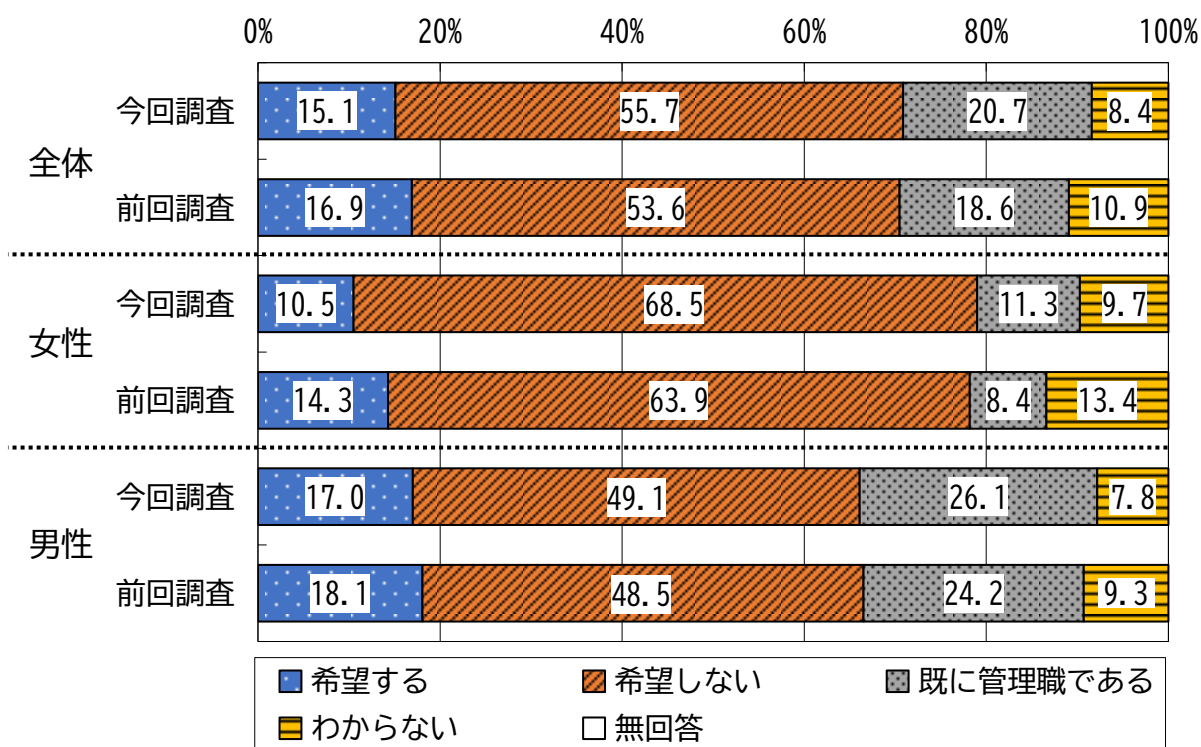
3-(2) 管理職への昇格希望

〔n=357〕 前回共通

問12 【問11で「正社員・職員」と回答された方におたずねします。】

あなたは現在、管理職(課長相当職以上)への昇格を希望していますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆管理職への昇格を希望しているかどうかについては、「希望する」は15.1%、「希望しない」は55.7%となっている。また、「既に管理職である」は20.7%となっている。前回調査から「希望する」は1.8ポイント減少した。
- ◆性別にみると、男性では「希望する」が17.0%と、女性の10.5%を6.5ポイント上回っている。「既に管理職である」も性が女性を14.8ポイント上回っている。一方、「希望しない」は女性では68.5%と、男性の49.1%を19.4ポイント上回っている。前回調査から「希望する」は女性が3.8ポイント、男性が1.1ポイント減少した。



3-(3) 管理職への昇格を希望する理由

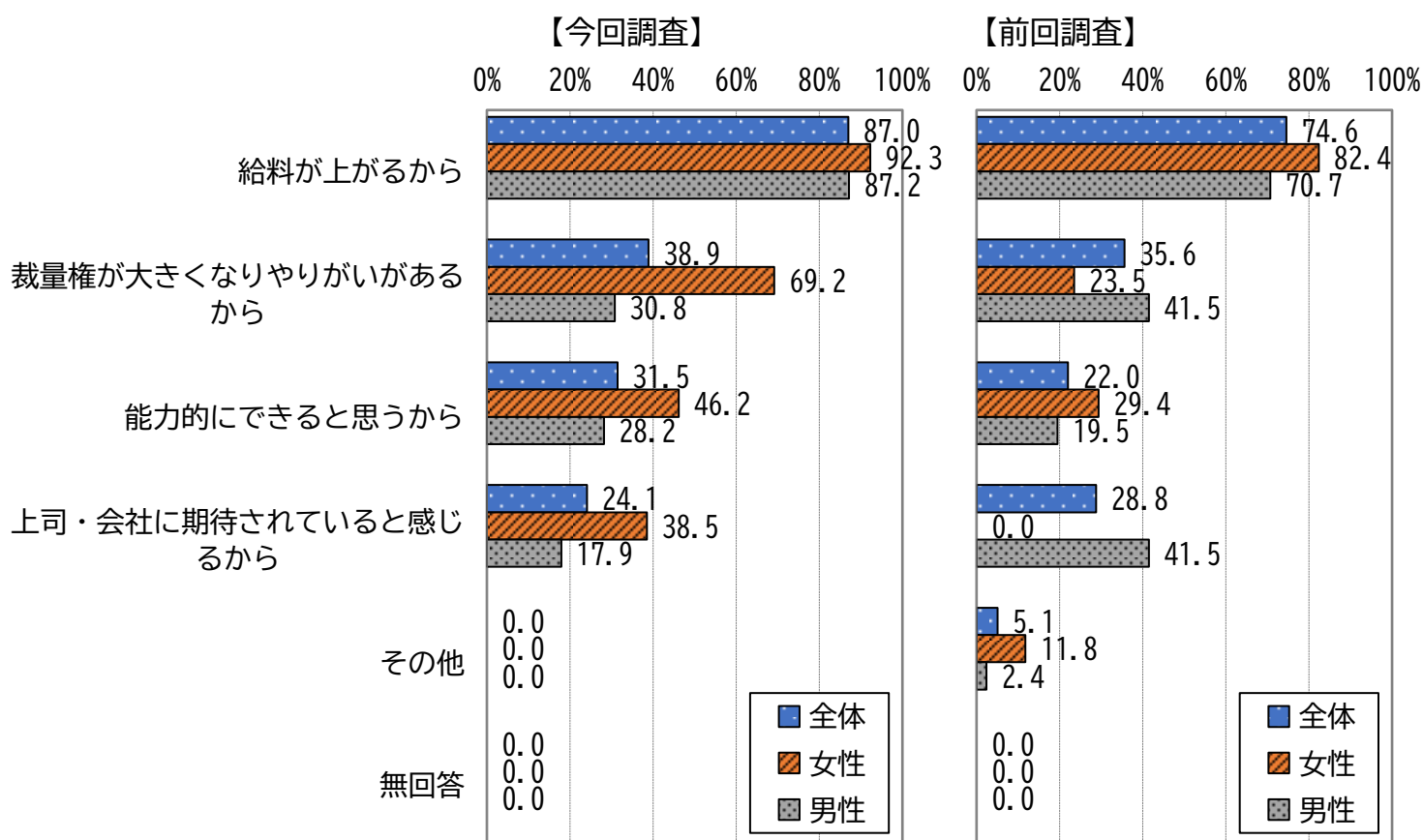
〔n=54〕 前回共通

問13 【問12で「希望する」と回答された方におたずねします。】

その理由をお答えください。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

◆管理職への昇格を希望する理由については、「給料が上がるから」が87.0%と突出して高く、次いで、「裁量権が大きくなりやりがいがあるから」(38.9%)、「能力的にできると思うから」(31.5%)と続いている。前回調査から「給料が上がるから」は12.4ポイント増加した。

◆性別にみると、「裁量権が大きくなりやりがいがあるから」では女性が男性を38.4ポイント、「上司・会社に期待されていると感じるから」では20.6ポイント上回っている。



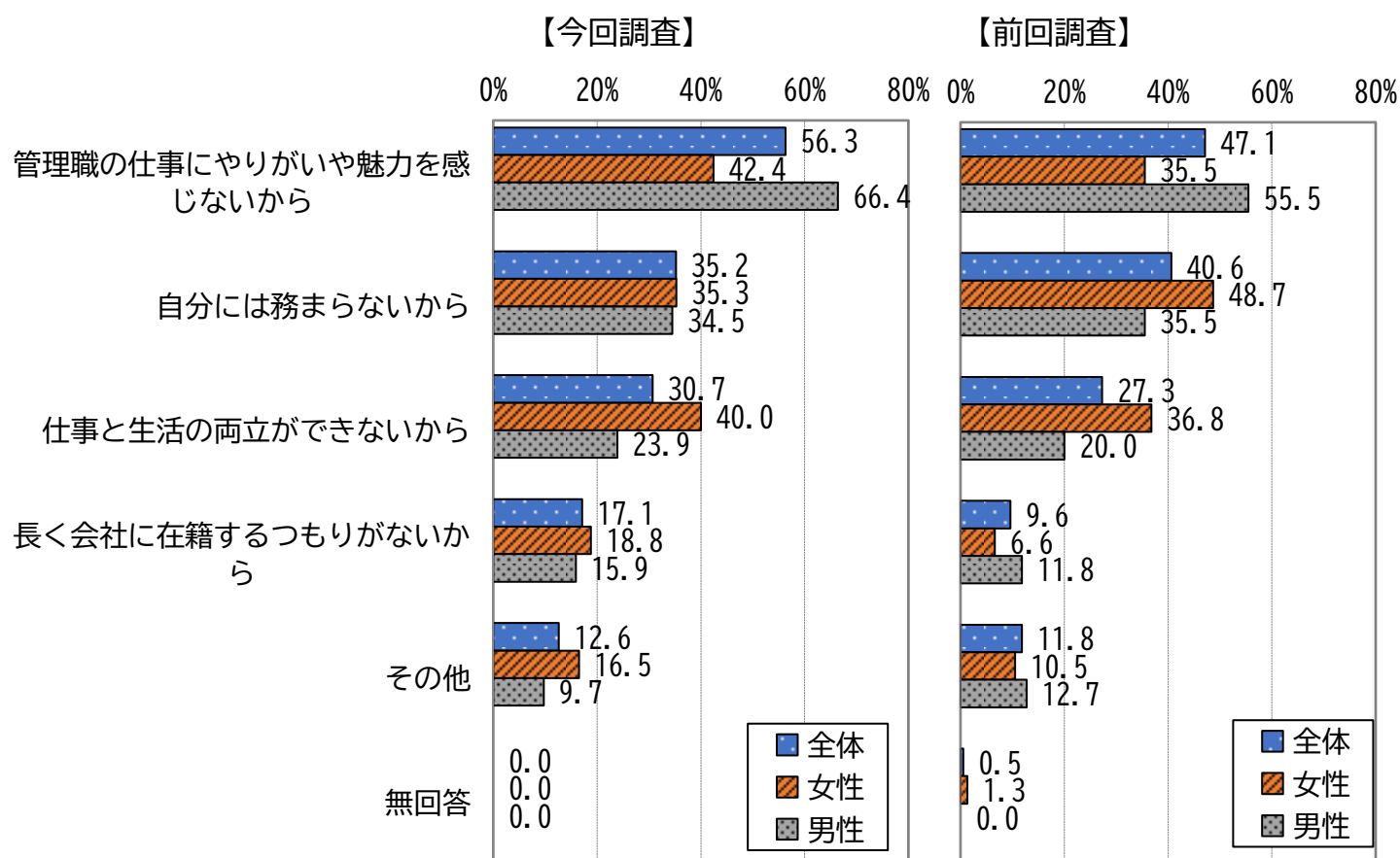
3-(4) 管理職への昇格を希望しない理由

〔n=199〕 前回共通

問14 【問12で「希望しない」と回答された方におたずねします。】

その理由をお答えください。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆管理職への昇格を希望しない理由については、「管理職の仕事にやりがいや魅力を感じないから」が56.3%と最も高く、次いで、「自分には務まらないから」(35.2%)、「仕事と生活の両立ができないから」(30.7%)と続いている。前回調査から「管理職の仕事にやりがいや魅力を感じないから」は9.2ポイント、「長く会社に在籍するつもりがないから」は7.5ポイント増加する一方、「自分には務まらないから」は5.4ポイント減少した。
- ◆性別にみると、男女ともに「管理職の仕事にやりがいや魅力を感じないから」が最も高く、次いで、女性では「仕事と生活の両立ができないから」、男性では「自分には務まらないから」となっている。



3-(5) 職場における男性の育児休業の取りやすさ

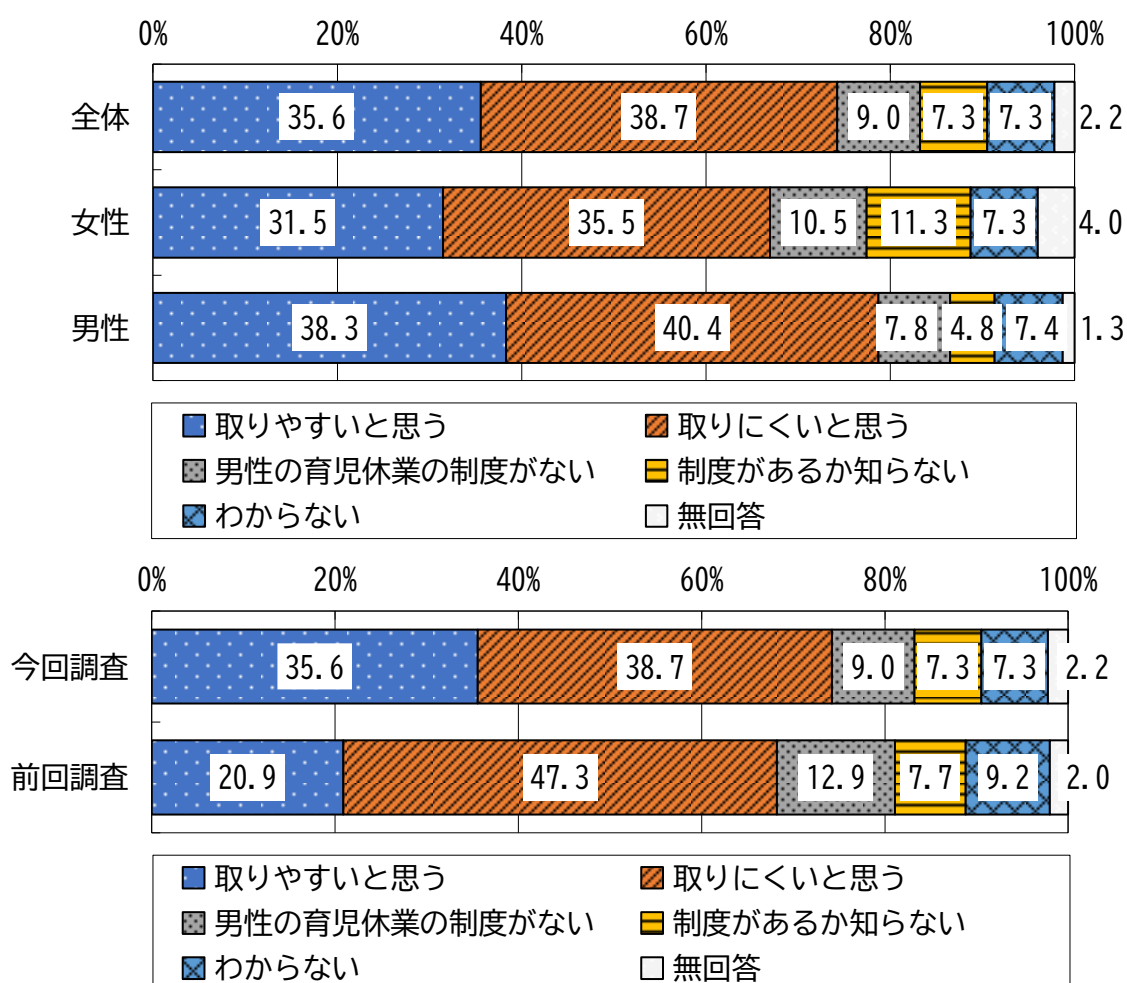
〔n=357〕 前回共通

問15 【問11で「正社員・職員」と回答された方におたずねします。】

あなたの職場では、男性は育児休業を取りやすいと思いますか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆男性の育児休業の取りやすさについては、「取りにくいと思う」が38.7%を占め、「取りやすいと思う」は35.6%と僅差で続いている。一方、「男性の育児休業の制度がない」は9.0%、「制度があるか知らない」は7.3%となっている。前回調査から「取りやすいと思う」は14.7ポイント増加した。

◆性別にみると、「取りやすいと思う」は男性が女性を6.8ポイント上回っており、また、「取りにくいと思う」についても男性が女性を4.9ポイント上回っている。



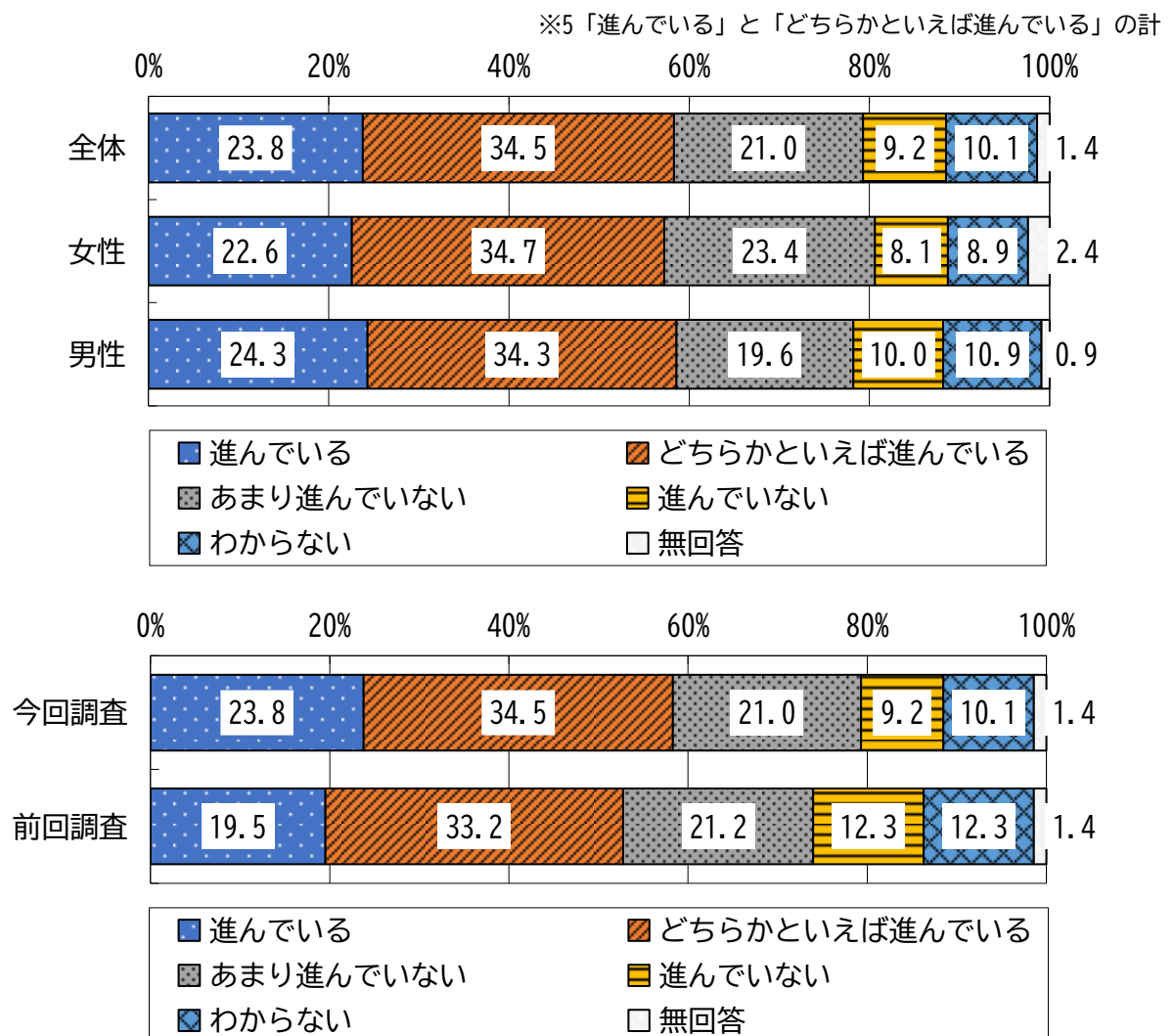
3-(6) 女性活躍の取り組みの進捗状況

〔n=357〕 前回共通

問16 【問11で「正社員・職員」と回答された方におたずねします。】

あなたの職場で女性活躍の取り組みは進んでいると思いますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆職場で女性活躍の取り組みが進んでいると思うかどうかについては、『進んでいる』※5が58.3%と過半数を占めており、前回調査から5.6ポイント増加した。
- ◆性別にみると、『進んでいる』は女性では57.3%、男性では58.6%と差はほとんどない。



3-(7) 女性活躍の取り組みが進まない理由

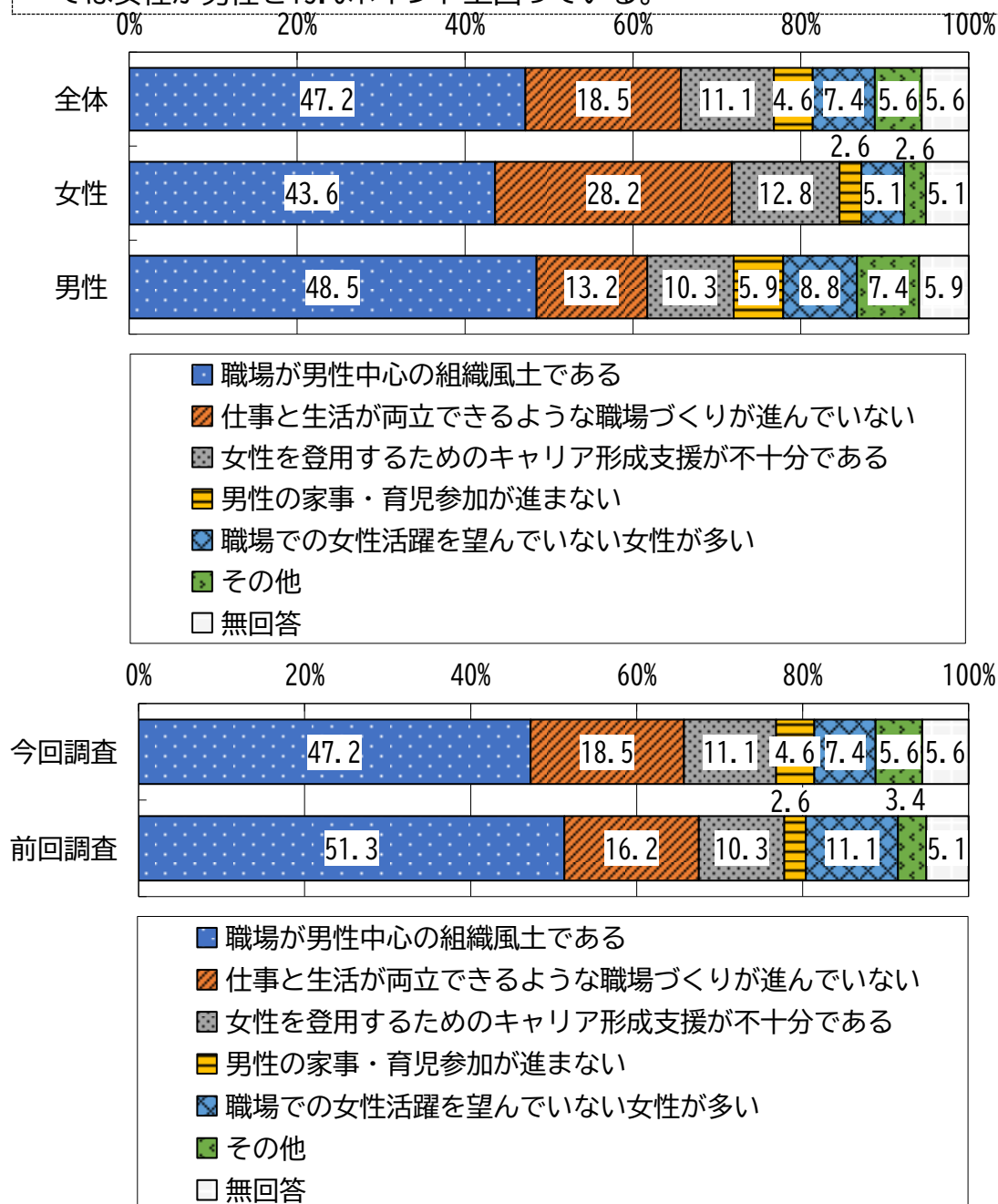
〔n=108〕 前回共通

問17 【問16で「あまり進んでいない」「進んでいない」と回答された方におたずねします。】

あなたは、職場で女性活躍の取り組みが進まないのはどのような理由からだと思いますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

◆職場で女性活躍の取り組みが進まない理由については、「職場が男性中心の組織風土である」が47.2%と約半数を占めている。次いで、「仕事と生活が両立できるような職場づくりが進んでいない」が18.5%、「女性を登用するためのキャリア形成支援が不十分である」が11.1%と続いている。前回調査から「職場が男性中心の組織風土である」は4.1ポイント減少した。

◆性別にみると、「仕事と生活が両立できるような職場づくりが進んでいない」では女性が男性を15.0ポイント上回っている。



3-(8) テレワークの導入と利用について

〔n=690〕

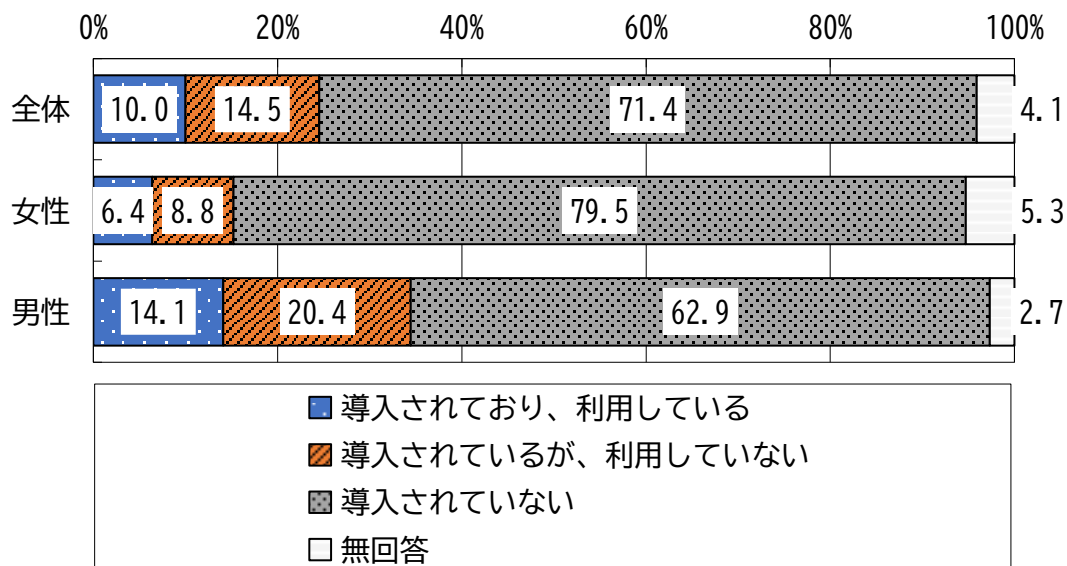
問18 【問11で「正社員・職員」～「自営業」のいずれかを回答された方におたずねします。】

あなたの職場では、テレワーク（在宅勤務）が導入されていますか。導入されている場合、あなたは利用していますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

◆職場でのテレワークの導入については、「導入されていない」が約7割を占めており、『導入されている』※6は合わせて2割強となっている。

◆性別にみると、「導入されていない」は女性が男性を16.6ポイント上回っている。

※6「導入されており、利用している」と「導入されているが、利用していない」の計

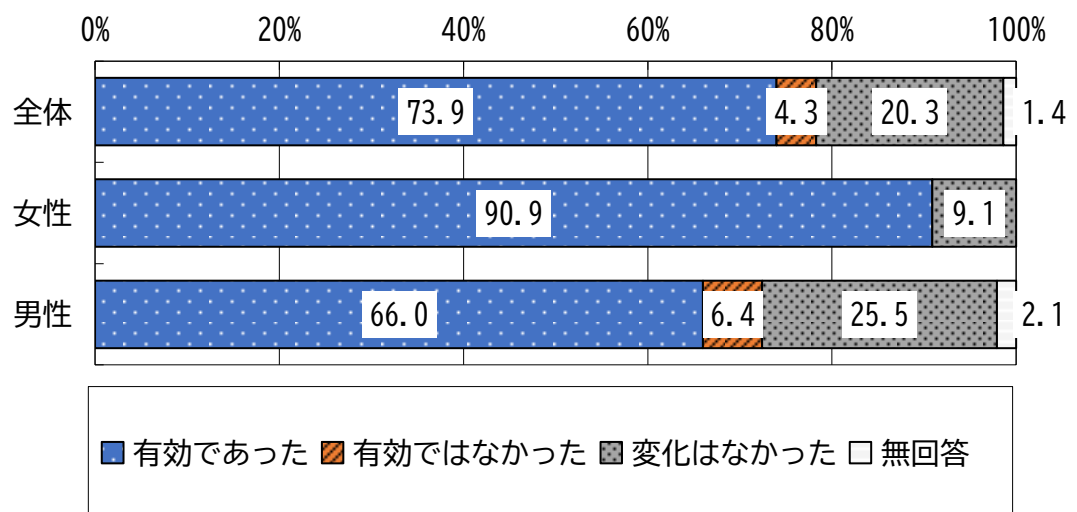


3-(9) テレワークの利用による家事・育児への効果について

[n=69]

問19 【問18で「導入されており、利用している」を回答された方におたずねします。】
テレワーク（在宅勤務）の利用は、家事・育児に有効に作用しましたか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆テレワークの利用が家事・育児に有効に作用したかどうかについては、「有効であった」が7割強を占めている。
- ◆性別にみると、「有効であった」では女性が男性を24.9ポイント上回る一方、「変化はなかった」では男性が女性を16.4ポイント上回っている。



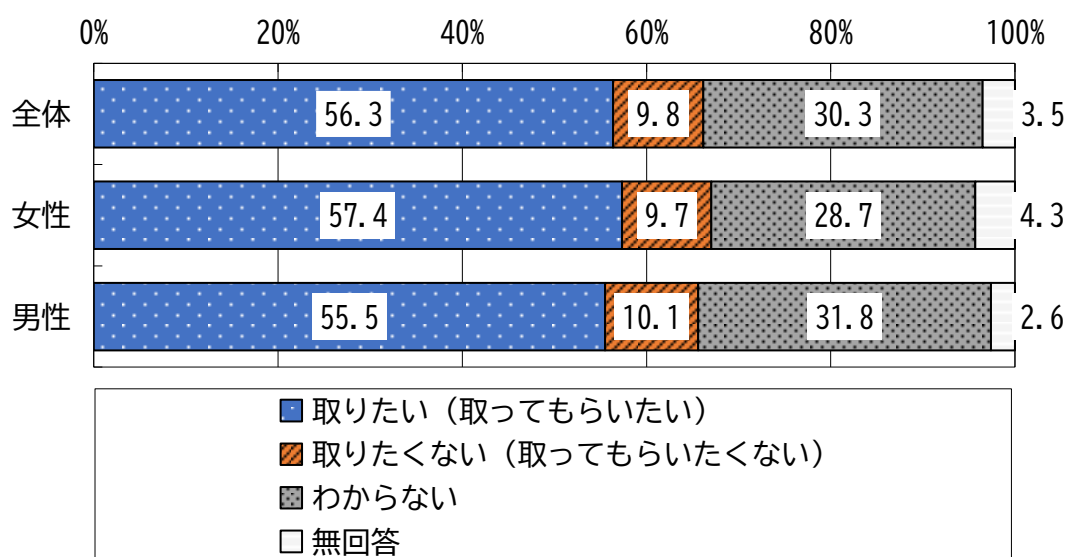
3-(10) 男性の育児休業について

[n=1,138]

問20 【すべての方におたずねします。】

男性の育児休業についてお尋ねします。もし、子どもが生まれたら、あなたは(夫に)育児休業を取りたい(取ってもらいたい)ですか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

- ◆子どもが生まれたら、育児休業を取りたい(取ってもらいたい)かどうかについては、過半数が「取りたい(取ってもらいたい)」と回答している。
- ◆性別にみると、「取りたい(取ってもらいたい)」は女性では57.4%、男性では55.5%と差はほとんどない。

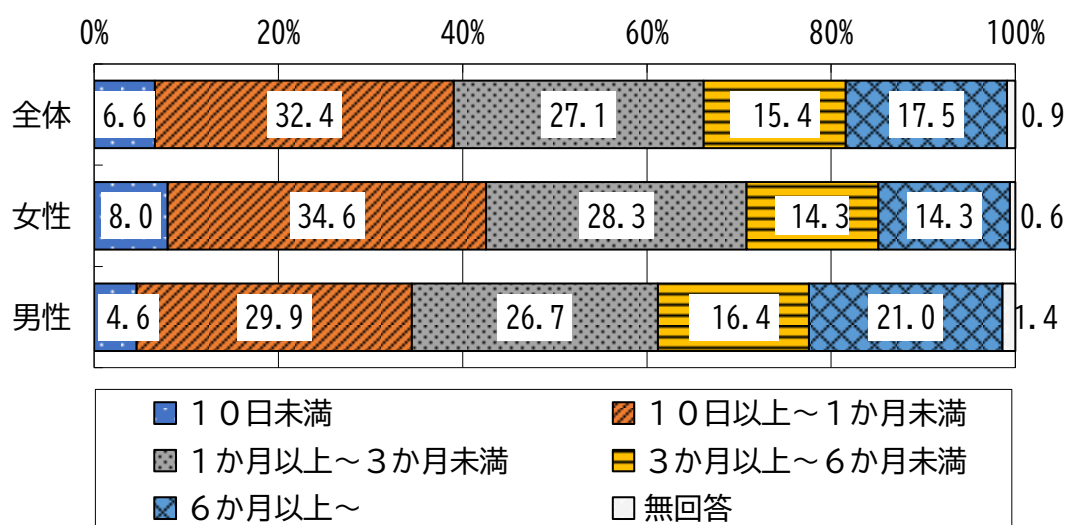


3-(11) 希望する男性の育児休業期間について

〔n = 641〕

問21 【問20で「取りたい（取ってもらいたい）」と回答された方におたずねします。】
育児休業を、どの程度の期間取りたい（取ってもらいたい）ですか。次の中から、
主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆希望する育児休業の期間については、「10日以上～1か月未満」が32.4%と最も高く、次いで、「1か月以上～3か月未満」（27.1%）、「6か月以上～」(17.5%)と続いている。
- ◆性別にみると、「3か月以上～6か月未満」、「6か月以上～」では男性が女性を上回っている。



3-(12) 育児休業を取りたくない（取ってもらいたくない）理由 について

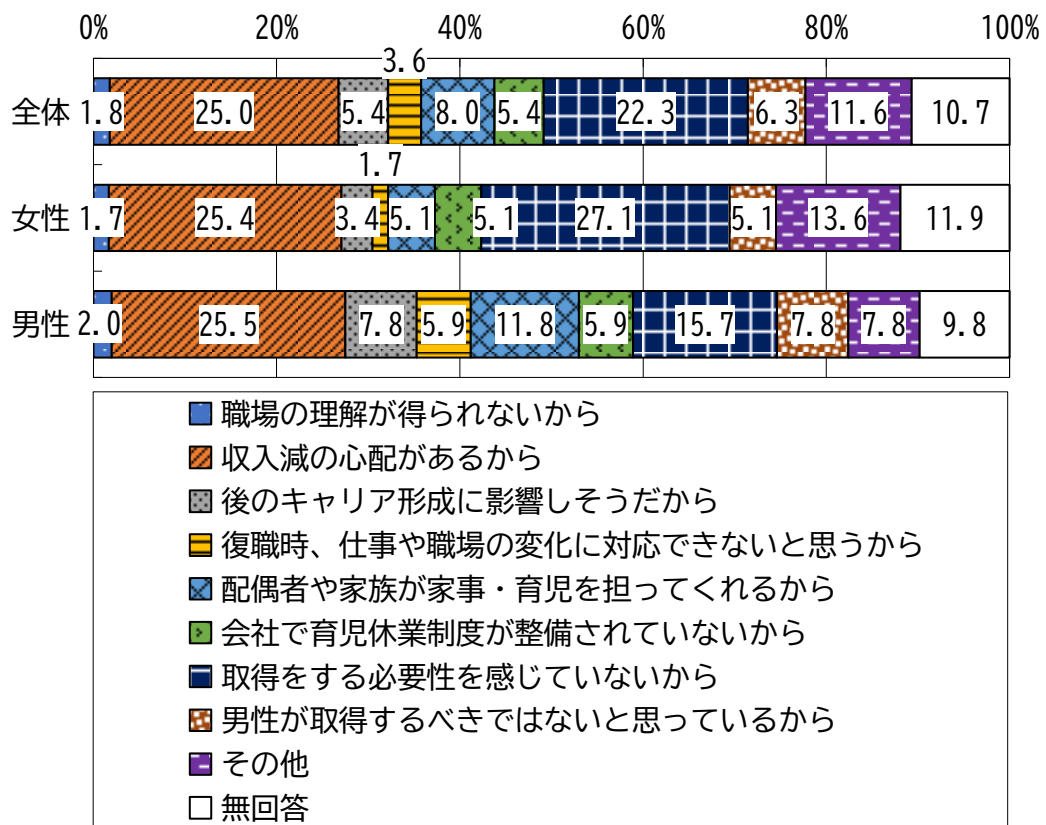
〔n=112〕

問22 【問20で「取りたくない（取ってもらいたくない）」と回答された方におたずねします。】

取りたくない（取ってもらいたくない）と回答されたのはどのような理由からですか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

◆育児休業を取りたくない（取ってもらいたくない）理由については、「収入減の心配があるから」が25.0%と最も高く、次いで、「取得をする必要性を感じていないから」（22.3%）と続いている。

◆性別にみると、「取得をする必要性を感じていないから」では女性が男性を11.4ポイント上回っている。一方、「配偶者や家族が家事・育児を担ってくれるから」では男性が女性を6.7ポイント上回っている。



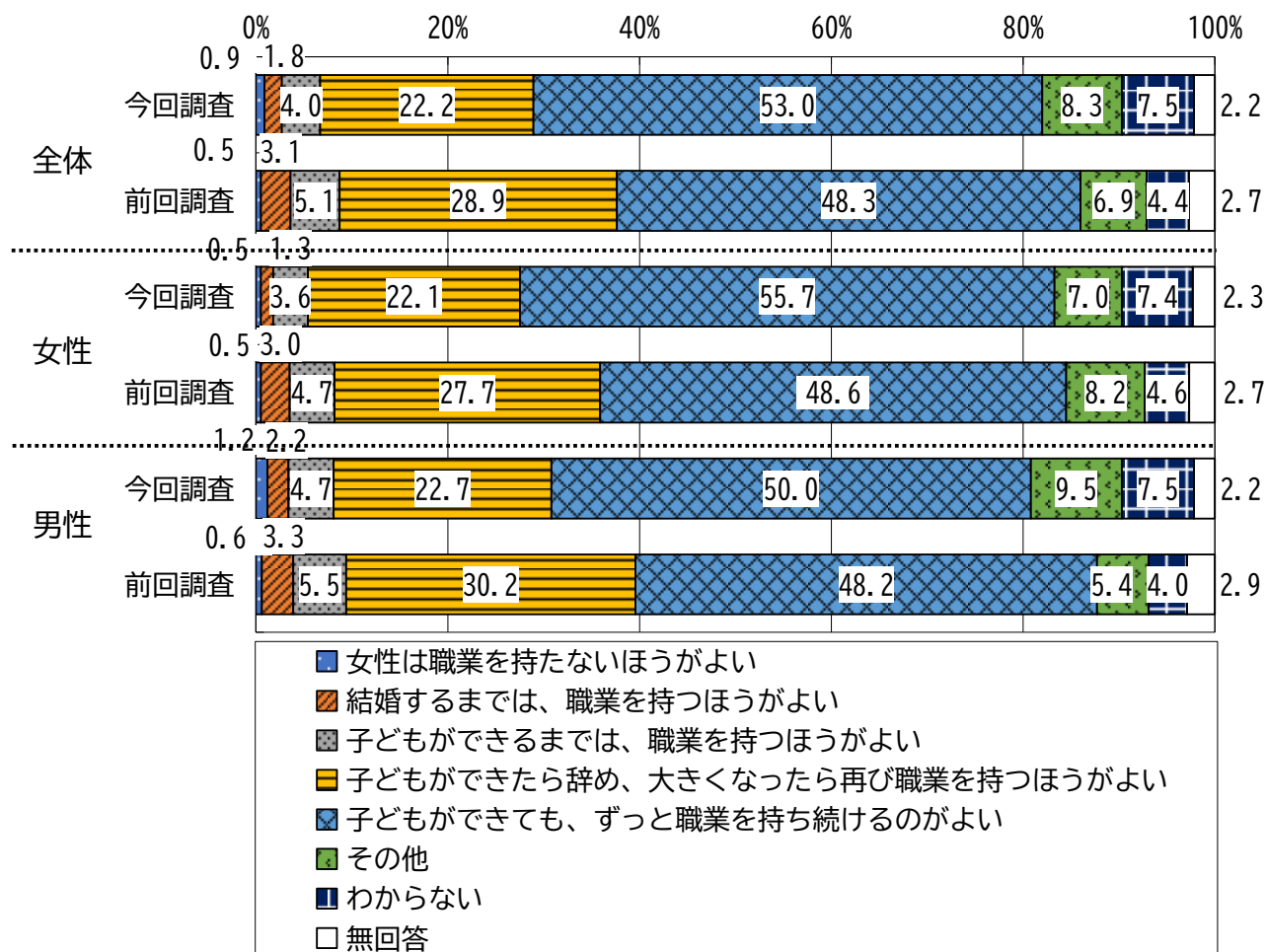
3-(13) 女性が職業を持つことについての考え方

[n=1,138] 前回共通(一部変更)

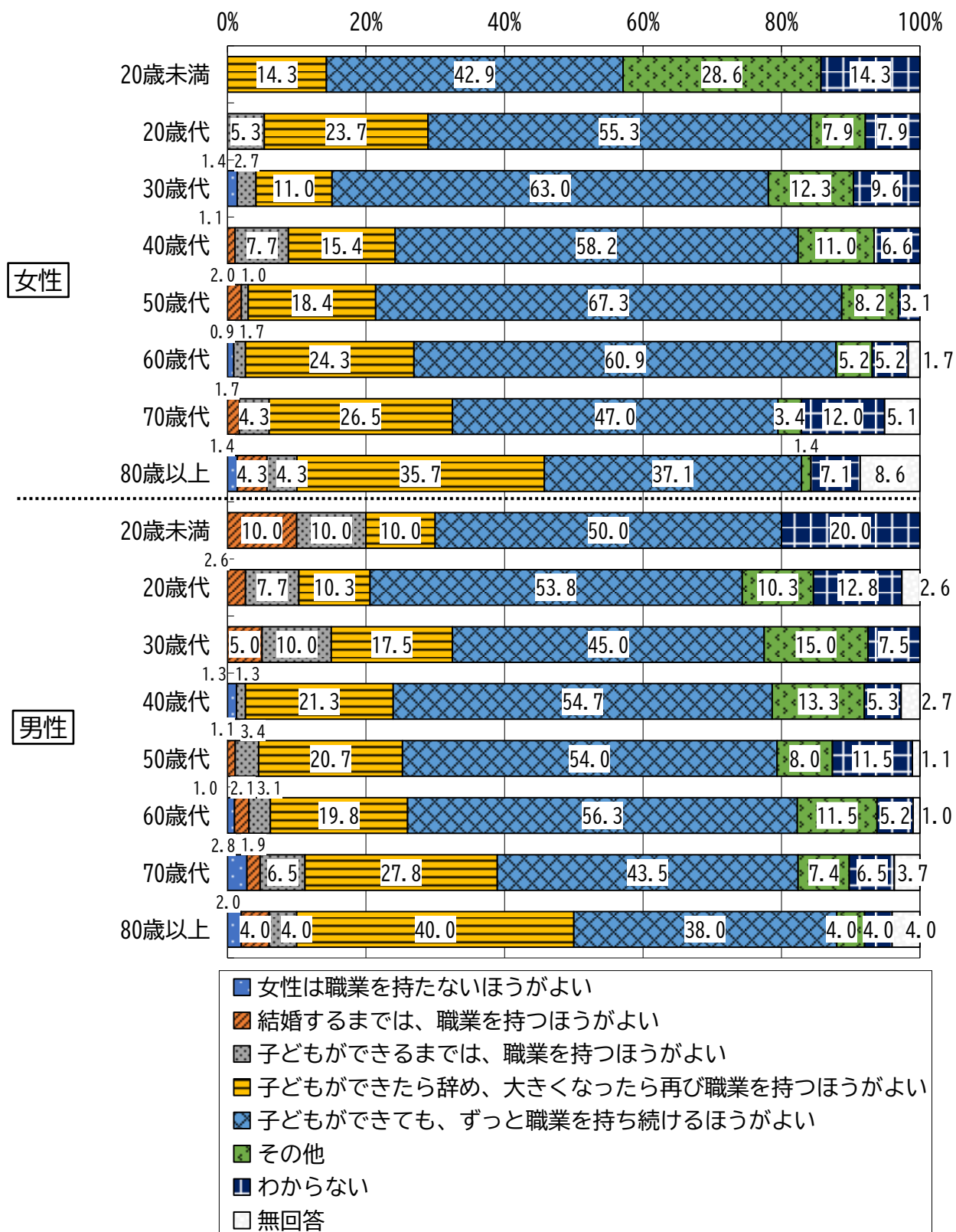
問23 【すべての方におたずねします。】

女性が職業を持つことについてあなたはどのようにお考えですか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆女性が仕事を持つことについての考え方は、前回調査に引き続き、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい」といった『職業継続型』が最も高くなっており、前回調査に比べて4.7ポイント増加している。
- ◆性別にみても、男女とも「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい」が最も高くなっており、前回調査に比べ、女性で7.1ポイント、男性で1.8ポイント増加している。一方、「子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」は前回調査に比べ、女性で5.6ポイント、男性で7.5ポイント減少している。
- ◆性・年齢別にみると、女性はすべての年代で「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい」が多くを占めている。一方、男性は70歳代以下では同様の傾向にあるものの、80歳以上は「子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が最も高くなっている。



性・年齢別



3-(14) 女性が職業を持ち続けていく上で障害と思うこと

〔n = 1, 138〕

前回共通(一部変更)

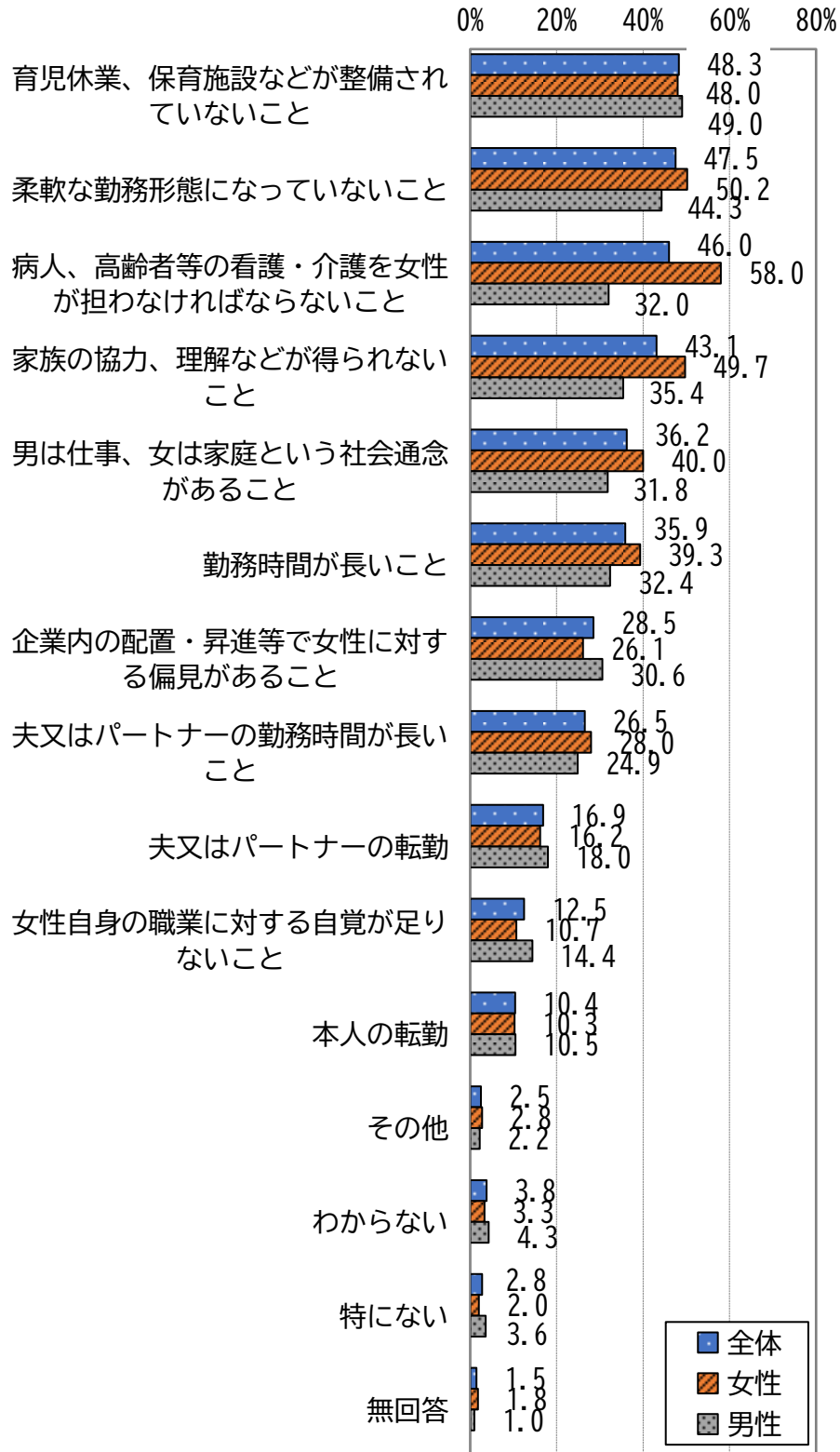
問24 【すべての方におたずねします。】

女性が職業を持ち続ける上で障害となるものは、あなたは何だと思いますか。あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

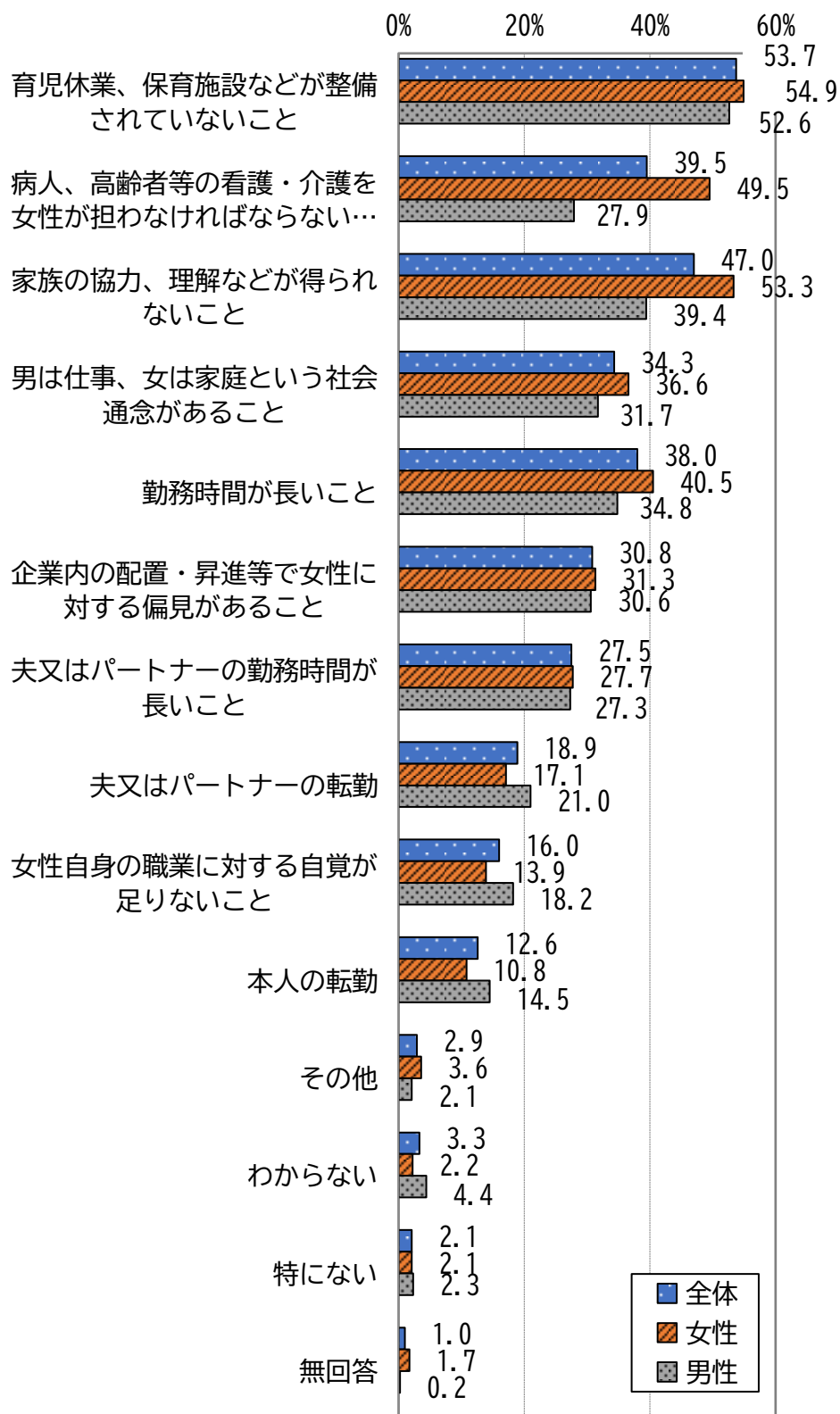
◆女性が職業を持ち続けていく上で障害と思うことは、「育児休業、保育施設などが整備されていないこと」が48.3%と最も高く、次いで、「柔軟な勤務形態になっていないこと」(47.5%)、「病人、高齢者等の看護・介護を女性が担わなければならないこと」(46.0%)と続いている。

◆性別にみると、「企業内の配置・昇進等で女性に対する偏見があること」、「女性自身の職業に対する自覚が足りないこと」、「夫又はパートナーの転勤」などは男性に多くなっているが、その他の項目はほとんど女性のほうが上回っており、特に、「病人、高齢者等の看護・介護を女性が担わなければならないこと」は26.0ポイント差と、男性を大きく上回っている。

【今回調査】



【前回調査】



3-(15) 女性の再就職のために必要な施策・対策

〔n=1,138〕 前回共通

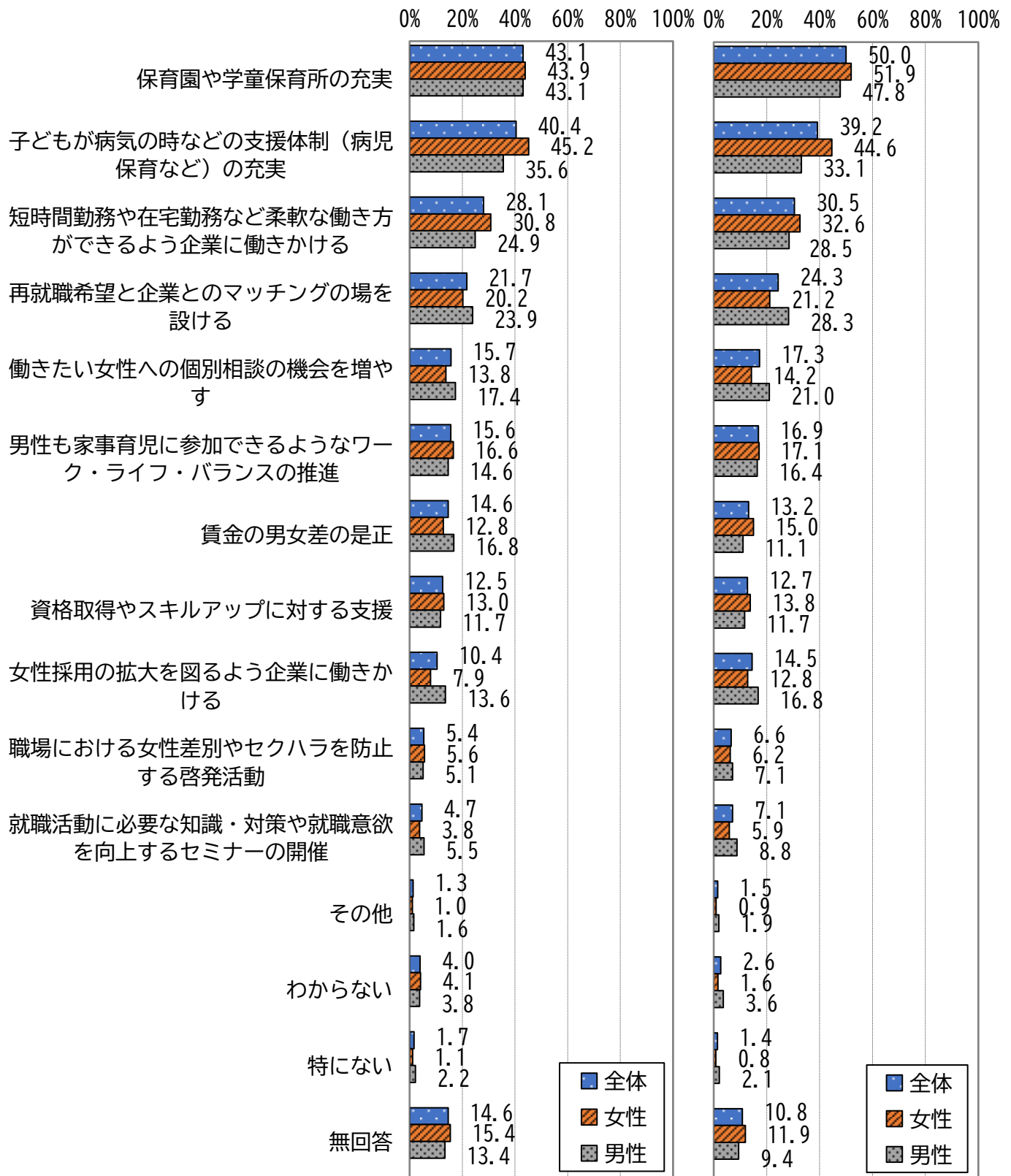
問25 【すべての方におたずねします。】

女性が再就職するために、どのような施策や対策が必要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆女性の再就職のために必要な施策・対策は、前回調査に比べ、ほとんどの項目で数値は減少しているものの、「保育園や学童保育所の充実」が43.1%と最も高く、次いで、「子どもが病気の時などの支援体制（病児保育など）の充実」（40.4%）、「短時間勤務や在宅勤務など柔軟な働き方ができるよう企業に働きかける」（28.1%）と続いている。
- ◆性別にみると、「子どもが病気の時などの支援体制（病児保育など）の充実」は9.6ポイント、「短時間勤務や在宅勤務など柔軟な働き方ができるよう企業に働きかける」は5.9ポイント、それぞれ女性が男性を上回っている。
- ◆性・子どもの年代別にみると、子どもが「就学前」の女性では、「保育園や学童保育所の充実」が最も高く、「小学4～6年生」の女性では、「資格取得やスキルアップに対する支援」が最も高い。また、「中学生以上18歳未満」の女性では、「子どもが病気の時などの支援体制（病児保育など）の充実」が最も高くなっている。また、子どもが「就学前」、「18歳以上」の男性では、「保育園や学童保育所の充実」が最も高く、「小学4～6年生」の男性では、「子どもが病気の時などの支援体制（病児保育など）の充実」が最も高くなっている。

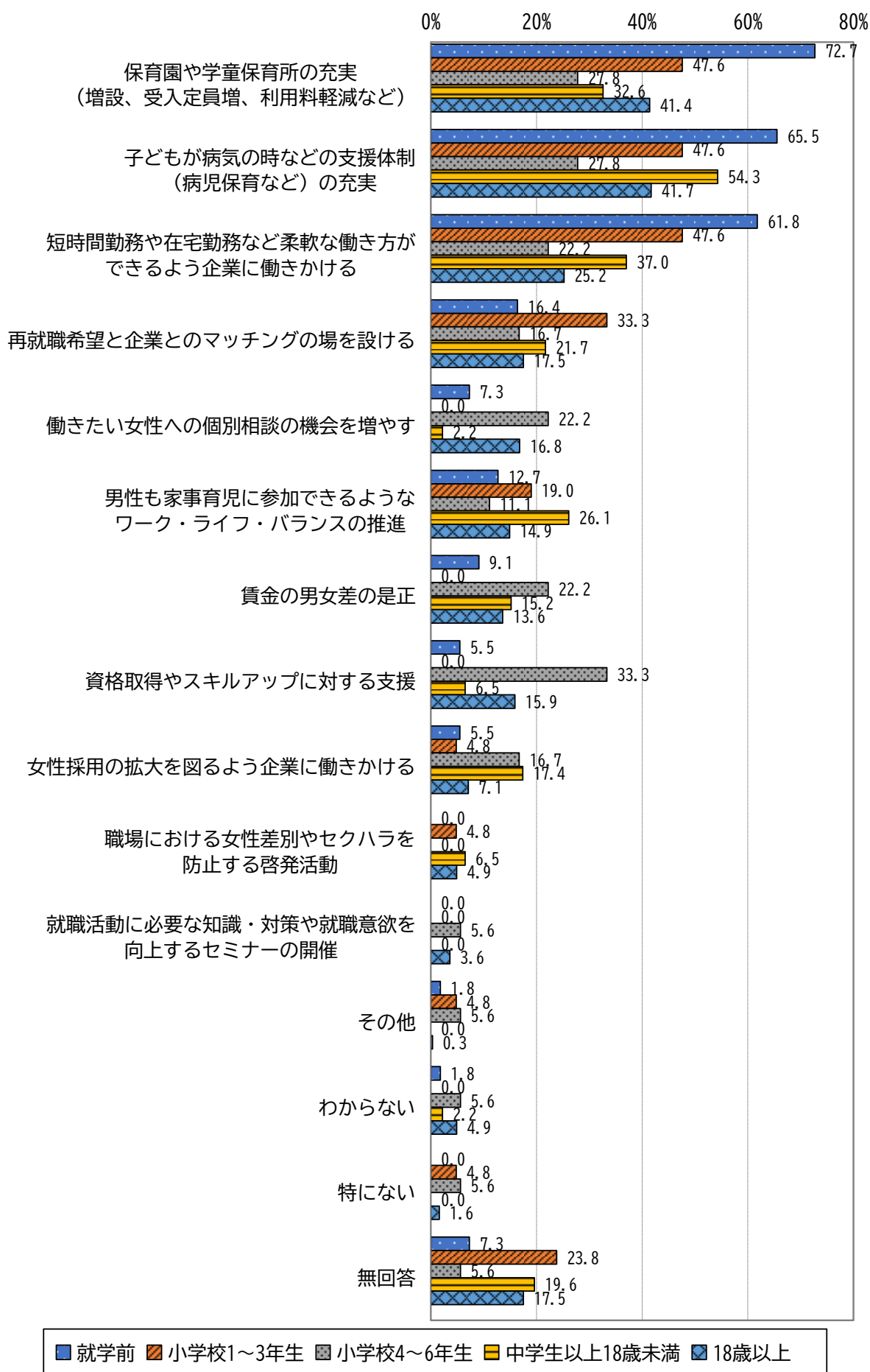
【今回調査】

【前回調査】

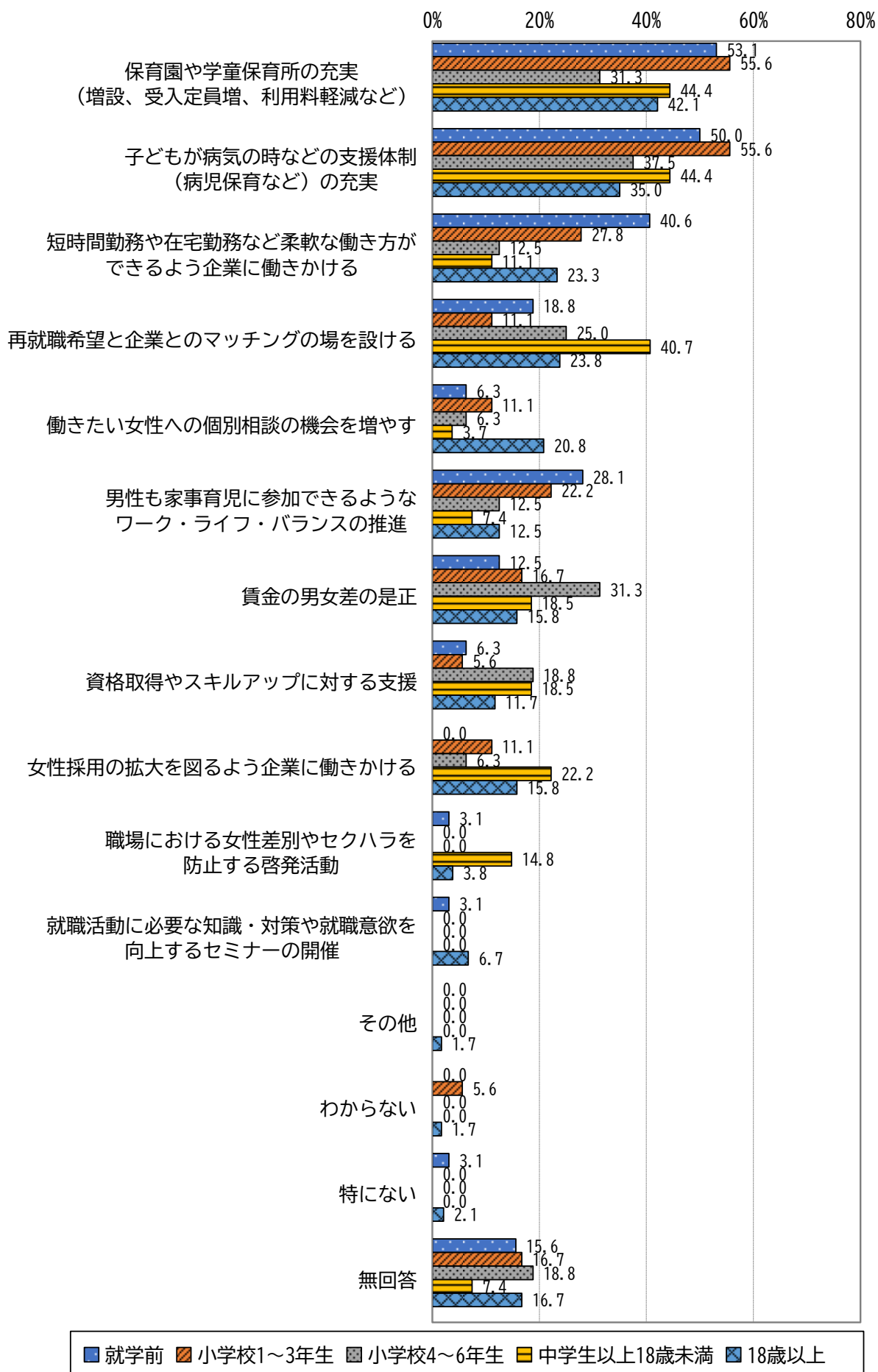


性・子どもの年代(一番下の子ども)別

女性



男性



3-(16) くるみん認定や、えるぼし認定の有無を参考にしたいかどうか

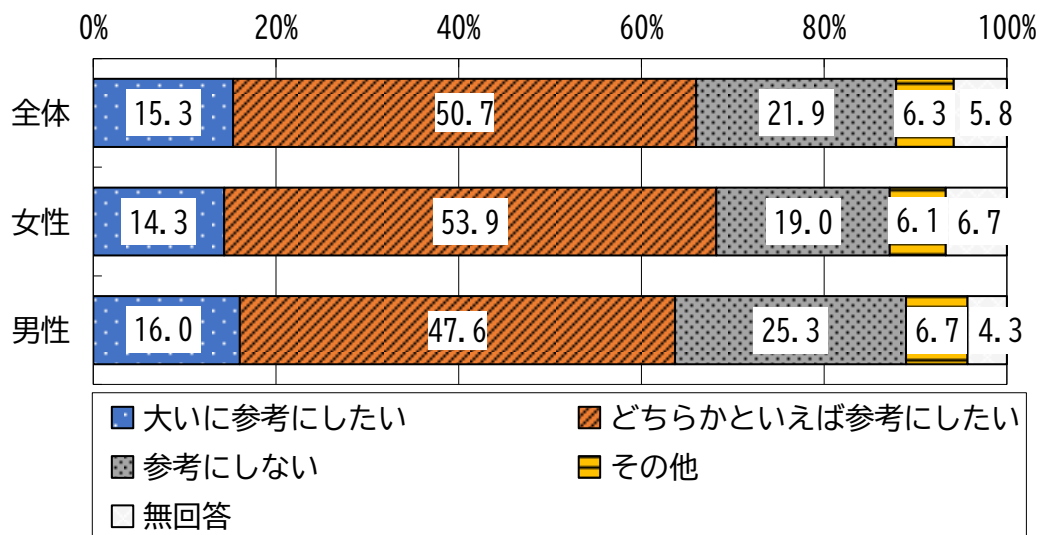
〔n = 1, 138〕

問26 【すべての方におたずねします。】

仕事を探すとき、くるみん認定や、えるぼし認定の有無を参考にしたいと思いませんか。

◆仕事を探すとき、くるみん認定や、えるぼし認定の有無を参考にしたいかどうかについては、「どちらかといえば参考にしたい」が半数を占めており、「大いに参考にしたい」を合わせると『参考にしたい』は7割弱となっている。一方、「参考にしない」は約2割となっている。

◆性別にみると、『参考にしたい』は女性が男性を4.6ポイント上回っている。



4 ワーク・ライフ・バランスについて

4-(1) ワーク・ライフ・バランスの現状

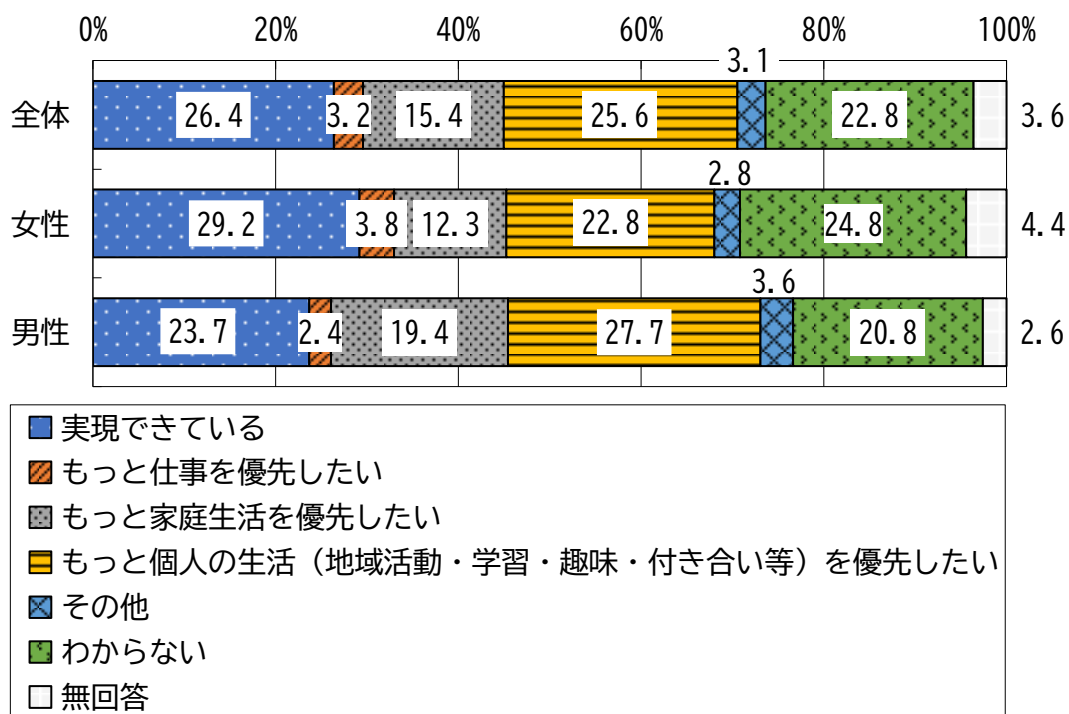
〔n=1,138〕 前回共通(一部変更)

問27 【すべての方におたずねします。】

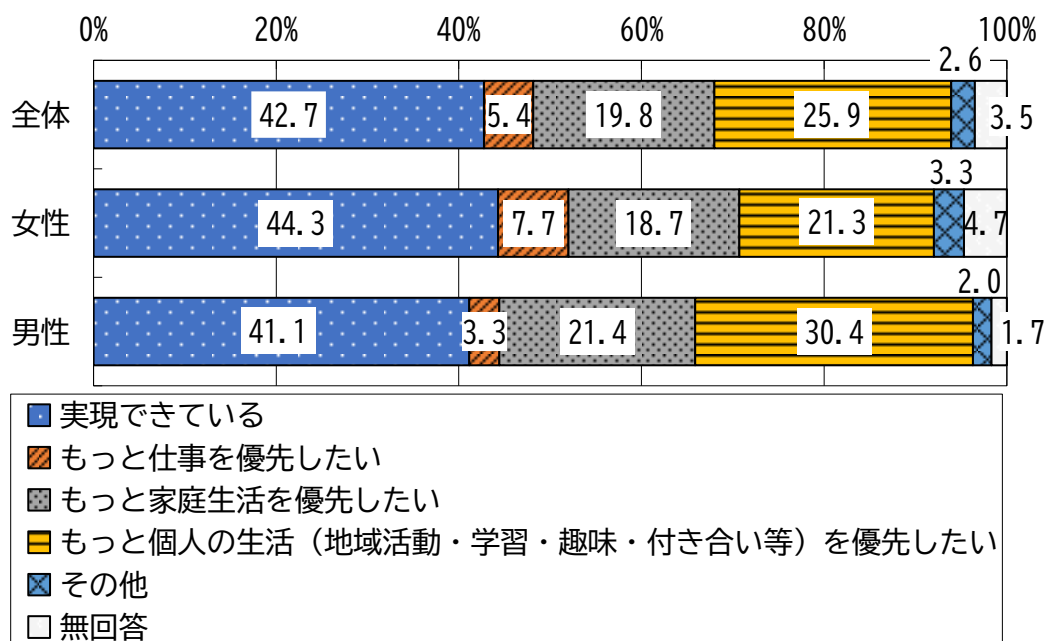
ワーク・ライフ・バランスに関して、現在あなたの思うような仕事と生活のバランスは実現できていますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆ワーク・ライフ・バランスが実現できているかについては、全体の3割弱が「実現できている」と回答している。また、「もっと個人の生活を優先したい」は25.6%、「もっと家庭生活を優先したい」は15.4%、「もっと仕事を優先したい」は3.2%となっている。
- ◆性別にみても、全体結果と同様の傾向になっているが、「実現できている」は女性が男性を5.5ポイント上回っている。また、男性では「もっと家庭生活を優先したい」が女性を7.1ポイント、「もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい」が4.9ポイント上回っている。
- ◆性・年齢別にみると、20～30歳代男女と50～60歳代女性では「実現できている」が3割以上を占めており、50～60歳代女性では男性を11～14ポイント上回っている。一方、30～40歳代男性では「もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい」が同年代の女性を10ポイント以上上回っている。また、50歳代と70歳代男性では「もっと家庭生活を優先したい」が女性を10ポイント以上上回っている。

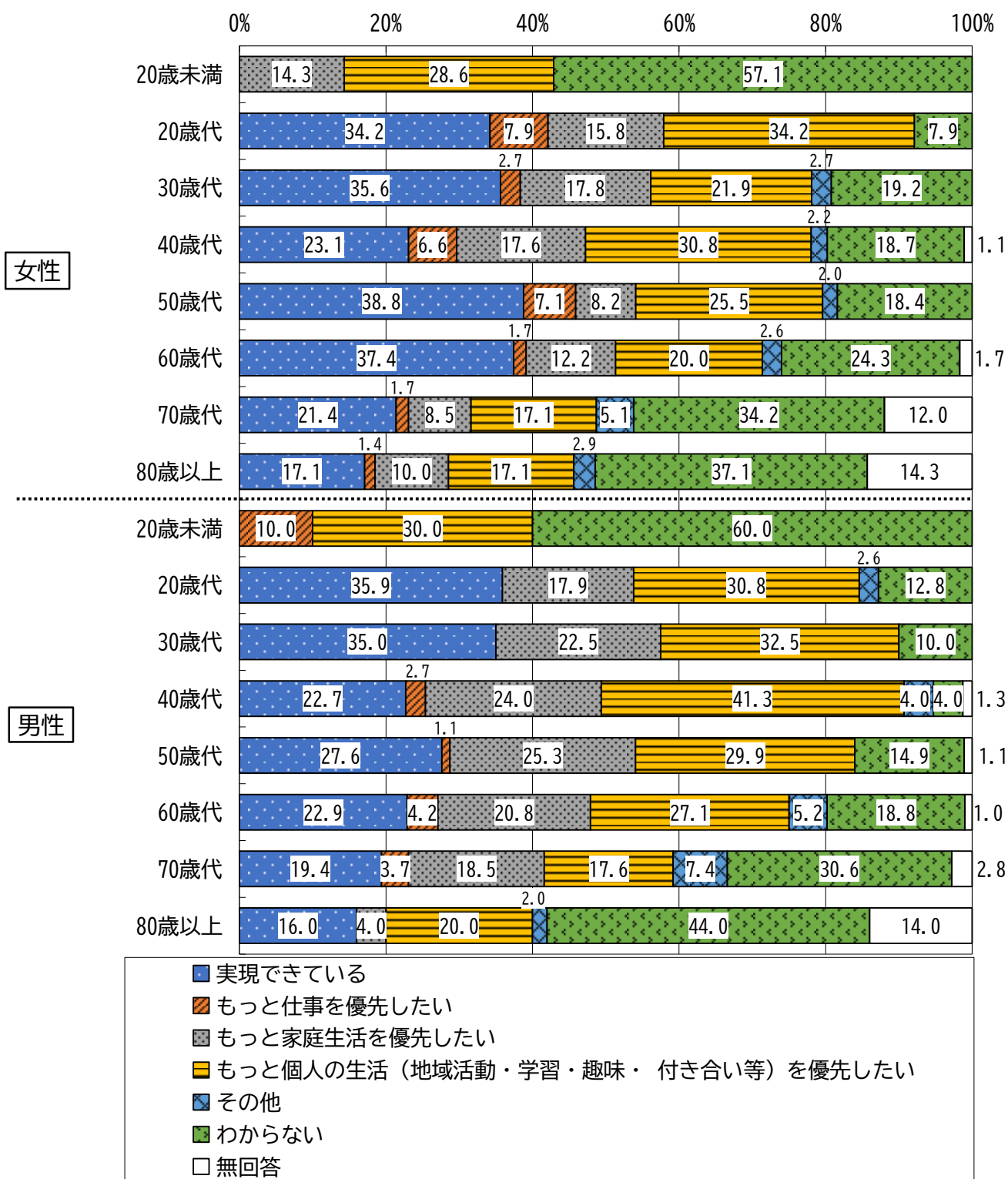
【今回調査】



【前回調査】



性・年齢別



4-(2) ワーク・ライフ・バランスの実現のために重要なこと

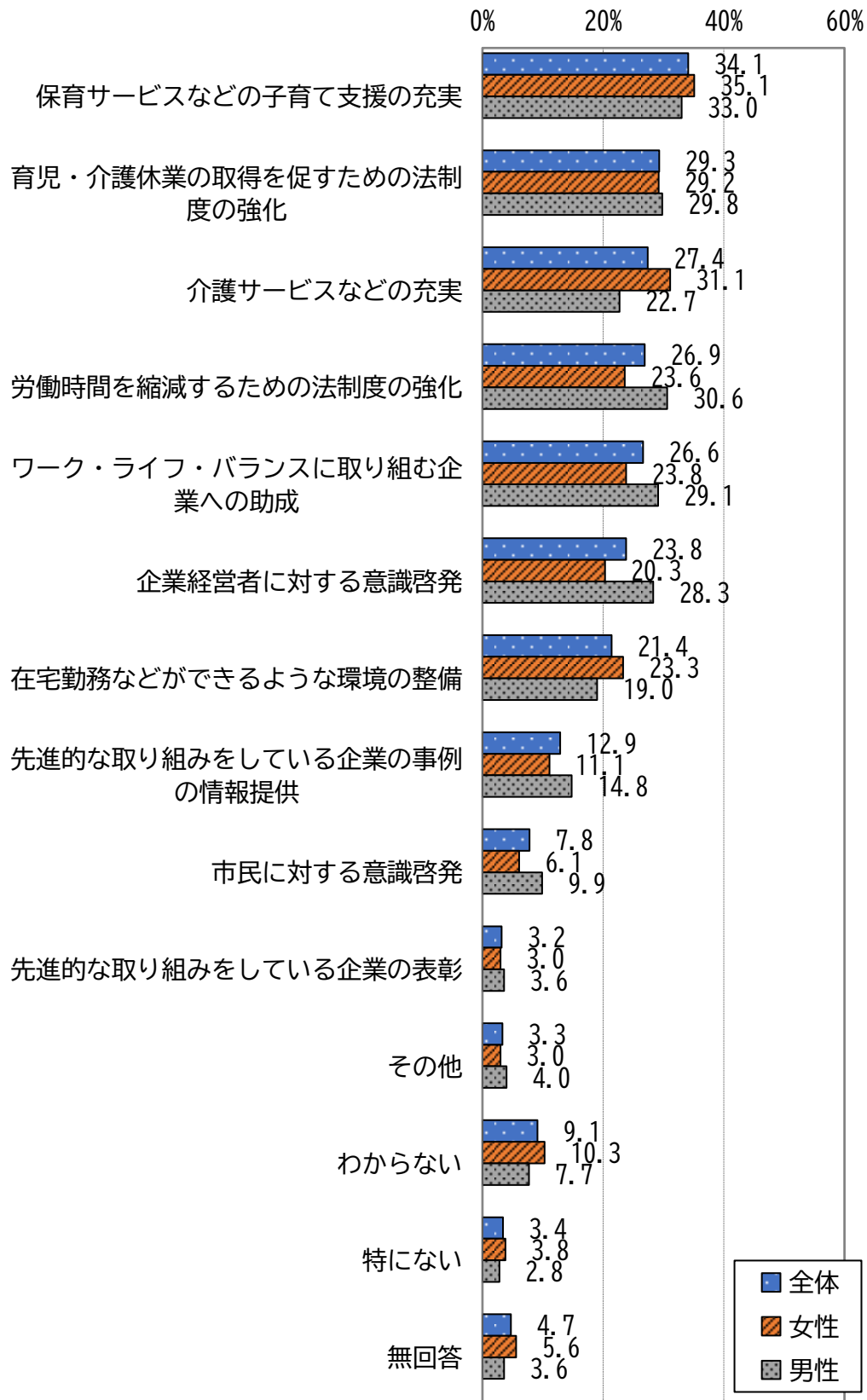
〔n=1,138〕 前回共通

問28 【すべての方におたずねします。】

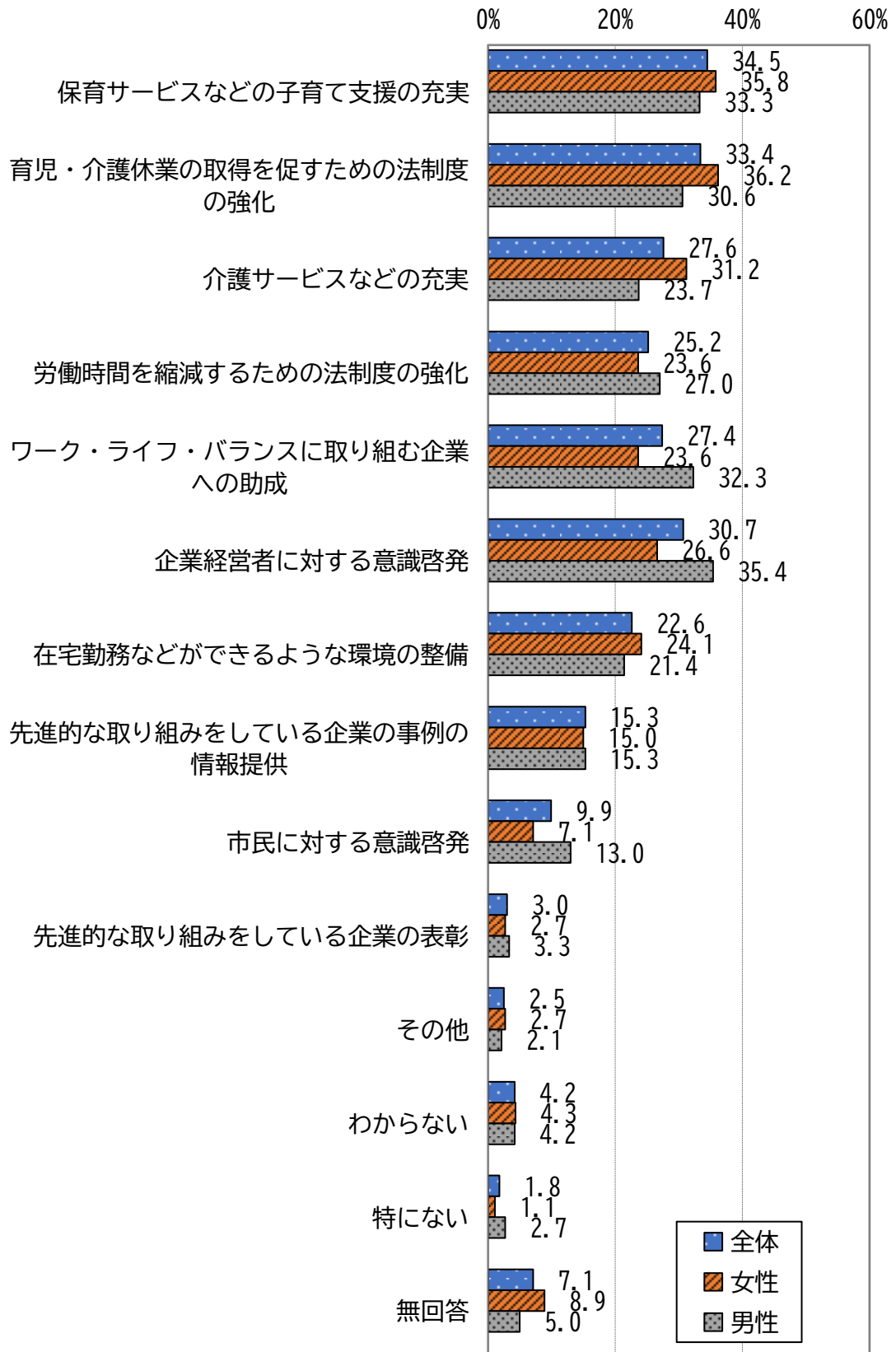
男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには、何が重要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ワーク・ライフ・バランスの実現のために重要なことについては、「保育サービスなどの子育て支援の充実」が34.1%と最も高く、次いで、「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」(29.3%)、「介護サービスなどの充実」(27.4%)が続いている。
- ◆前回調査に比べて、上位3項目や「企業経営者に対する意識啓発」などほとんどの数値は減少しているが、「労働時間を縮減するための法制度の強化」が1.7ポイント増加している。
- ◆性別にみると、男女ともに「保育サービスなどの子育て支援の充実」が最も高く、次いで、女性では「介護サービスなどの充実」(31.1%)が、男性では「労働時間を縮減するための法制度の強化」(30.6%)が、それぞれ続いている。女性のほうが多く挙げているのは、「介護サービスなどの充実」が8.4ポイント差、「在宅勤務などができるような環境の整備」が4.3ポイント差などとなっている。一方、男性のほうが多く挙げているのは、「企業経営者に対する意識啓発」が8.0ポイント差、「労働時間を縮減するための法制度の強化」が7.0ポイント差などとなっている。

【今回調査】



【前回調査】



5 社会活動等について

5-(1) 地域活動等への参加状況

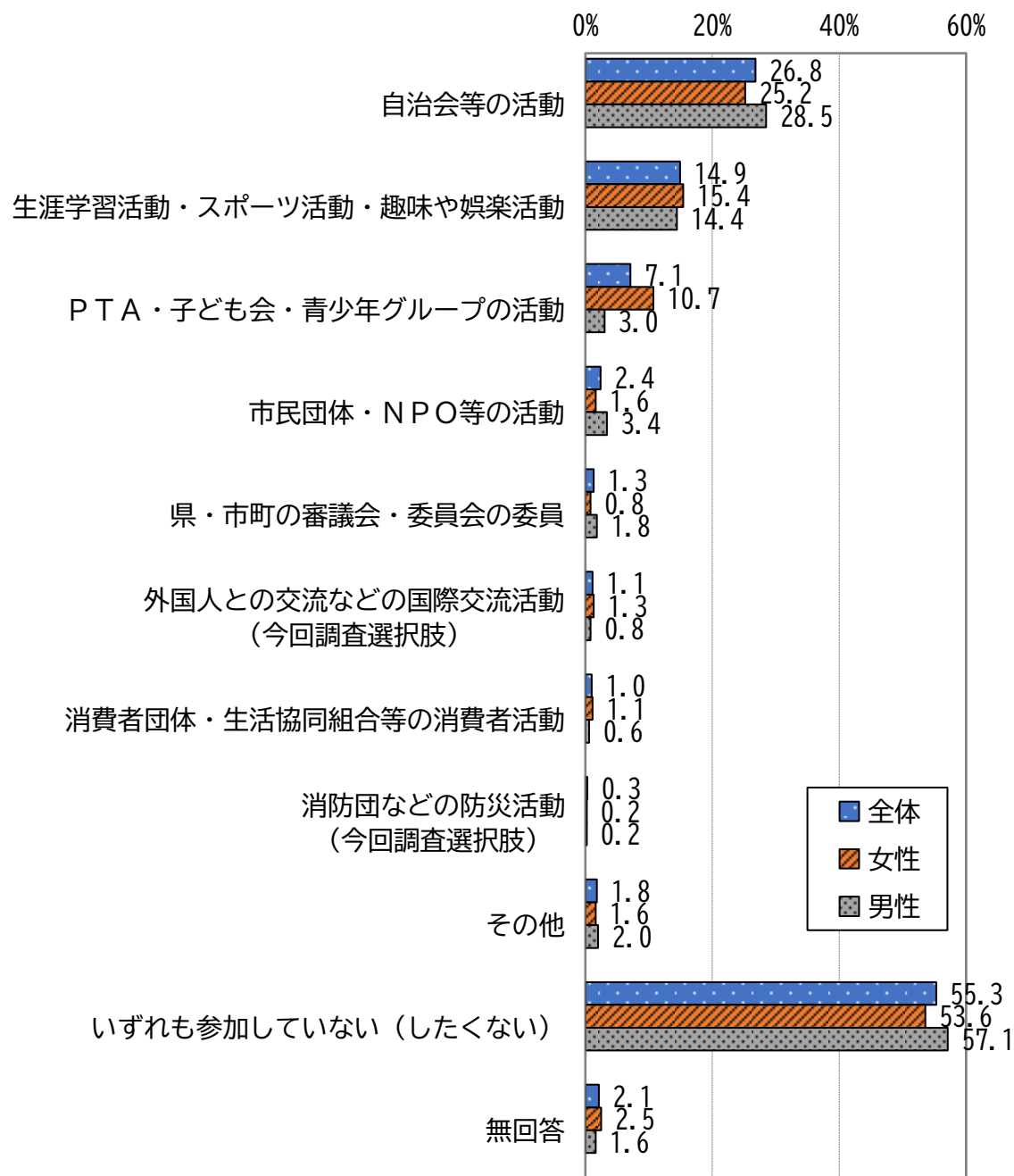
〔n=1,138〕 前回共通(一部変更)

問29 【すべての方におたずねします。】

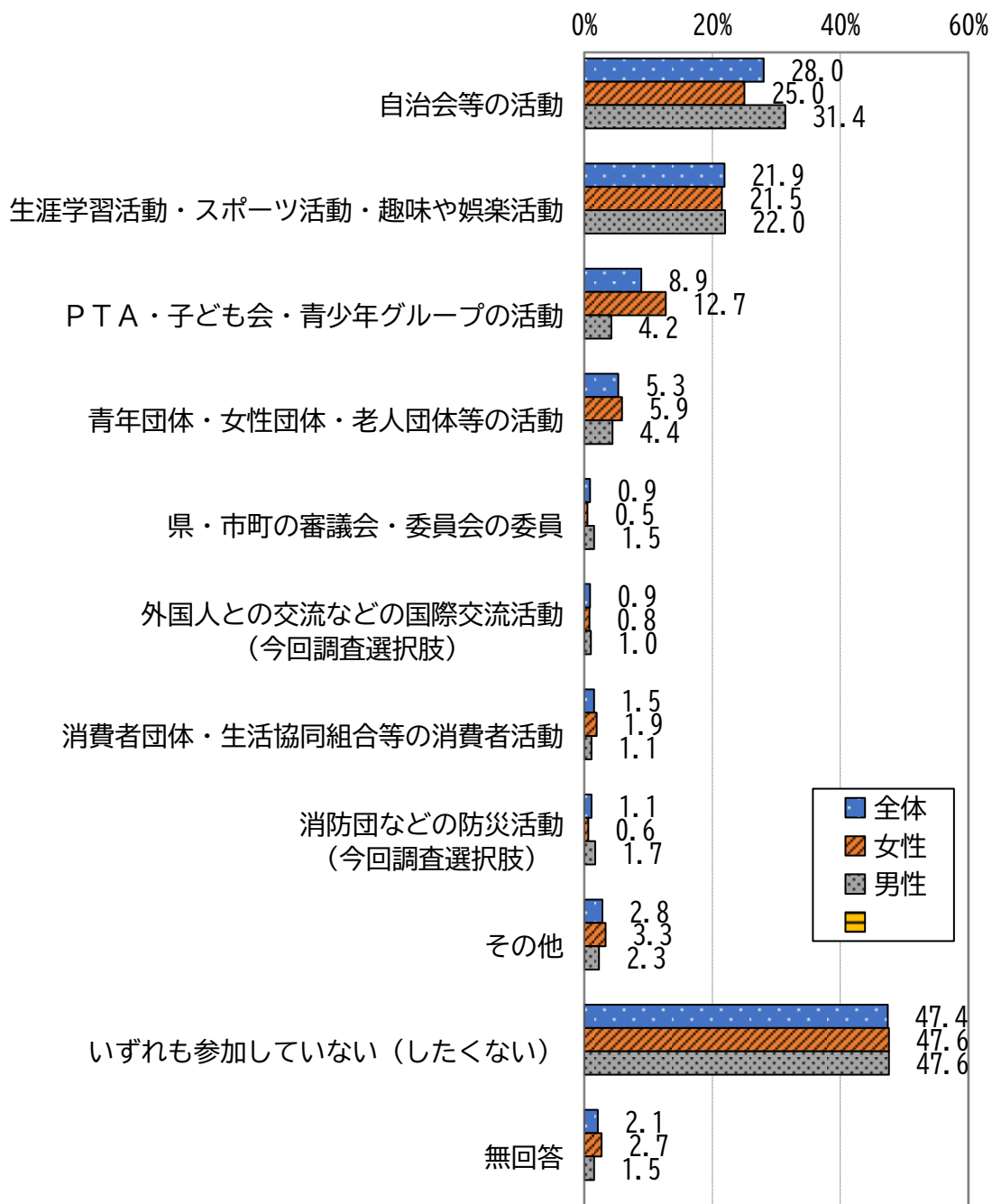
あなたは次のような活動をしていますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆地域活動などへの参加状況は、「自治会等の活動」が26.8%と最も高く、次いで、「生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動」(14.9%)が続いている。一方、「いずれも参加していない(したくない)」は55.3%と、前回調査の47.4%から7.9ポイント増加している。
- ◆性別にみると、全体結果と同様に男女ともに「自治会等の活動」が最も高く、「生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動」が続いている。また、女性では「PTA・子ども会・青少年グループの活動」が男性を7.7ポイント上回り、男性では「自治会等の活動」が女性を3.3ポイント上回っている。
- ◆性・年齢別にみると、男女ともに「自治会等の活動」は30歳代以上で最も高く、20歳代以下では「生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動」が高くなっている。また、40歳代女性では「PTA・子ども会・青少年グループの活動」も高くなっている。「いずれも参加していない(したくない)」の割合が50%を超えているのは、女性では40歳代以外の年代、男性では30歳代以下、50～60歳代の年代となっている。

【今回調査】

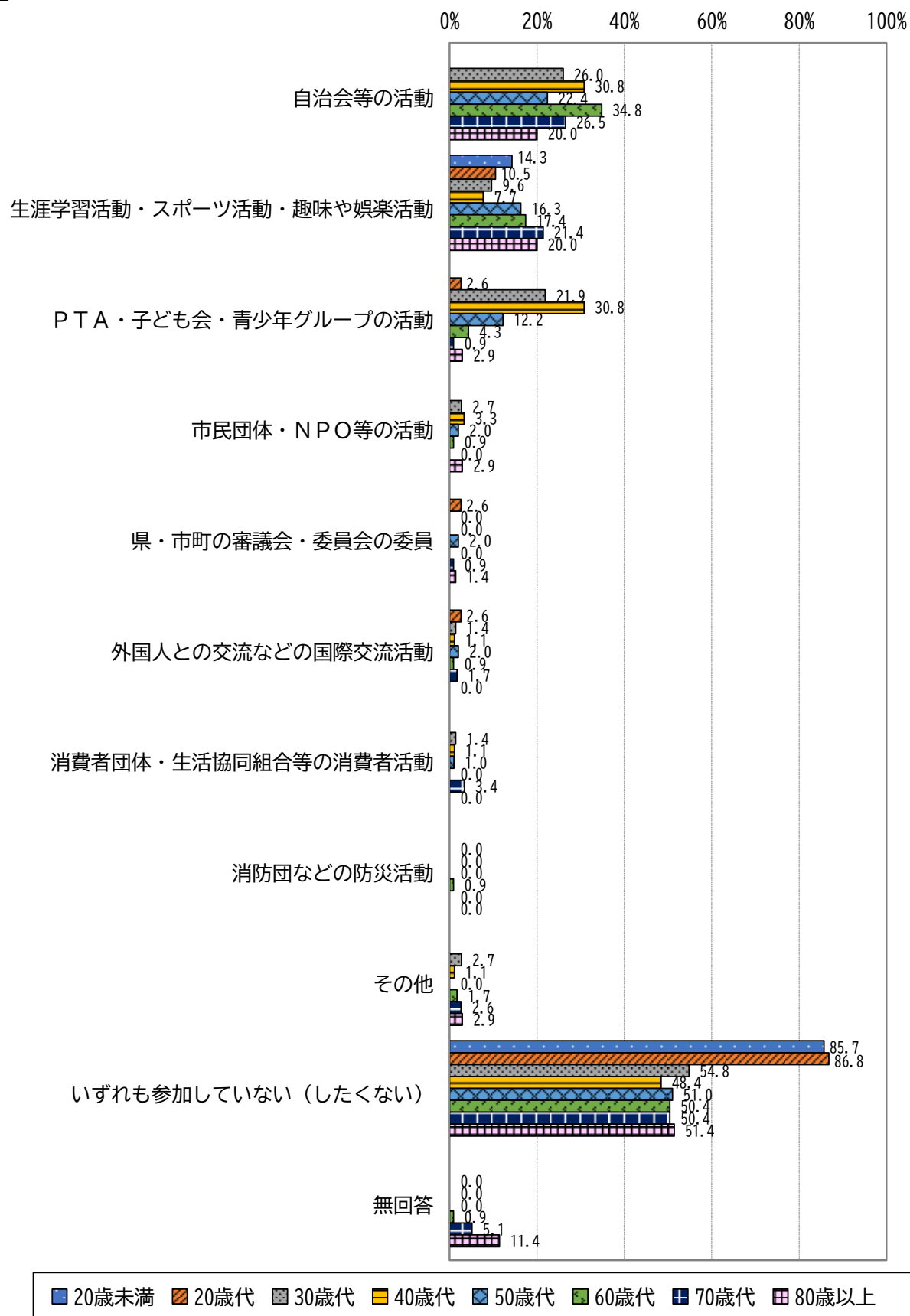


【前回調査】

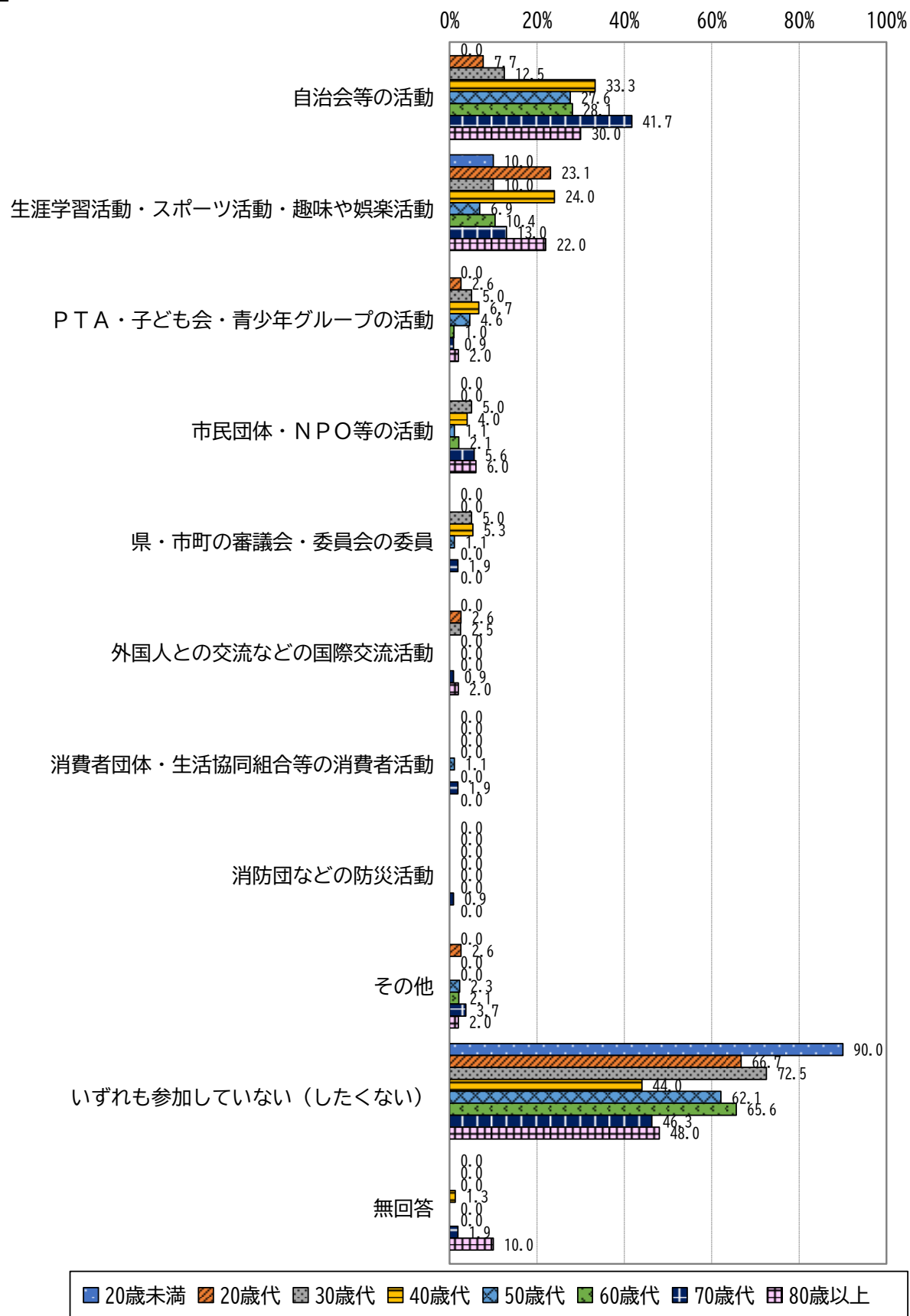


性・年齢別

女性



男性



5-(2) 地域活動等における現状

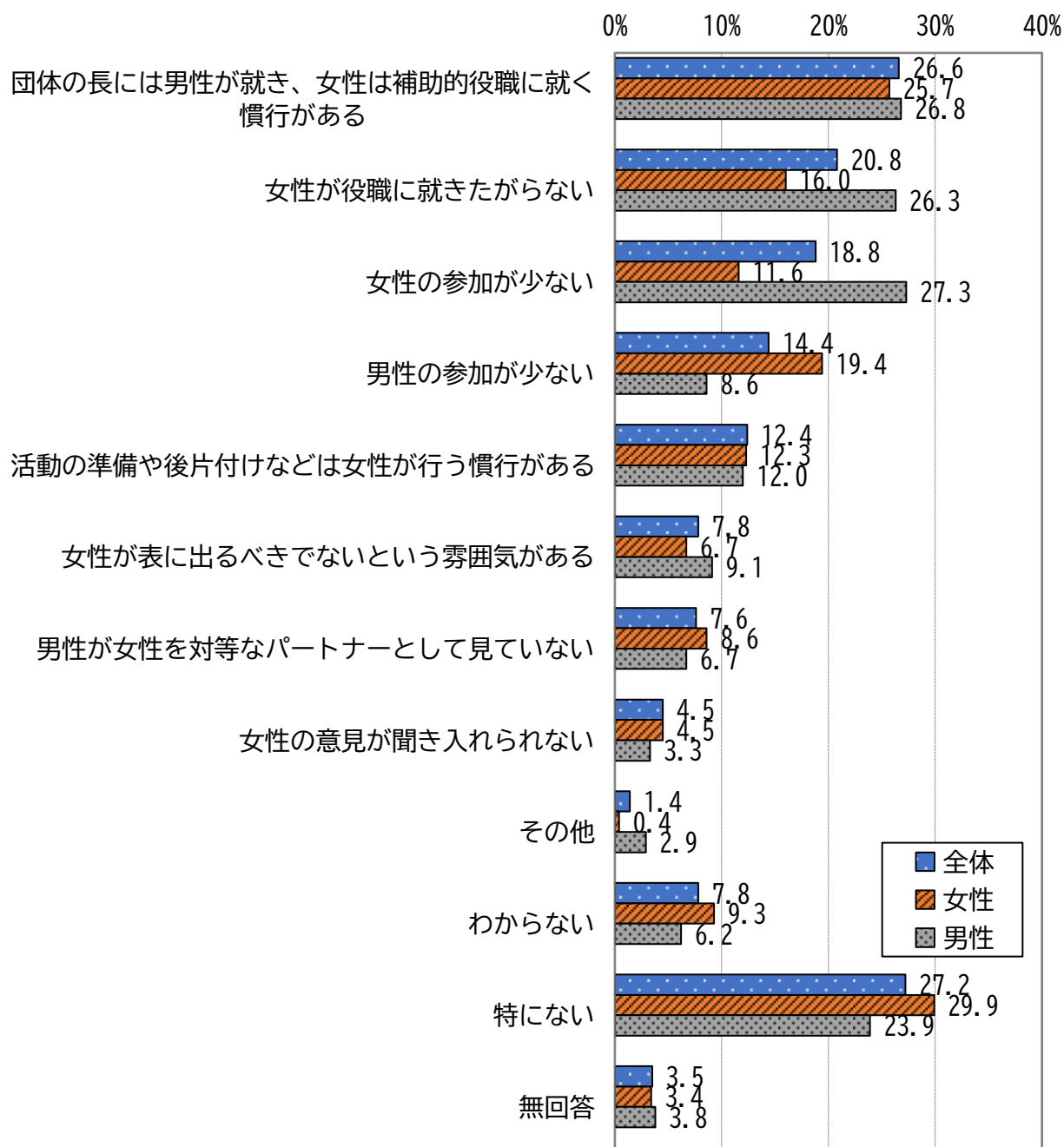
〔n = 485〕 前回共通

問30 【問29で「県・市町の審議会・委員会の委員」～「その他」を選択された方のみお答えください。】

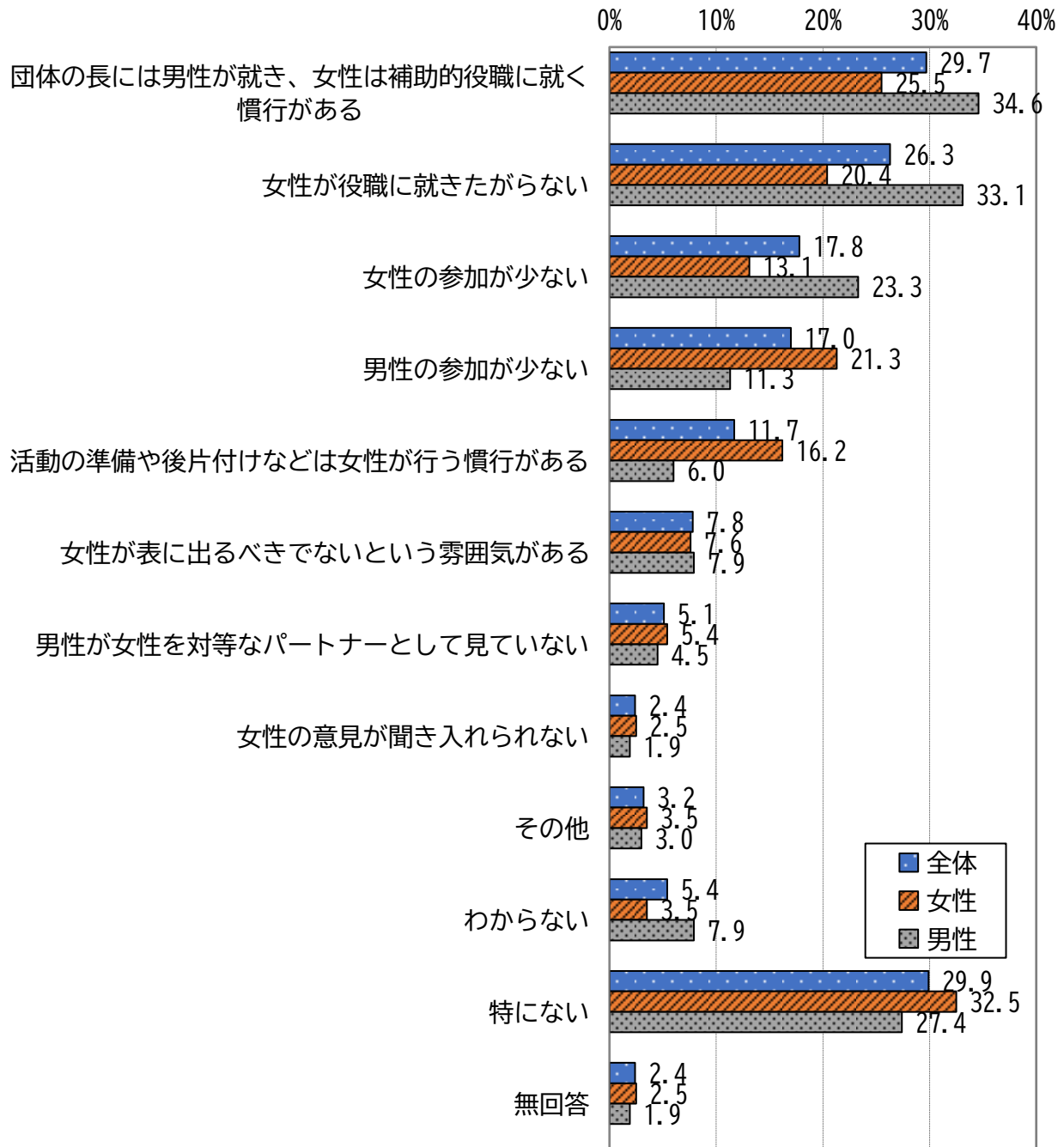
あなたが現在活動されている団体で、次のようなことはありますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆地域活動等における現状については、「団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が26.6%と最も高く、次いで、「女性が役職に就きたがらない」(20.8%)、「女性の参加が少ない」(18.8%)と続いている。
- ◆前回調査に比べて、「女性が役職に就きたがらない」は5.5ポイント、「団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」は3.1ポイント減少し、「男性が女性を対等なパートナーとして見ていない」が2.5ポイント、「女性の意見が聞き入れられない」が2.1ポイント増加した。
- ◆性別にみると、男女ともに「団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が最も高くなっているが、女性では「男性の参加が少ない」が、男性では「女性の参加が少ない」が、それぞれ2番目に高くなっている。また、「女性の参加が少ない」は男性が女性を15.7ポイント、「女性が役職に就きたがらない」は10.3ポイント上回っている一方、「男性の参加が少ない」は女性が男性を10.8ポイント上回っている。

【今回調査】



【前回調査】



5-(3) 地域活動等に参加していない理由

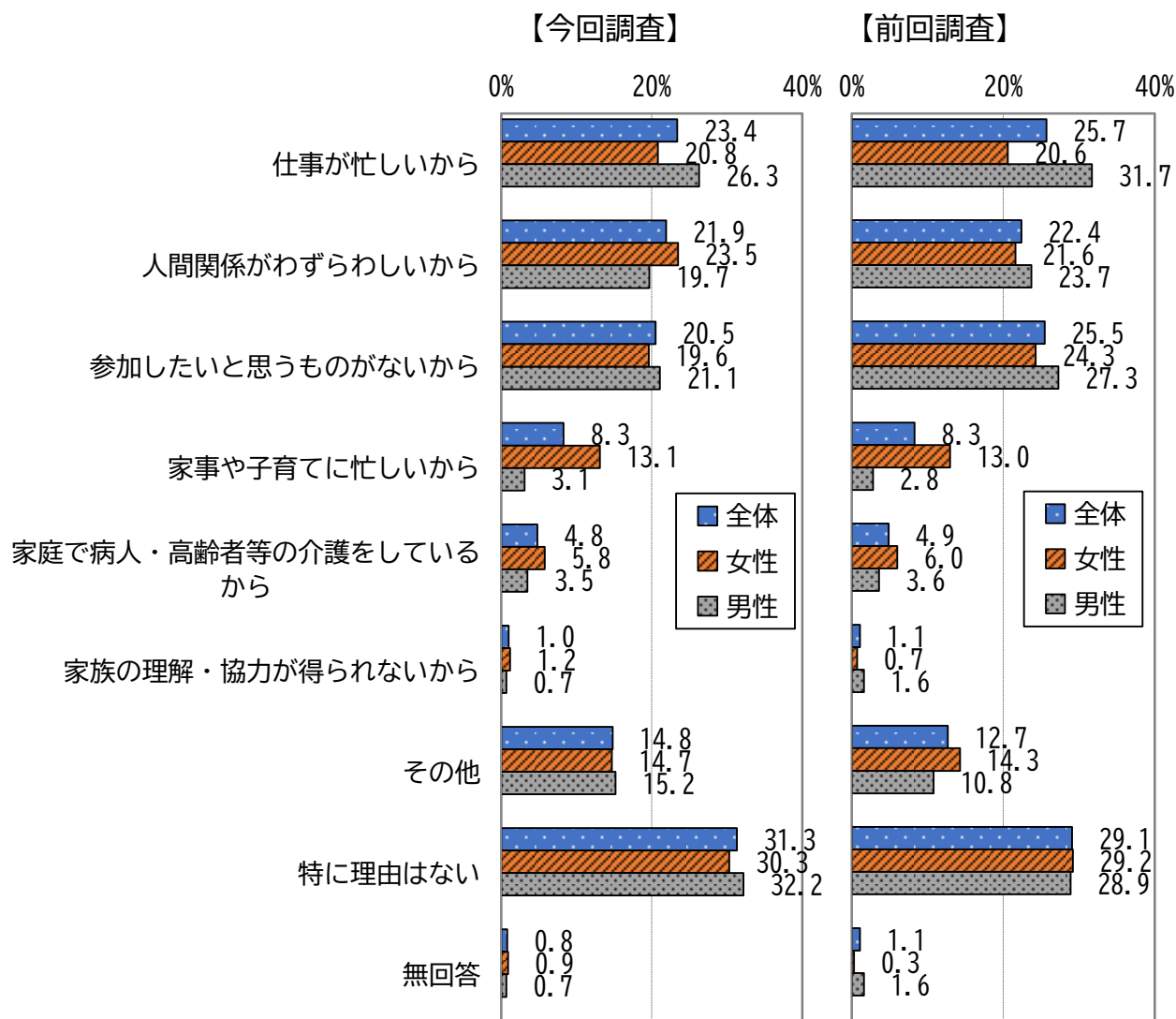
〔n=629〕 前回共通

問31 【問29で「いずれも参加していない(したくない)」と回答された方のみお答えください。】

その理由は何ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

◆地域活動等に参加していない理由は、「仕事が忙しいから」(23.4%)、「人間関係がわずらわしいから」(21.9%)、「参加したいと思うものがないから」(20.5%)などが高くなっているが、前回調査からほとんどの項目で減少している。特に、「参加したいと思うものがないから」は5.0ポイント減少した。

◆性別にみると、男性では「仕事が忙しいから」(26.3%)が高く、女性では「人間関係がわずらわしいから」(23.5%)が高くなっている。また、「家事や子育てに忙しいから」は女性が男性を10.0ポイント上回る一方、「仕事が忙しいから」は男性が女性を5.5ポイント上回っている。



6 ドメスティック・バイオレンスなどについて

6-(1) 暴力の加害、被害の有無

〔n=1,138〕 **前回共通**

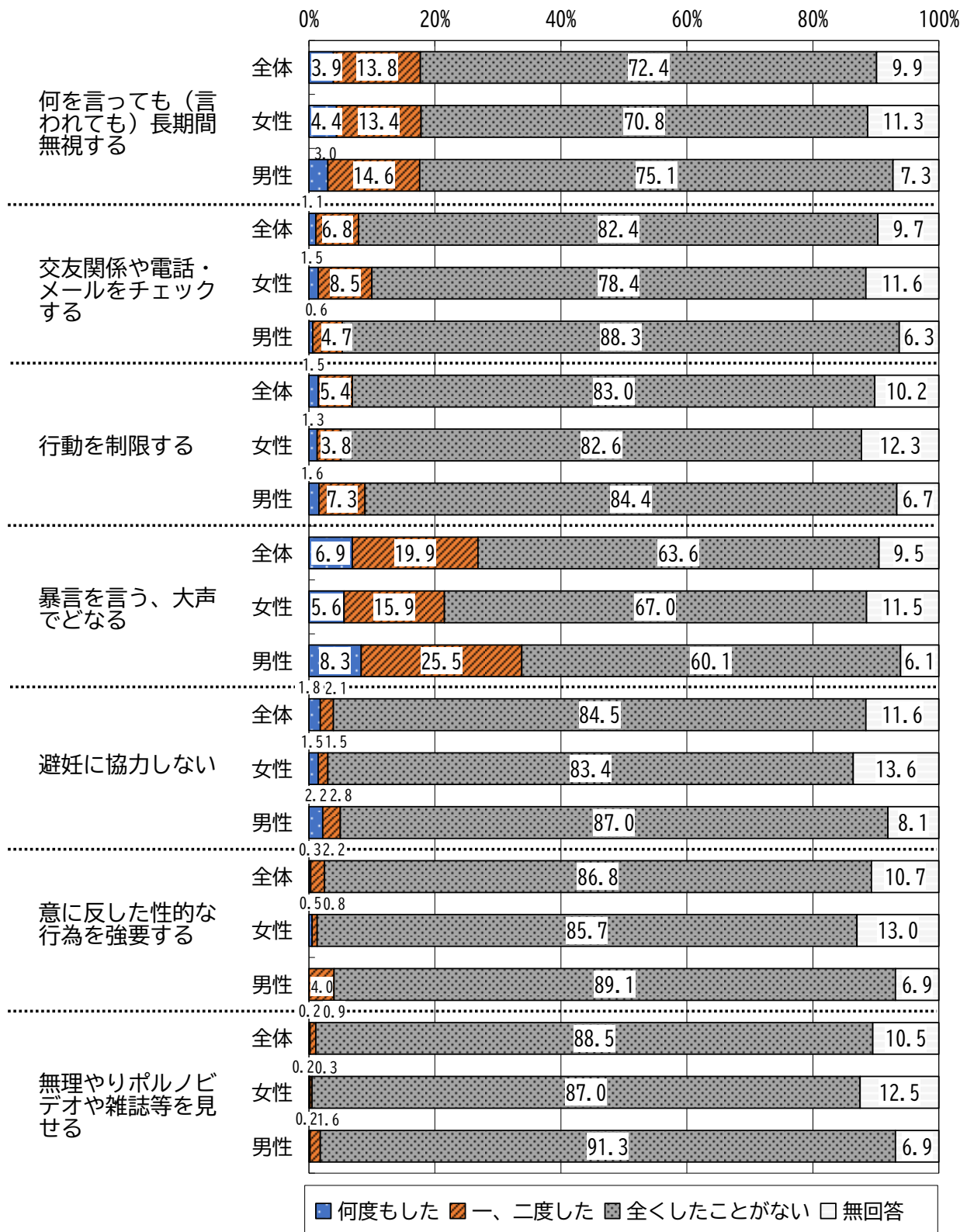
問32 【すべての方におたずねします。】

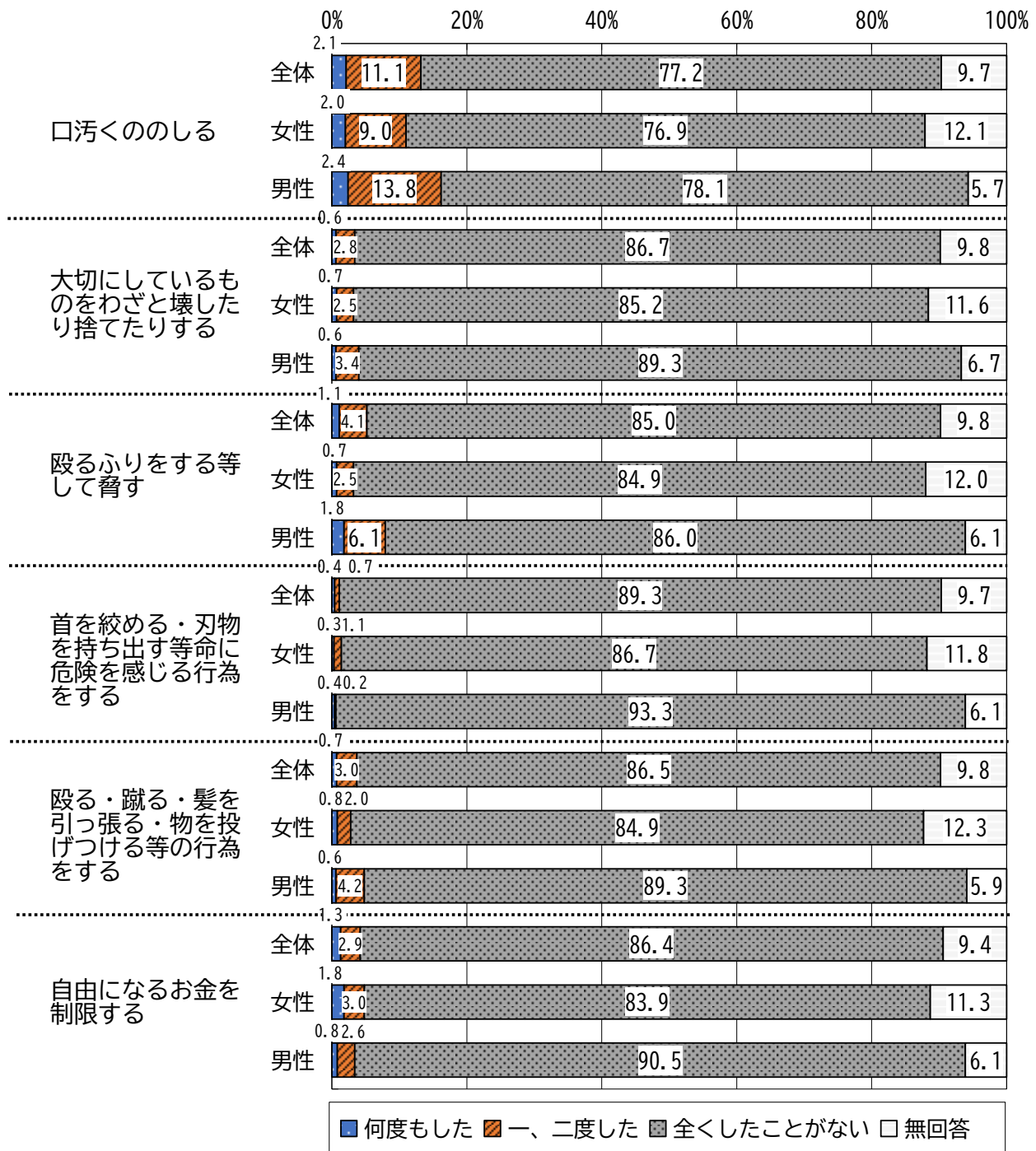
次のような行為を、配偶者等※又は交際相手にしたり、あるいは配偶者等又は交際相手から受けたりしたことがありますか。

※配偶者等には、恋人、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者(離別・死別した相手・事実婚を解消した相手)も含みます。

A 自分でしたことがある

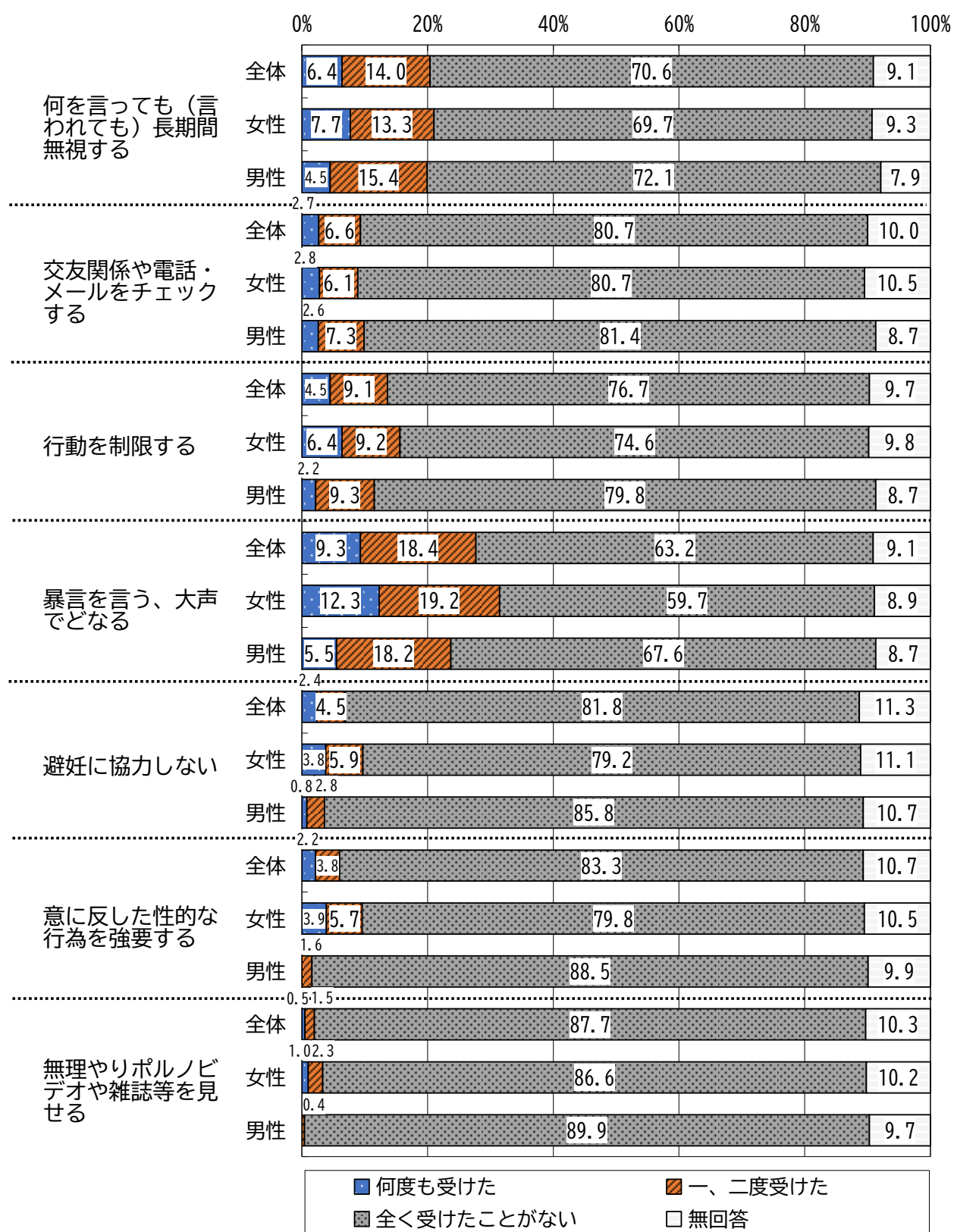
- ◆暴力の加害、被害の有無について、自分でしたことがある行為についてたずねたところ、13項目中10項目で「全くしたことがない」が8割以上を占めている。一方、『暴言を言う、大声でどなる』は「何度もした」(6.9%)と「一、二度した」(19.9%)の合計は3割弱を占めている。
- ◆性別にみると、女性では13項目中9項目で、男性では10項目で、「全くしたことがない」が8割以上を占めている。一方、男性では『暴言を言う、大声でどなる』が一番高く(何度もした：8.3%、一、二度した：25.5%)、約3割を占める。次点は『何を言っても(言われても)長期間無視する』(何度もした：3.0%、一、二度した：14.6%)で約2割を占めている。女性においても『暴言を言う、大声でどなる』が一番高く(何度もした：5.6%、一、二度した：15.9%)、約2割を占める。次点は『何を言っても(言われても)長期間無視する』(何度もした：4.4%、一、二度した：13.4%)であった。

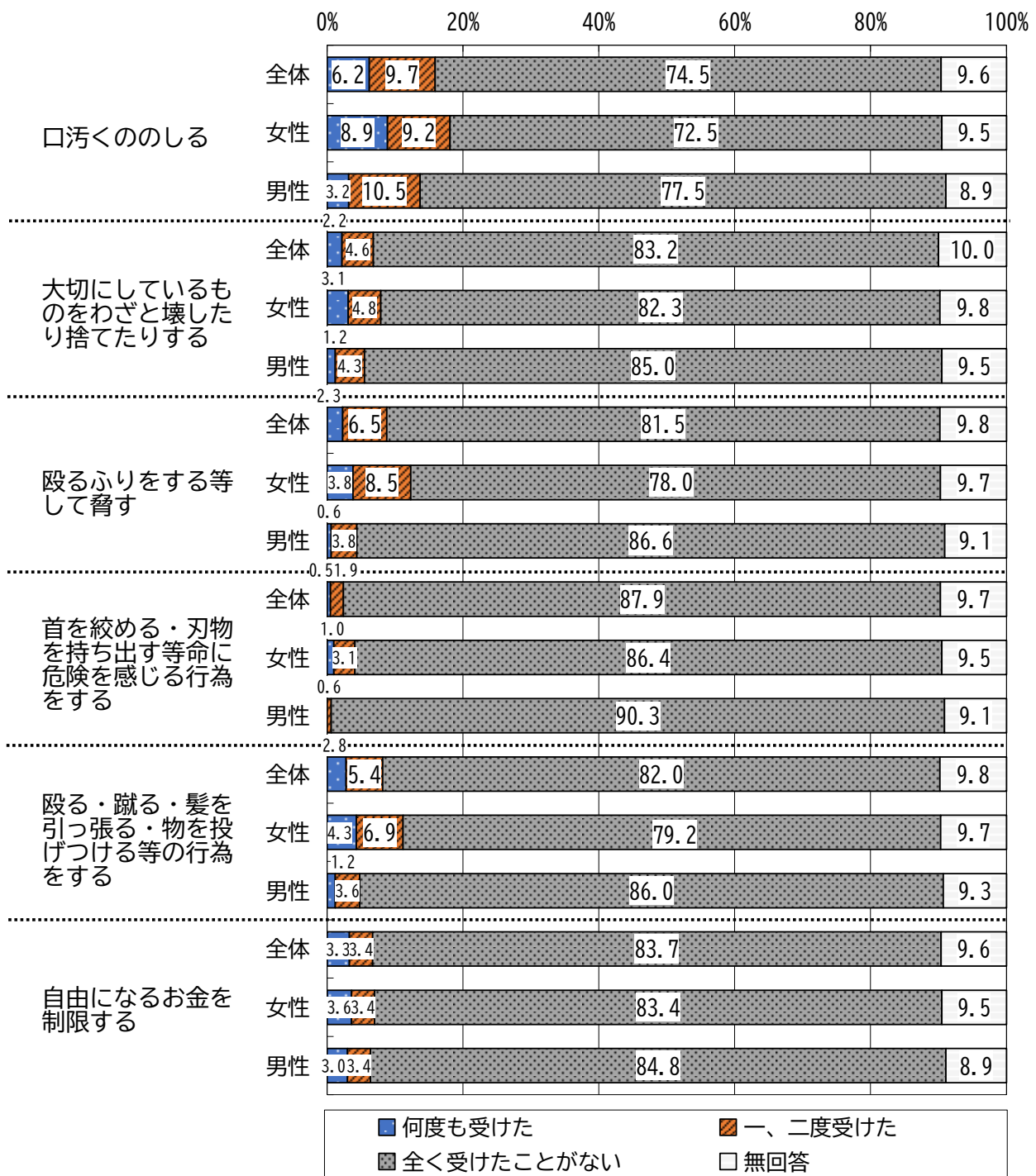




B 相手から受けたことがある

- ◆暴力の加害、被害の有無について、相手から受けたことがある行為についてたずねたところ、13項目中9項目で「全く受けたことがない」が8割以上を占めている。一方、『暴言を言う、大声でどなる』は「何度も受けた」(9.3%)と「一、二度受けた」(18.4%)の合計は3割弱を占め、『何を言っても(言われても)長期間無視する』は「何度も受けた」(6.4%)と「一、二度受けた」(14.0%)の合計は約2割を占めている。
- ◆性別にみると、女性では13項目中5項目で、男性では9項目で、「全く受けたことがない」が8割以上を占めている。一方、男性では『暴言を言う、大声でどなる』が一番高く(何度も受けた：5.5%、一、二度受けた：18.2%)、2割強を占め、次点は『何を言っても(言われても)長期間無視する』(何度も受けた：4.5%、一、二度受けた：15.4%)で約2割を占めている。女性では『暴言を言う、大声でどなる』が一番高く(何度も受けた：12.3%、一、二度受けた：19.2%)、約3割を占め、次点は『何を言っても(言われても)長期間無視する』(何度も受けた：7.7%、一、二度受けた：13.3%)で約2割を占めている。また、『交友関係や電話・メールをチェックする』以外のいずれの項目についても「何度も受けた」と「一、二度受けた」の合計は女性が男性を上回っている。特に、『意に反した性的な行為を強要する』については女性が男性を8.0ポイント、『暴言を言う、大声でどなる』については7.8ポイント上回っている。





6-(2) 暴力などをした際の相談先

〔n = 443〕 **前回共通**

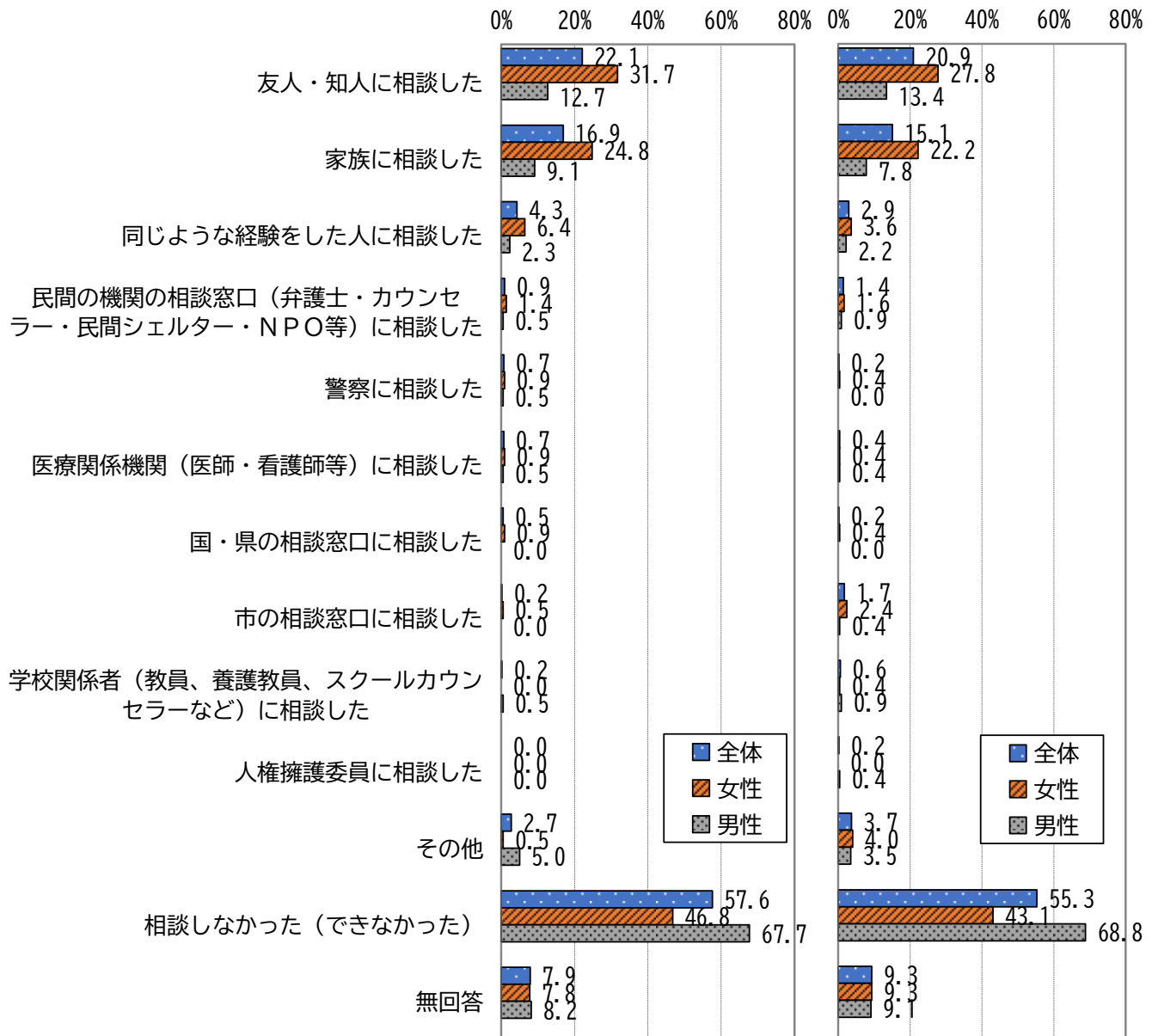
問33 【問32の「A 自分でしたことがある」で、13の項目中1つ以上「何度をした」又は「一、二度した」と回答された方のみお答えください。】

そのような行為をしたとき、あなたは、どなたかに相談しましたか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆暴力などをした際の相談先については、「相談しなかった(できなかった)」が57.6%と最も高く、「友人・知人に相談した」が22.1%、「家族に相談した」が16.9%で続いている。
- ◆性別にみると、「相談しなかった(できなかった)」は男性が女性を20.9ポイント上回り、「友人・知人に相談した」と「家族に相談した」は女性が男性をそれぞれ19.0ポイント、15.7ポイント上回っている。

【今回調査】

【前回調査】



6-(3) 暴力などをした際に相談しなかった理由

〔n = 255〕

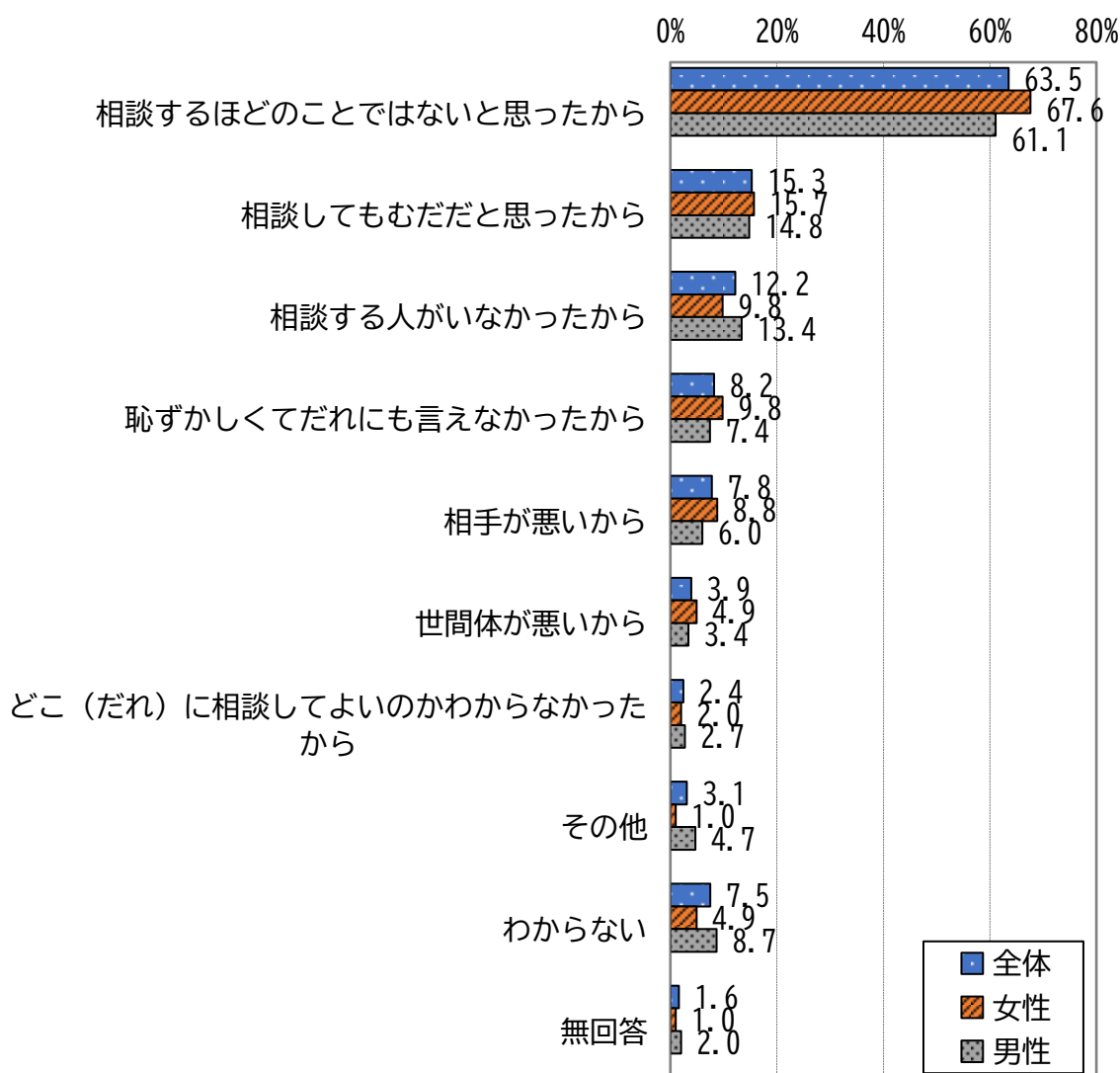
前回共通(一部変更)

問34 【問33で「相談しなかった(できなかった)」と回答された方のみお答えください。】
相談しなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで
○印をつけてください。

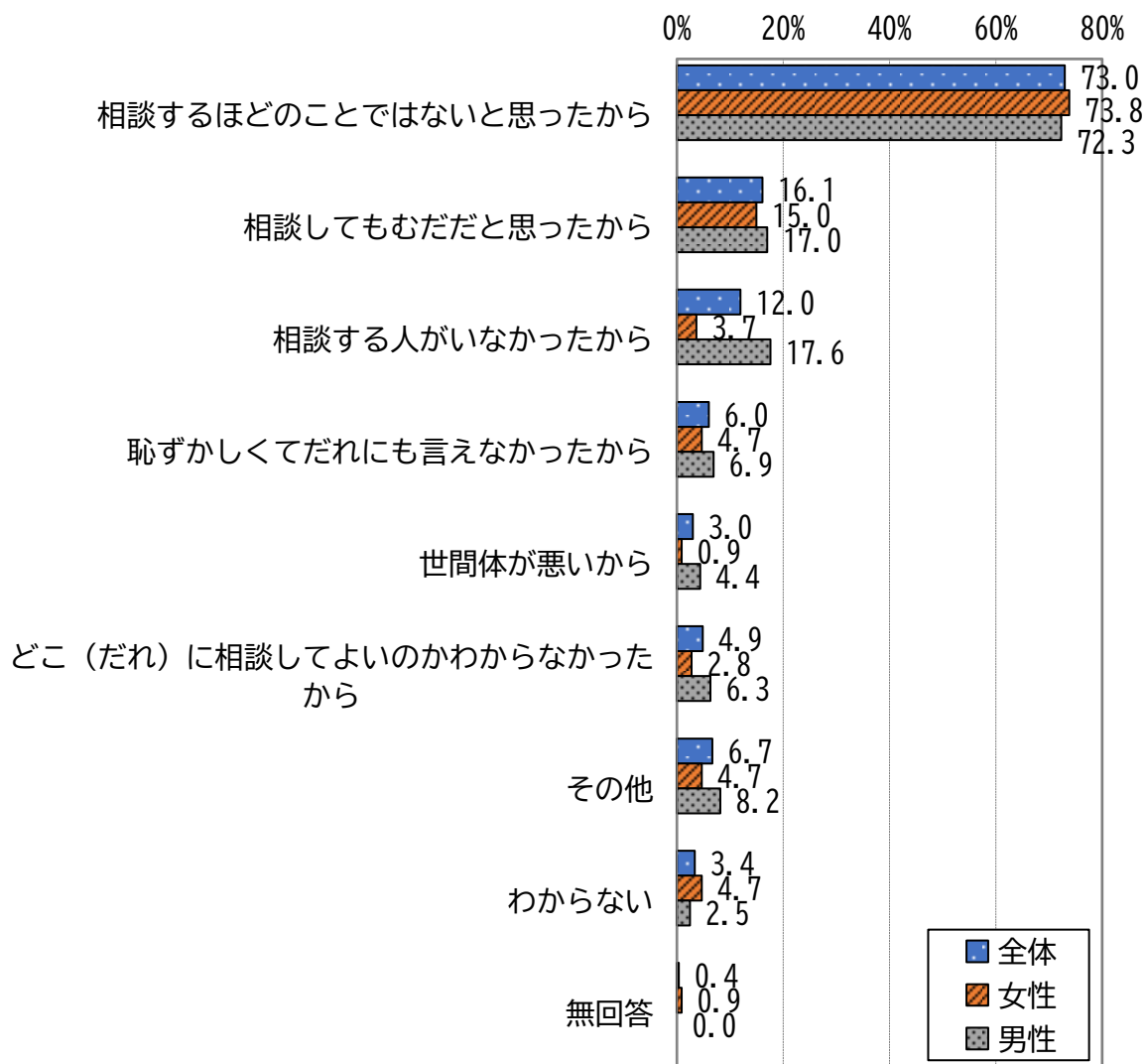
◆暴力などをした際に相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が63.5%と突出して高くなっている。次いで、「相談してもむだだと思ったから」が15.3%、「相談する人がいなかったから」が12.2%で続いている。

◆性別にみても、全体結果と同様に男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が突出して高くなっており、特に男性は女性より6.5ポイント高くなっている。また、「相談する人がいなかったから」については男性が女性を3.6ポイント上回っている。

【今回調査】



【前回調査】



6-(4) 暴力などを受けた際の相談先

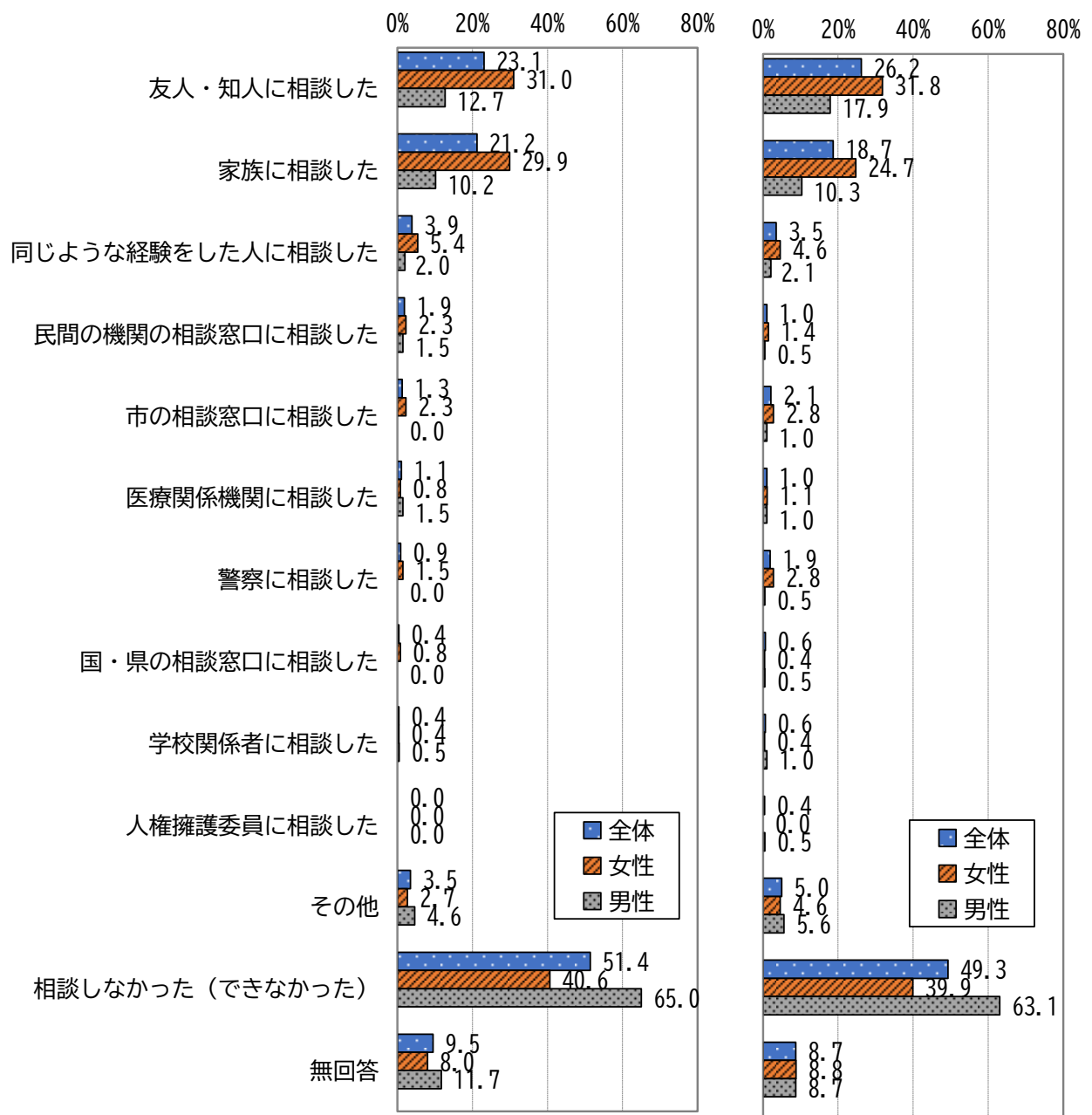
〔n=463〕 **前回共通**

- 問35 【問32の「B相手から受けたことがある」で、13の項目中1つ以上「何度も受けた」又は「一、二度受けた」と回答された方のみお答えください。】
そのような行為を受けたとき、あなたは、どなたかに相談しましたか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆暴力などを受けた際の相談先については、「相談しなかった(できなかった)」が51.4%と最も高く、「友人・知人に相談した」が23.1%、「家族に相談した」が21.2%で続いている。
- ◆前回調査と比較すると、「友人・知人に相談した」が3.1ポイント減少し、「家族に相談した」が2.5ポイント増加した。
- ◆性別にみると、「相談しなかった(できなかった)」は男性が女性を24.4ポイント上回り、「家族に相談した」と「友人・知人に相談した」は女性が男性をそれぞれ19.7ポイント、18.3ポイント上回っている。

【今回調査】

【前回調査】



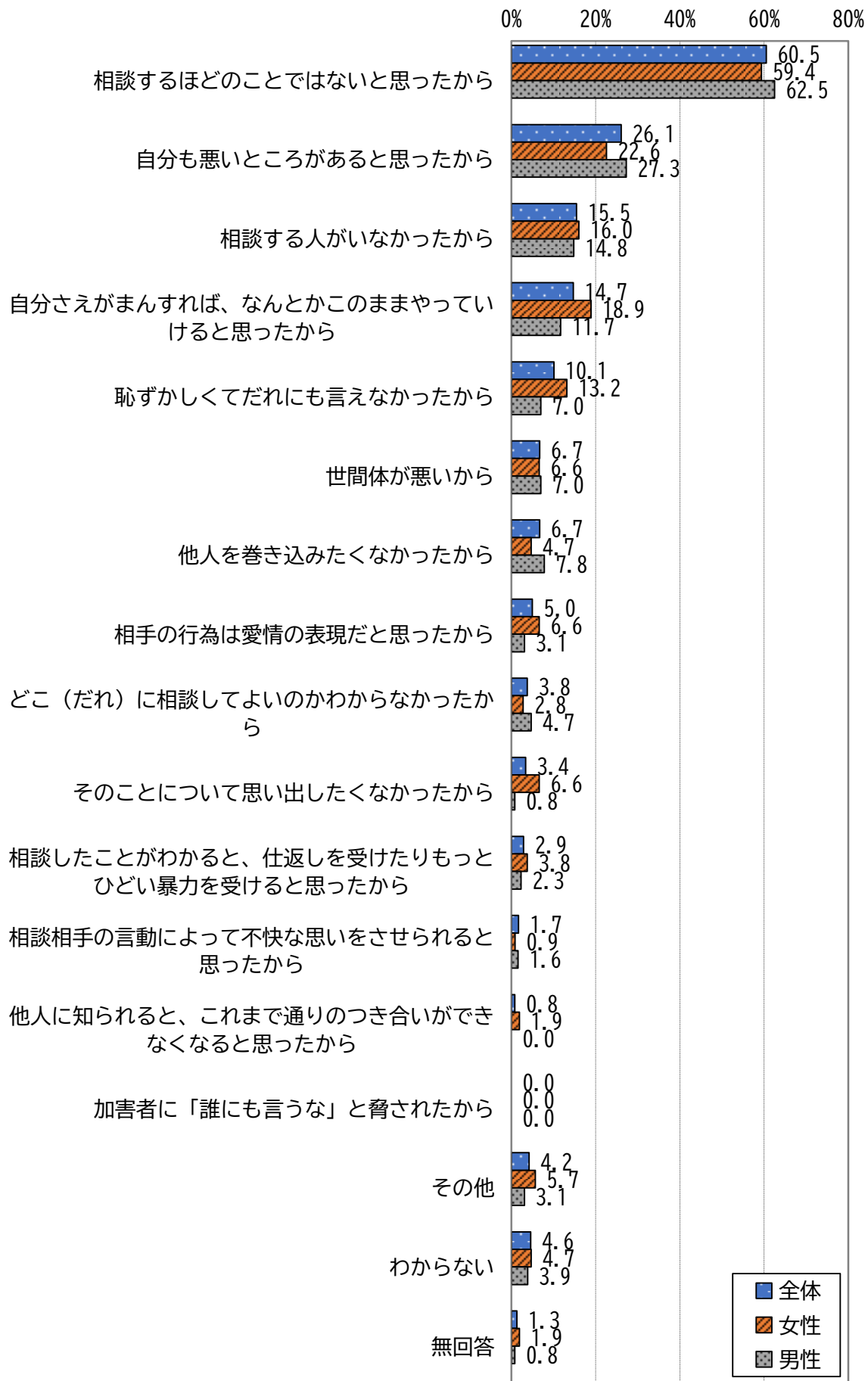
6-(5) 暴力などを受けた際に相談しなかった理由

〔n = 238〕 前回共通

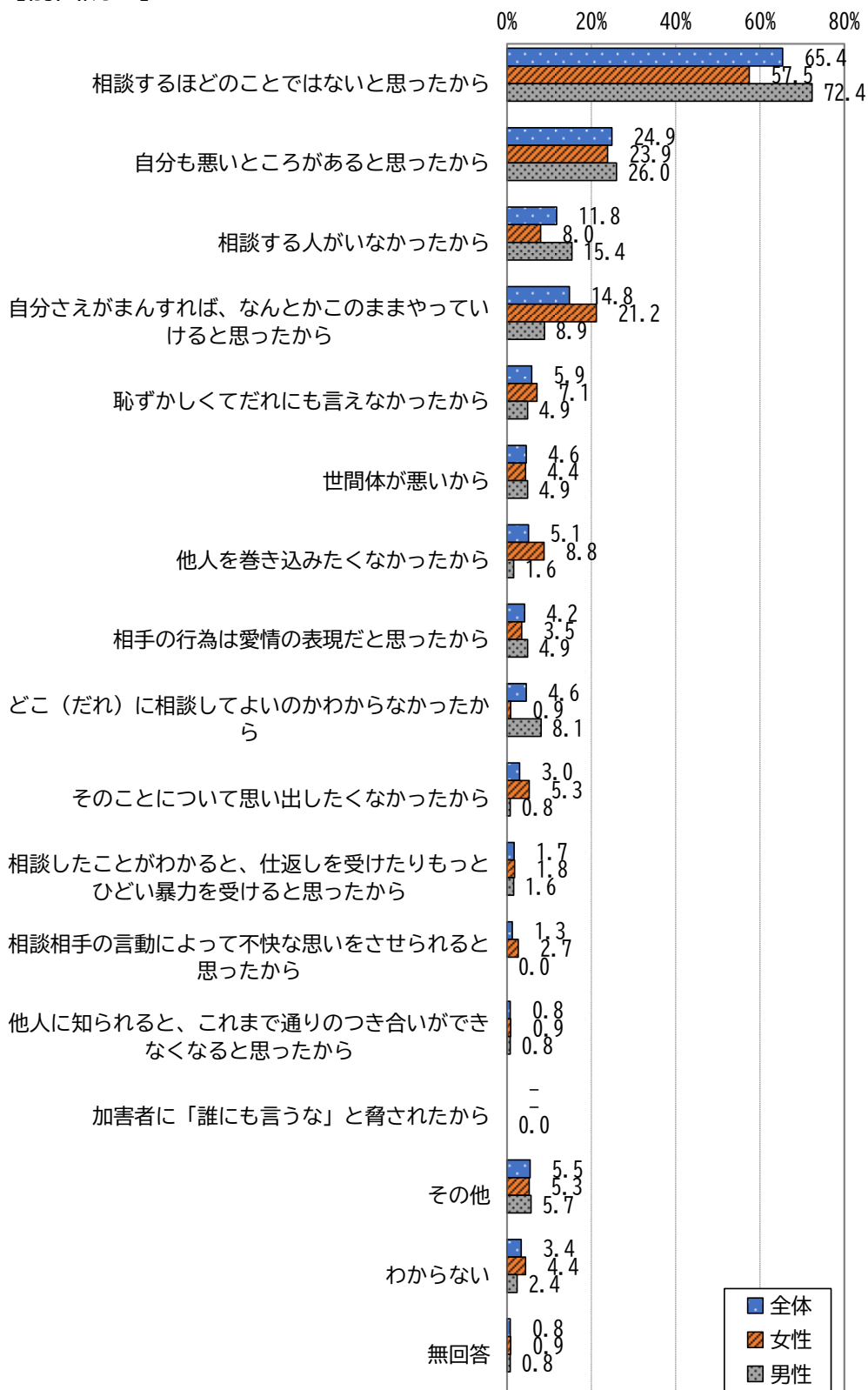
問36 【問35で「相談しなかった(できなかった)」と回答された方のみお答えください。】
相談しなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで
○印をつけてください。

- ◆暴力などを受けた際に相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が60.5%と最も高く、次いで、「自分も悪いところがあると思ったから」が26.1%、「相談する人がいなかったから」が15.5%で続いている。
- ◆前回調査と比較すると、「相談するほどのことではないと思ったから」が4.9ポイント減少する一方、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」は4.2ポイント、「相談する人がいなかったから」は3.7ポイント増加している。
- ◆性別にみると、全体結果と同様に、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、「自分も悪いところがあると思ったから」が続いている。女性では「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が3番目に高く、男性を7.2ポイント上回っている。また、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」は6.2ポイント、「そのことについて思い出したくなかったから」は5.8ポイント、それぞれ男性を上回っている。男性では「相談する人がいなかったから」が3番目に高くなっている。また、「自分も悪いところがあると思ったから」は4.7ポイント、「相談するほどのことではないと思ったから」は3.1ポイント、それぞれ女性を上回っている。

【今回調査】



【前回調査】



6-(6) 暴力などを受けた際の対応

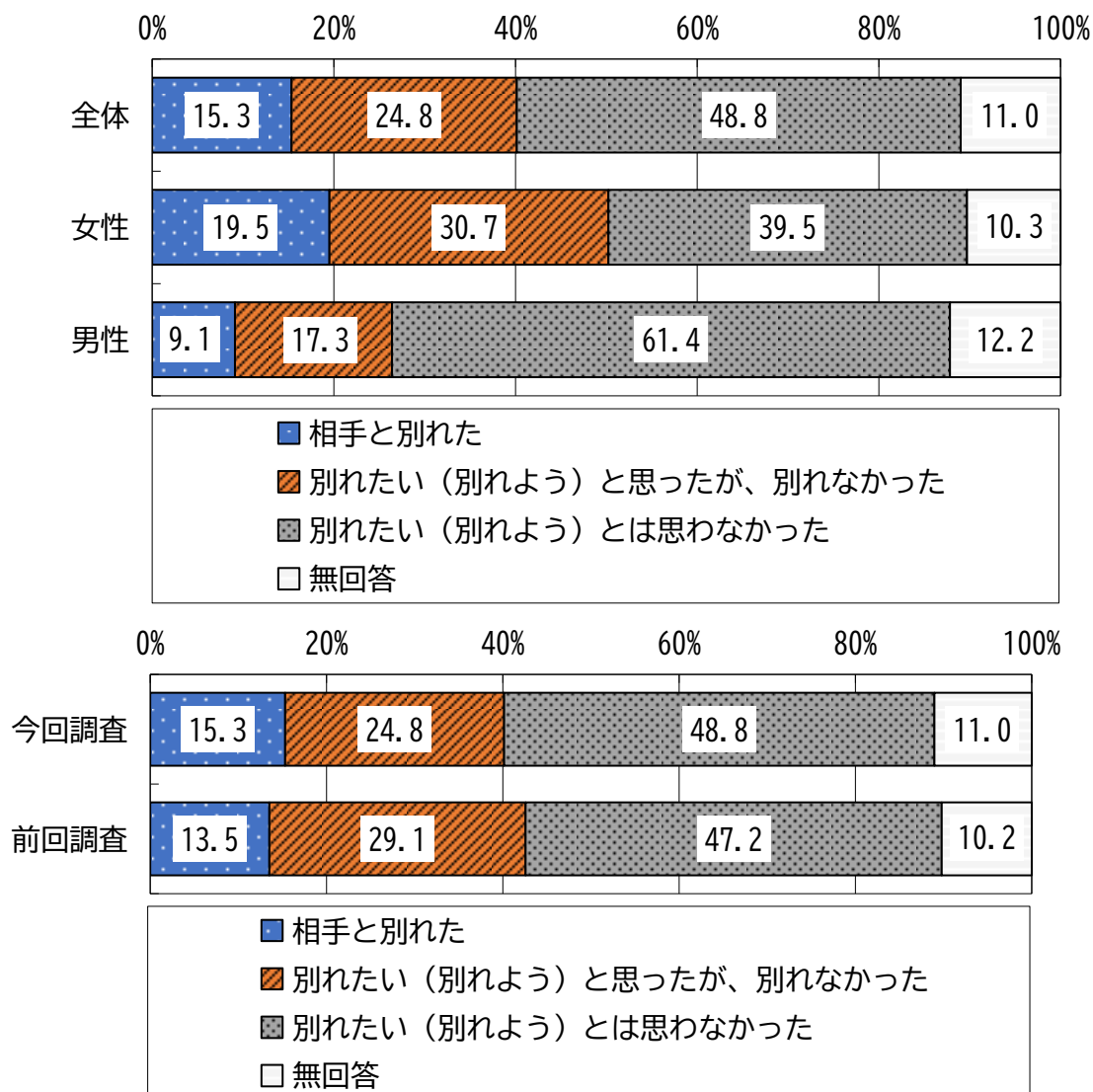
〔n=463〕 前回共通

問37 【問32の「B相手から受けたことがある」で、13の項目中1つ以上「何度も受けた」又は「一、二度受けた」と回答された方のみお答えください。】

あなたは、配偶者等又は交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

◆配偶者等又は交際相手から暴力の加害等を受けた際にどうしたかについては、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」が48.8%を占め、「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」が24.8%、「相手と別れた」が15.3%となっている。前回調査から「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」は4.3ポイント減少した。

◆性別にみると、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」は女性が39.5%、男性が61.4%と、男性が女性を21.9ポイント上回り、差が大きく開いている。また、「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」は女性が30.7%、男性が17.3%と、女性が男性を13.4ポイント上回っている。「相手と別れた」は女性が19.5%、男性が9.1%と、女性が男性を10.4ポイント上回っている。「相手と別れた」は女性が19.5%、男性が9.1%と、女性が男性を10.4ポイント上回っている。



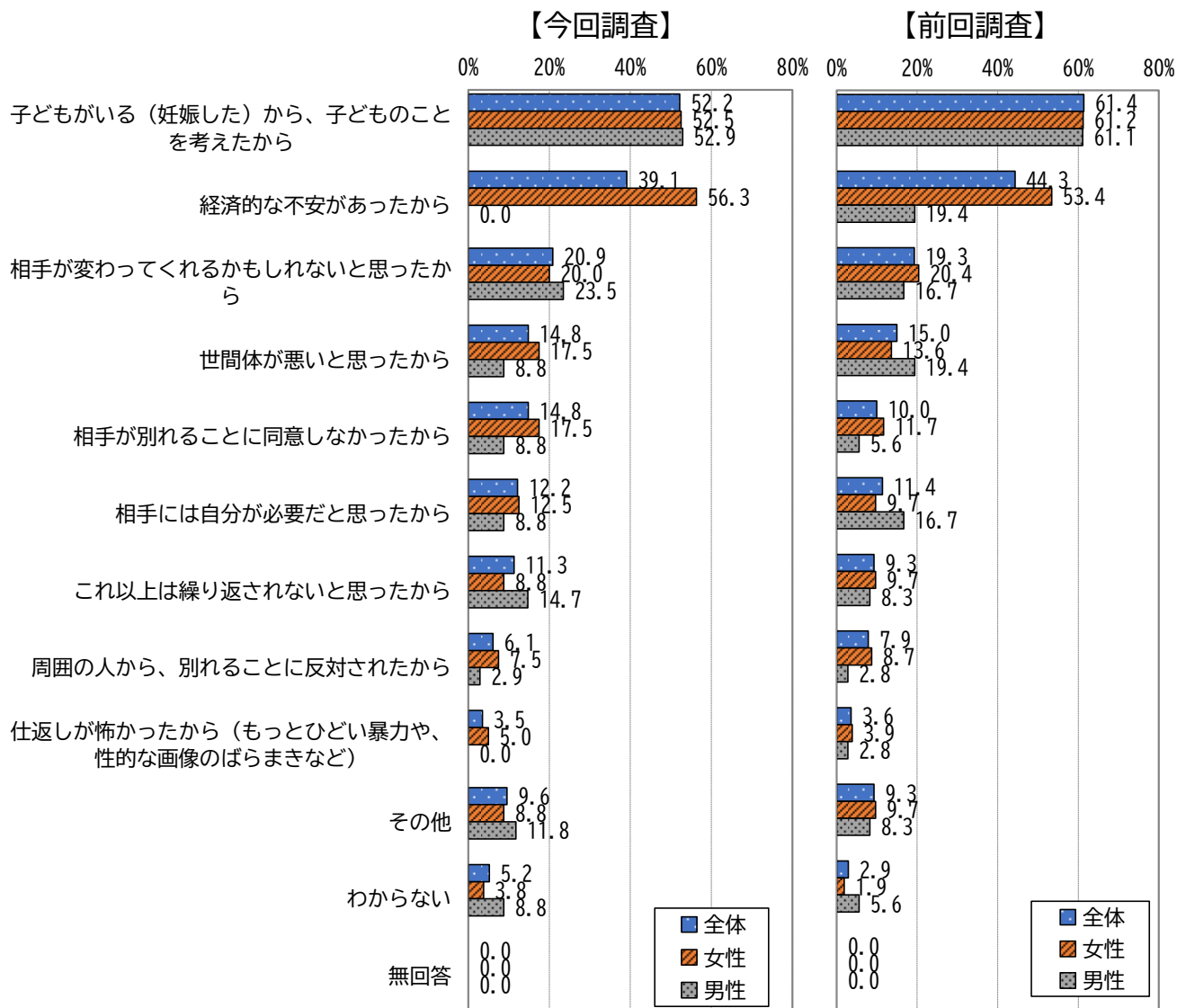
6-(7) 暴力などを受けた配偶者等と別れなかった理由

〔n=115〕 前回共通

問38 【問37で「別れたい(別れよう)」と思ったが、別れなかった」と回答された方のみお答えください。】

別れなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆暴力などを受けた配偶者等と別れなかった理由については、「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」が52.2%と最も高く、次いで、「経済的な不安があったから」(39.1%)、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」(20.9%)と続いている。
- ◆前回調査と比較すると、「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」は9.2ポイント、「経済的な不安があったから」は5.2ポイント減少する一方、「相手が別れることに同意しなかったから」は4.8ポイント増加した。
- ◆性別にみると、女性では「経済的な不安があったから」が56.3%と最も高く、「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」(52.5%)が続いている。男性では「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」が52.9%で最も高く、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」が23.5%で続いている。「経済的な不安があったから」については男性の回答はなく、女性が男性を56.3ポイント上回っている。男性では「これ以上は繰り返されないと思ったから」は5.9ポイント、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」は3.5ポイント、それぞれ女性を上回っている。



6-(8) 暴力などを受けた配偶者等と子どものことで別れなかった理由

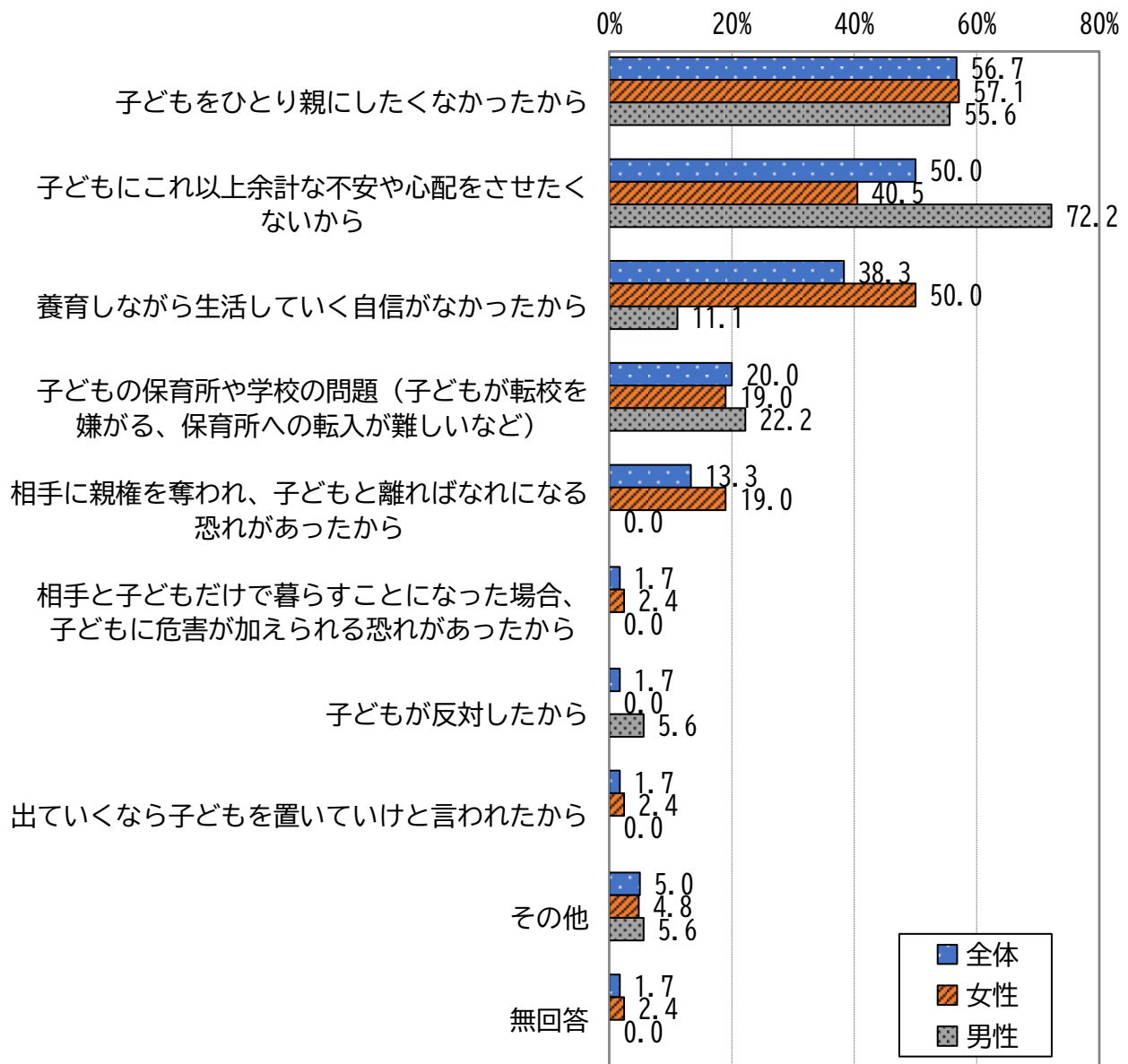
〔n = 60〕 前回共通

問39 【問38で「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」と回答された方のみお答えください。】

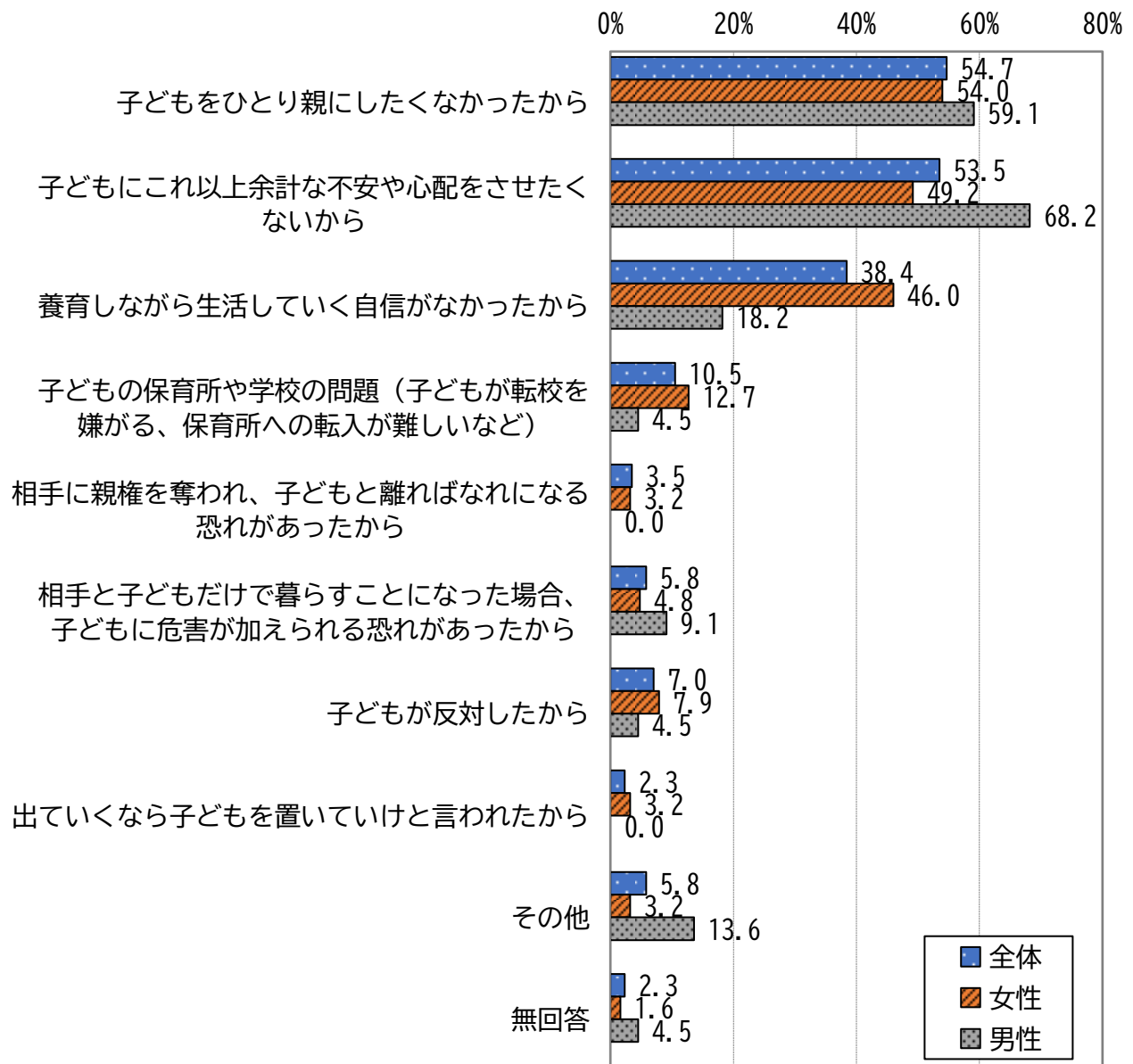
あなたが、子どものことで配偶者と別れなかった主な理由は何ですか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆暴力などを受けた配偶者等と子どものことで別れなかった理由については、「子どもをひとり親にしたくなかったから」が56.7%と最も高く、次いで、「子どもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」(50.0%)、「養育しながら生活していく自信がなかったから」(38.4%)と続いている。
- ◆前回調査と比較すると、「相手に親権を奪われ、子どもと離ればなれになる恐れがあったから」が9.8ポイント、「子どもの保育所や学校の問題(子どもが転校を嫌がる、保育所への転入が難しいなど)」が9.5ポイント増加する一方、「子どもが反対したから」は5.3ポイント、「相手と子どもだけで暮らすことになった場合、子どもに危害が加えられる恐れがあったから」は4.1ポイント、「子どもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」は3.5ポイント減少した。
- ◆全体で最も高い「子どもをひとり親にしたくなかったから」は、男性と女性で大きな差はない。しかし、男性は「子どもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」が72.2%と最も高く、女性を31.7ポイント上回っており、差が大きくなっている。一方、女性は「子どもをひとり親にしたくなかったから」の57.1%に次いで、「養育しながら生活していく自信がなかったから」が50.0%と高く、男性を38.9ポイント上回っており、こちらも差が大きくなっている。

【今回調査】



【前回調査】



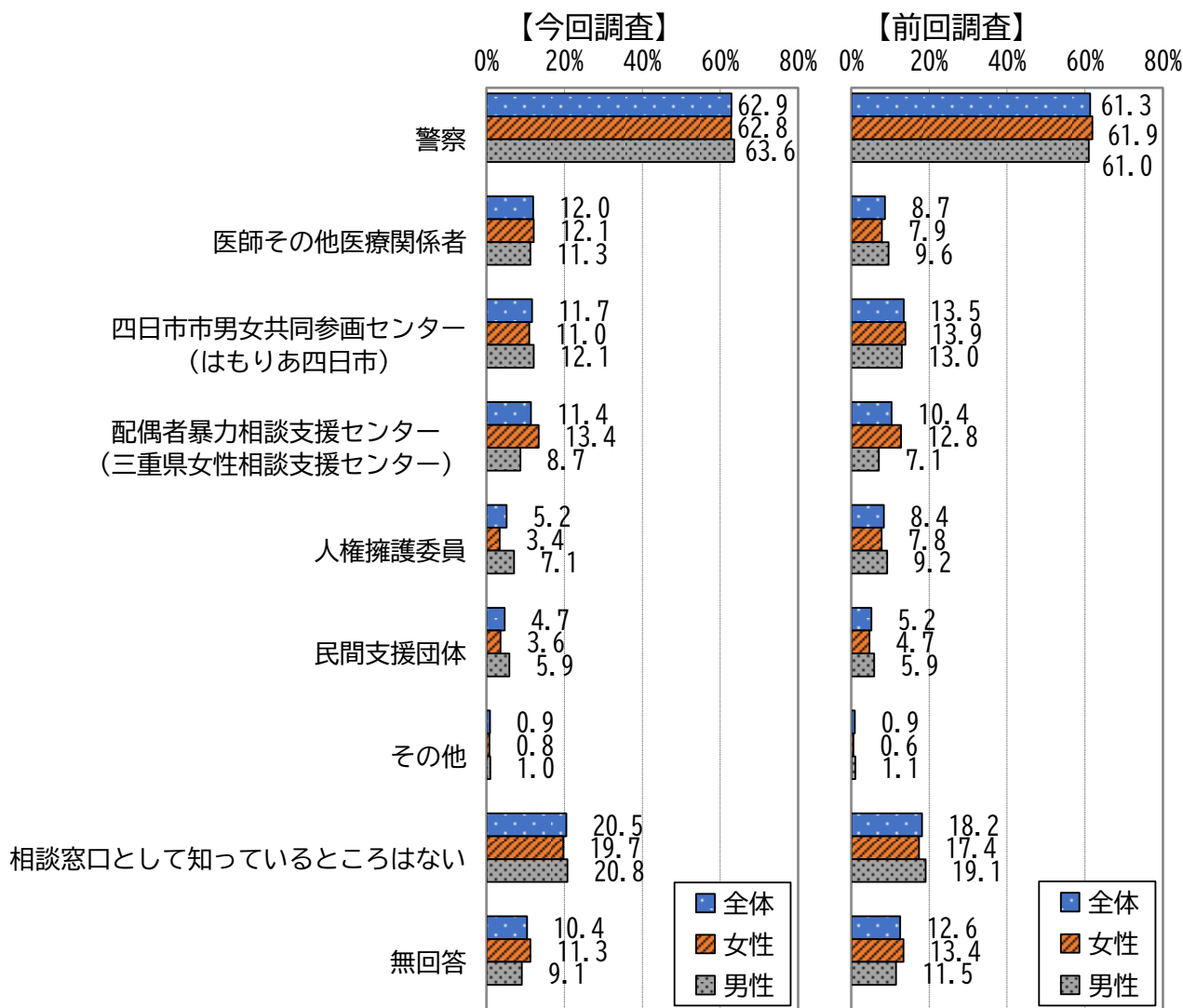
6-(9) 暴力などを受けた際の相談先の認知

〔n=1,138〕 前回共通

問40 【すべての方におたずねします。】

配偶者や恋人などの間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関や関係者のうち知っているものを、次の中から、あてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

- ◆配偶者や恋人などから暴力を受けた際の相談窓口として知っている機関は、「警察」が62.9%と突出して高く、次いで、「医師その他医療関係者」(12.0%)、「四日市市男女共同参画センター(はもりあ四日市)」(11.7%)、「配偶者暴力支援センター(三重県女性相談所)」(11.4%)と続いており、これら以外の機関の認知は1割未満となっている。前回調査から「医師その他医療関係者」は3.3ポイント、「相談窓口として知っているところはない」は2.3ポイント、「警察」は1.6ポイント増加し、「人権擁護委員」は3.2ポイント、「四日市市男女共同参画センター(はもりあ四日市)」は1.8ポイント減少した。
- ◆性別にみても全体とほぼ同様の結果となっているが、女性では「配偶者暴力相談支援センター(三重県女性相談支援センター)」が4.7ポイント男性を上回っている。



7 性の多様性について

7-(1) 「LGBTQ」「性的指向」「性自認」の認知

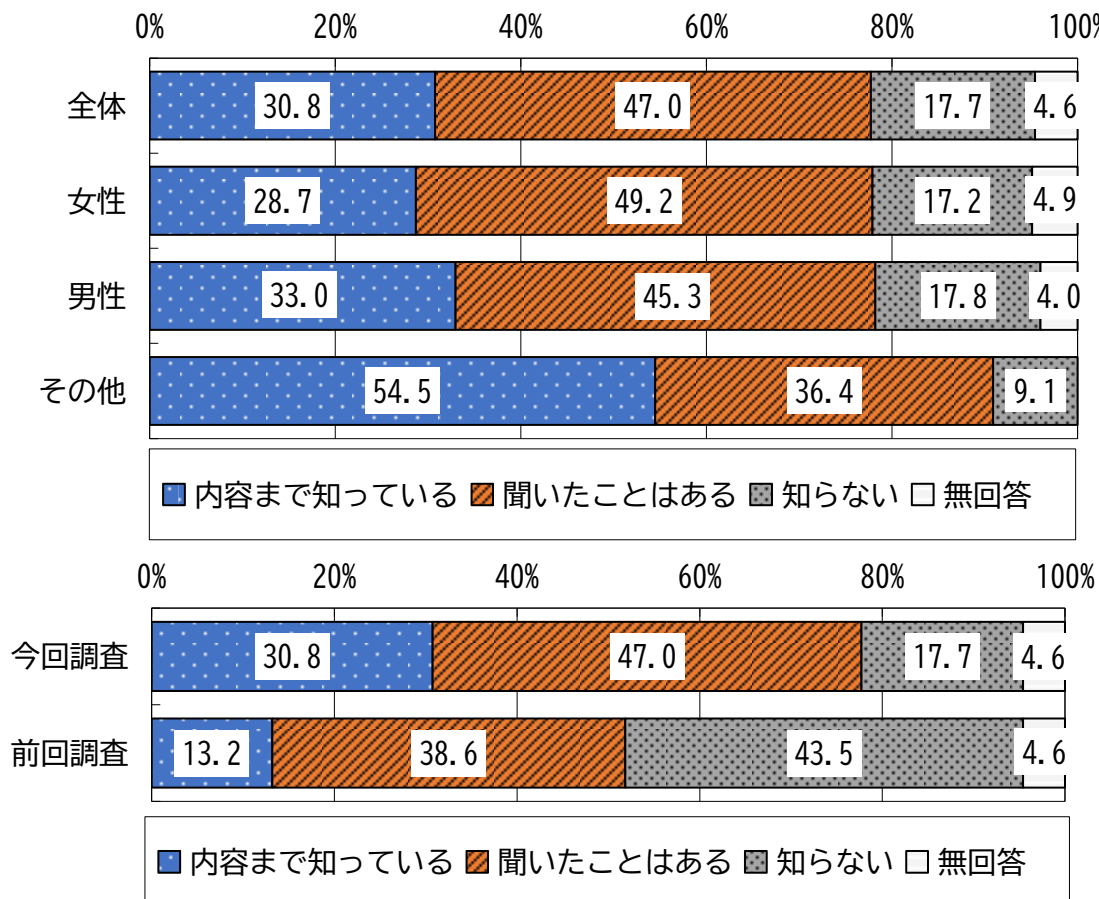
〔n=1,138〕 前回共通(一部変更)

問41 【すべての方におたずねします。】

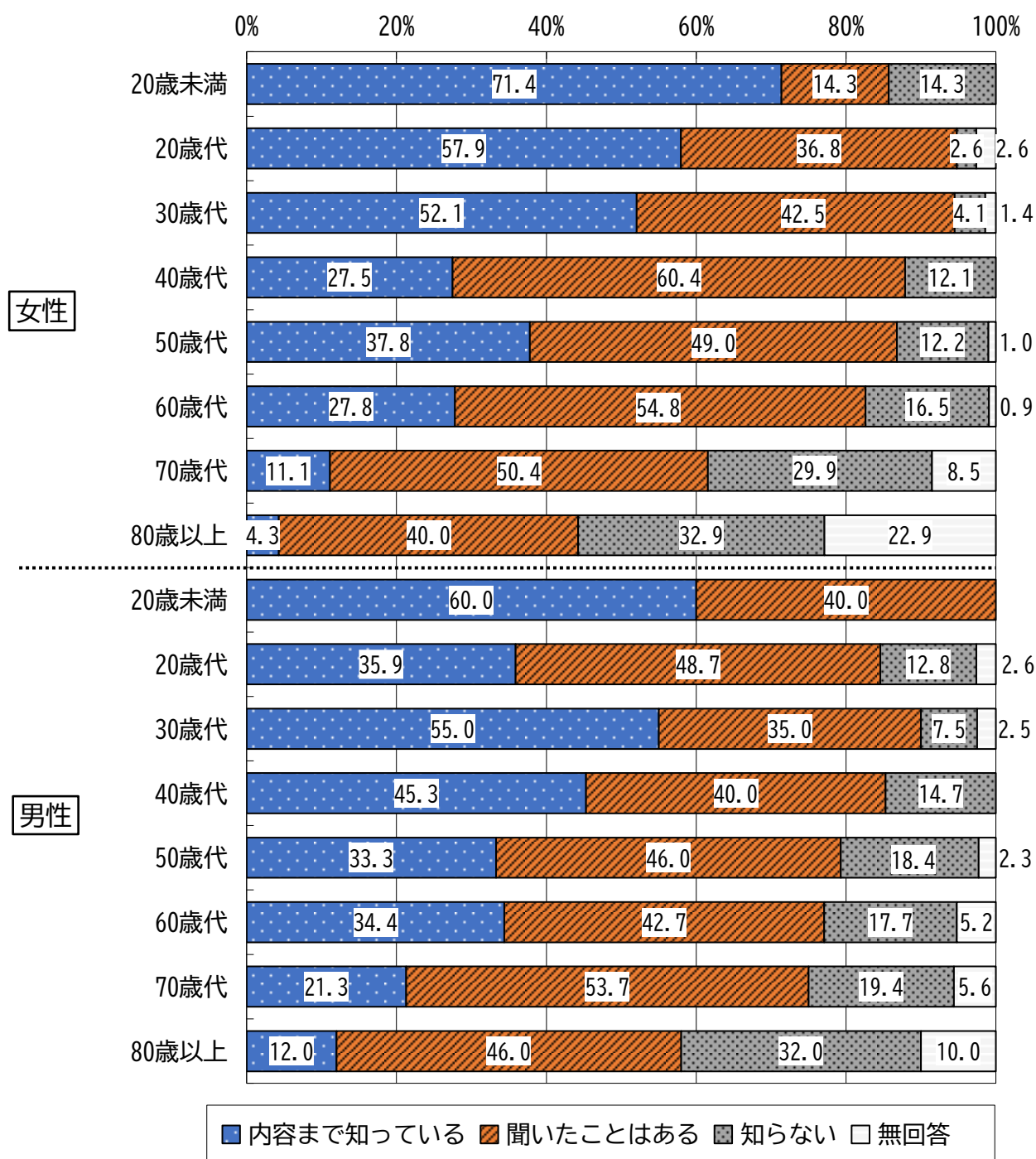
あなたは「LGBTQ」「性的指向」「性自認」という言葉をご存知ですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆「LGBTQ」「性的指向」「性自認」という言葉の認知状況については、「内容まで知っている」は30.8%、「聞いたことはある」は47.0%、「知らない」は17.7%となっている。前回調査から「内容まで知っている」が17.6ポイント増加し、「知らない」が25.8ポイント減少した。
- ◆性別にみると、男性では「内容まで知っている」が女性を4.3ポイント上回っている。また、その他※では「内容まで知っている」は過半数を占めている。
- ◆性・年齢別にみると、女性の30歳代以下と20歳未満男性、30歳代男性では「内容まで知っている」が5割を超えており、特に、20歳未満男女では6～7割に上る。また、20歳代以下と50歳代では女性のほうが男性よりも「内容まで知っている」は高くなっている。一方、女性の70歳代以上と男性の80歳以上では「知らない」が3割前後と高い。

※問49で、戸籍上の区分とは別にご自身の主観によりお答えいただいた性別で「その他」を選択された人。



性・年齢別



7-(2) 自分の恋愛対象に悩んだり、自分の性に違和感を覚えた経験

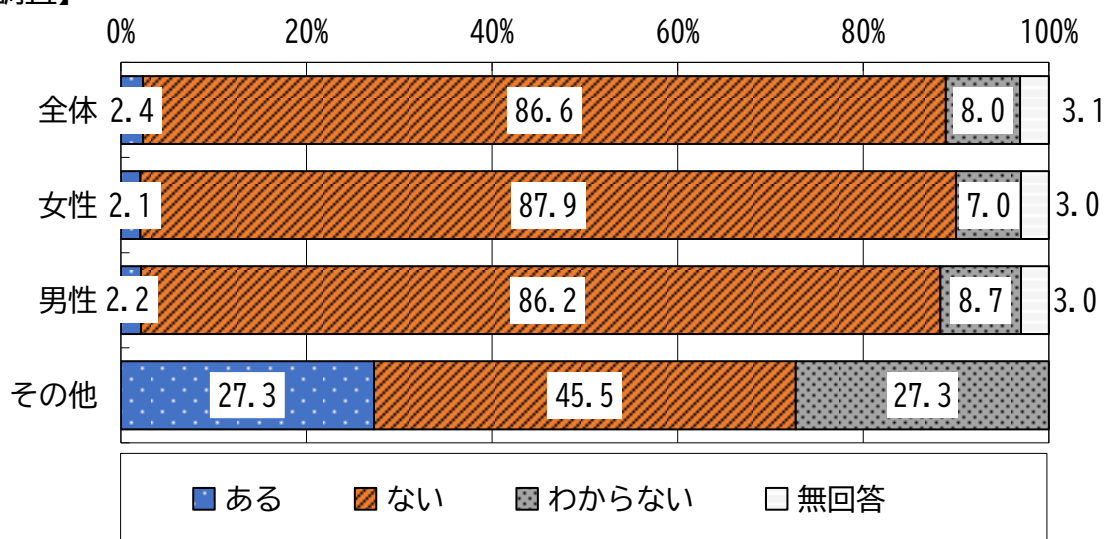
〔n=1,138〕 前回共通(一部変更)

問42 【すべての方におたずねします。】

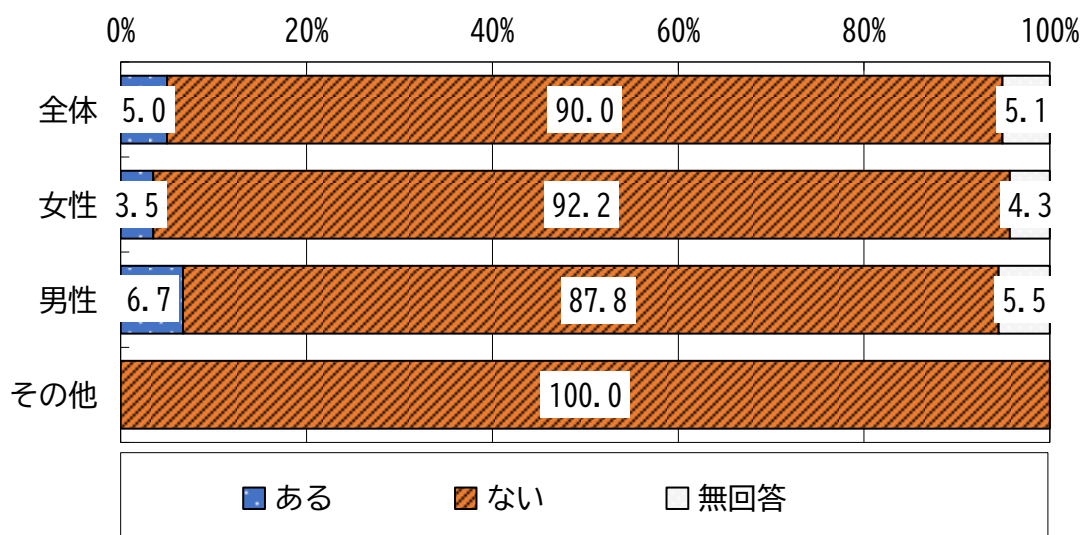
あなたは、今までに自分の恋愛対象の性について悩んだり、自分の性に違和感を感じたりしたことはありますか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

◆今までに自分の恋愛対象の性について悩んだり、自分の性に違和感を感じたりしたことが「ある」方は、全体で2.4%、女性で2.1%、男性で2.2%、その他で27.3%となっている。

【今回調査】



【前回調査】



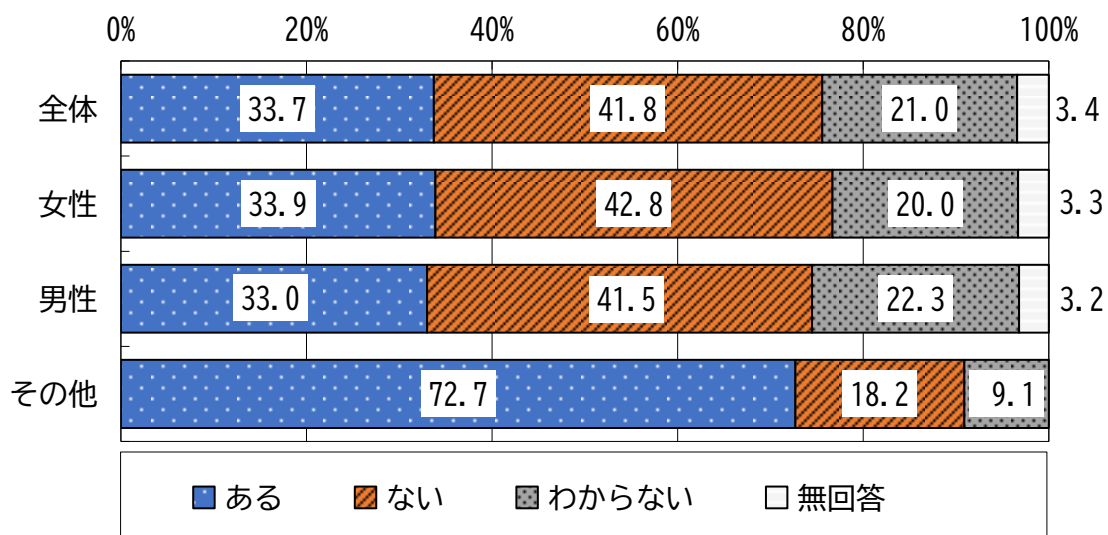
7-(3) LGBTQに対する否定的な言動を見聞きした経験

〔n=1,138〕

問43 【すべての方におたずねします。】

あなたは、LGBTQに対する否定的な言動を見聞きしたことはありますか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

◆LGBTQに対する否定的な言動を見聞きしたことが「ある」方は、33.7%、女性で33.9%、男性で33.0%、その他で72.7%となっている。



7-(4) 性の多様性を認め合う社会を作るために必要な施策・対策

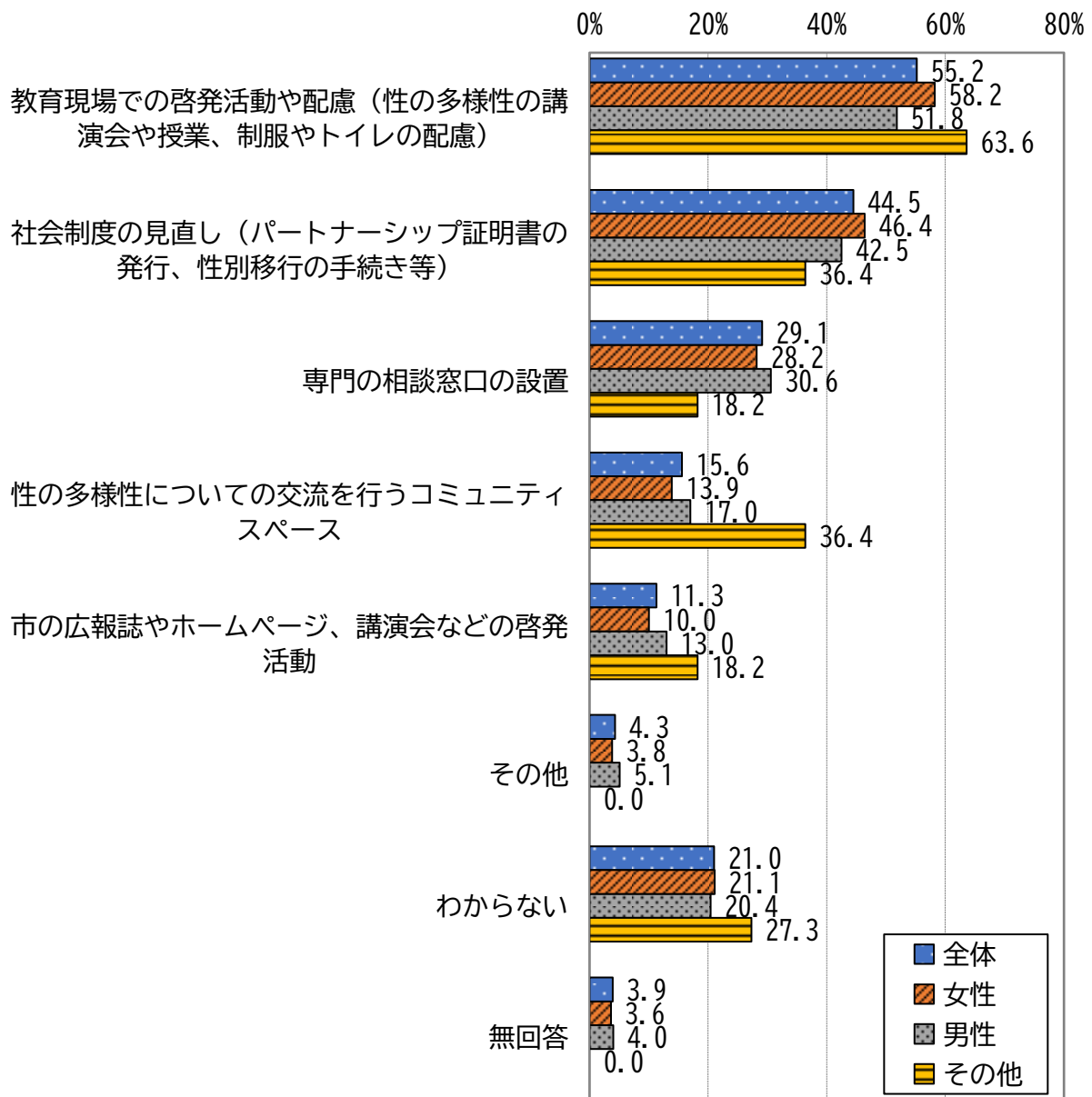
〔n=1,138〕 前回共通

問44 【すべての方におたずねします。】

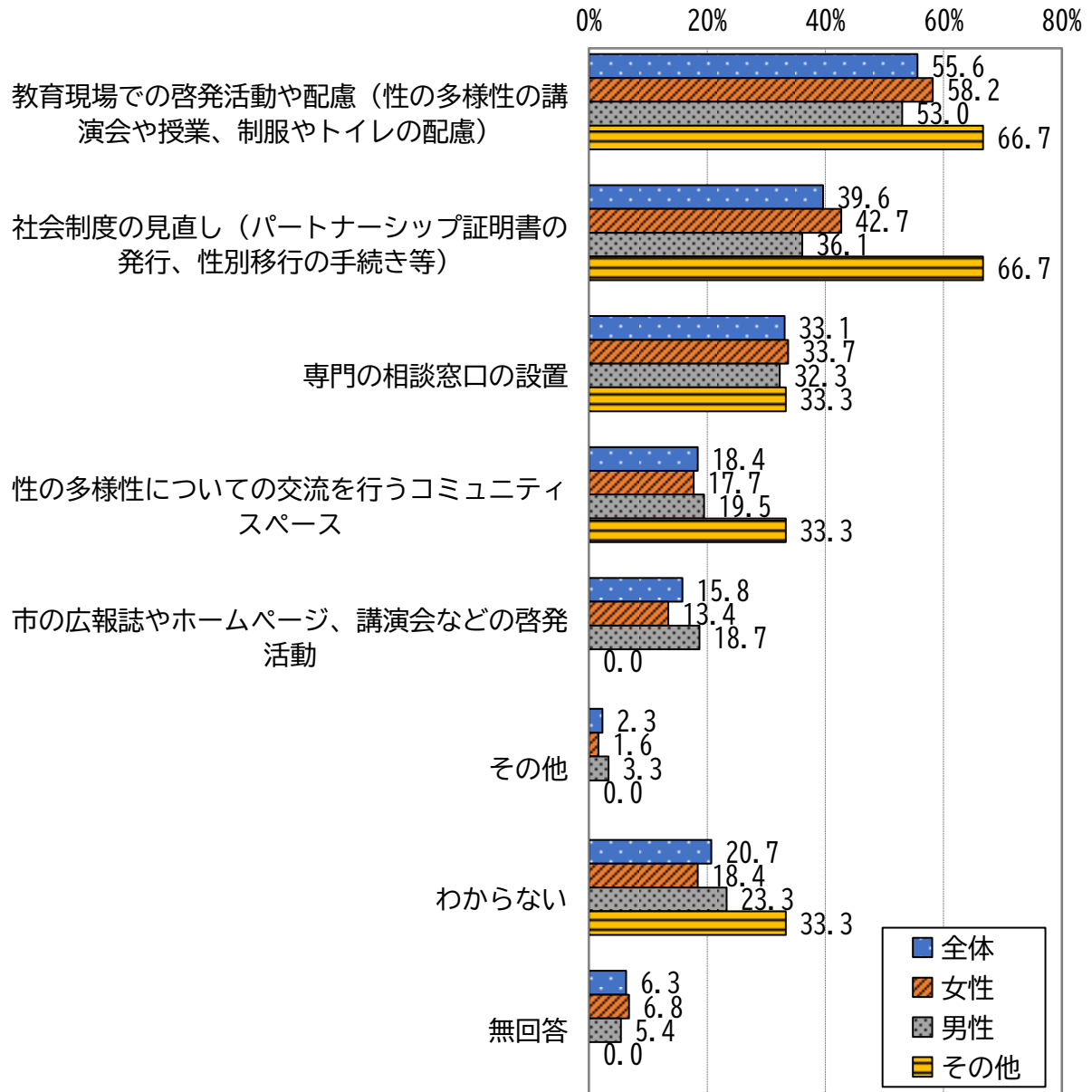
あなたは、性の多様性を認め合う社会を作るために、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆性の多様性を認め合う社会を作るために必要なことについては、「教育現場での啓発活動や配慮」が55.2%と最も高く、次いで、「社会制度の見直し」(44.5%)、「専門の相談窓口の設置」(29.1%)と続いている。前回調査から「社会制度の見直し」が4.9ポイント増加する一方、「市の広報誌やホームページ、講演会などの啓発活動」は4.5ポイント、「専門の相談窓口の設置」は4.0ポイント減少した。
- ◆性別にみても全体と同様の結果となっているが、「教育現場での啓発活動や配慮」と「社会制度の見直し」については女性が男性をそれぞれ6.4ポイント、3.9ポイント上回っている。また、「性の多様性についての交流を行うコミュニティスペース」、「市の広報誌やホームページ、講演会などの啓発活動」、「専門の相談窓口の設置」については、男性が女性をそれぞれ3.1ポイント、3.0ポイント、2.4ポイント、上回っている。

【今回調査】



【前回調査】



8 男女共同参画社会について

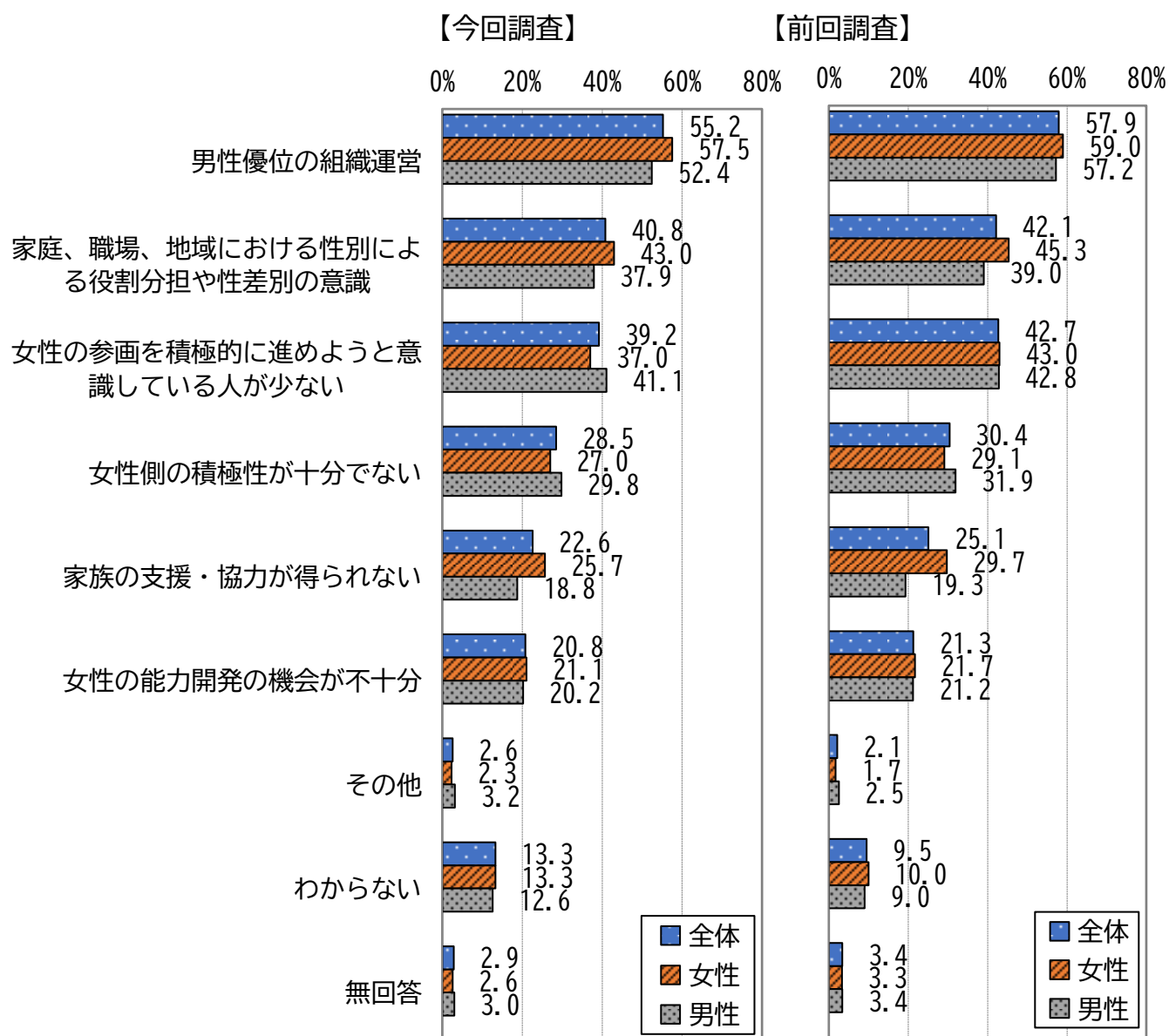
8-(1) 政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由

〔n = 1, 138〕 **前回共通**

問45 【すべての方におたずねします。】

あなたは、政治や行政において、政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由についてたずねたところ、「男性優位の組織運営」が55.2%と最も高く、次いで、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」(40.8%)、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」(39.2%)と続いている。
- ◆前回調査と比較すると、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」は3.5ポイント、「男性優位の組織運営」は2.7ポイント、「家族の支援・協力が得られない」は2.5ポイント減少するなど、ほとんどの項目で減少した。
- ◆性別にみると、男女ともに全体結果と同様に「男性優位の組織運営」が最も高くなっているが、次いで、女性では「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」が43.0%で続いており、男性を5.1ポイント上回っている。また、「家族の支援・協力が得られない」についても6.9ポイント男性を上回っている。一方、男性では「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」が4.1ポイント女性を上回っている。



8-(2) 男女共同参画を推進するための力点

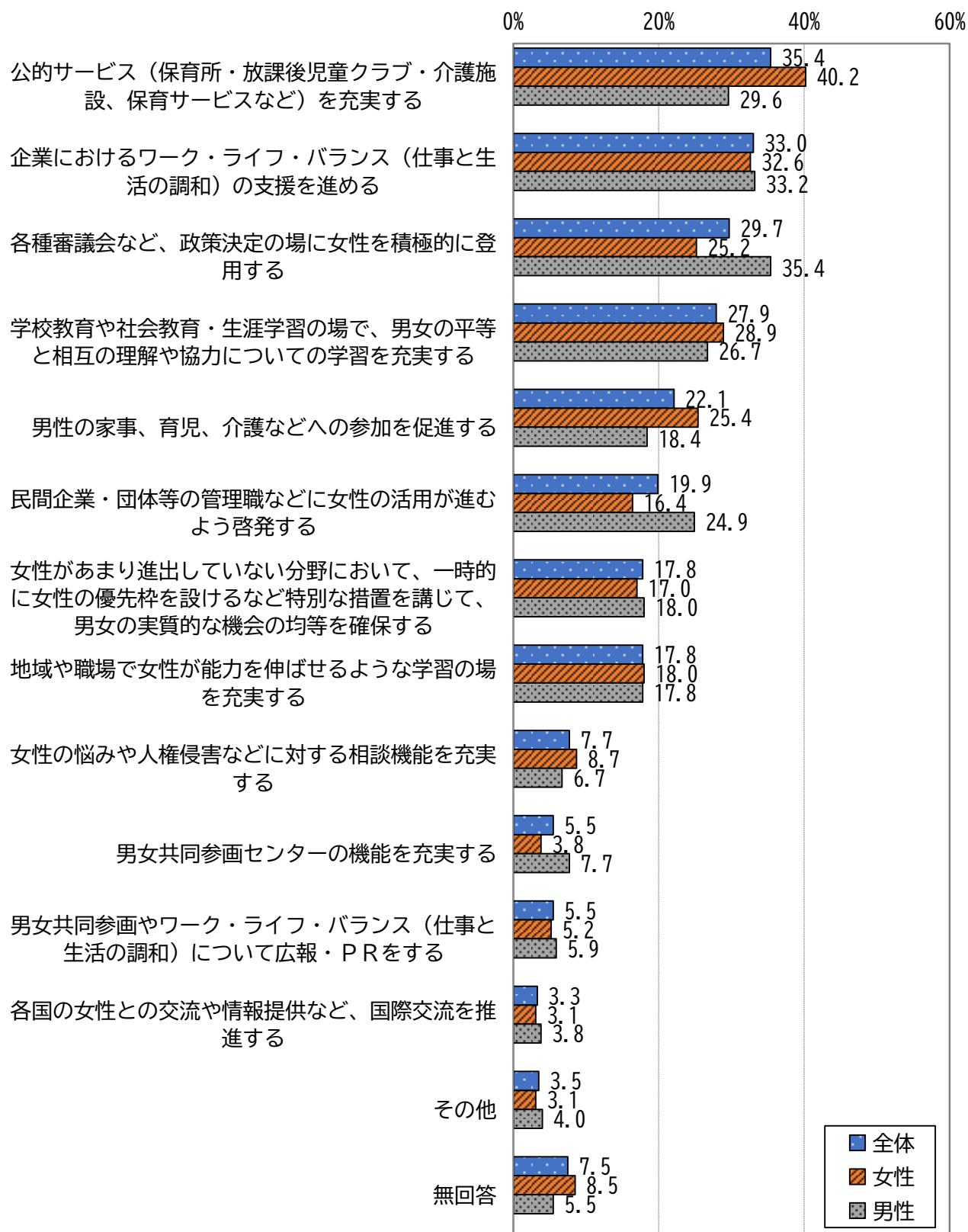
〔n=1,138〕 **前回共通**

問46 【すべての方におたずねします。】

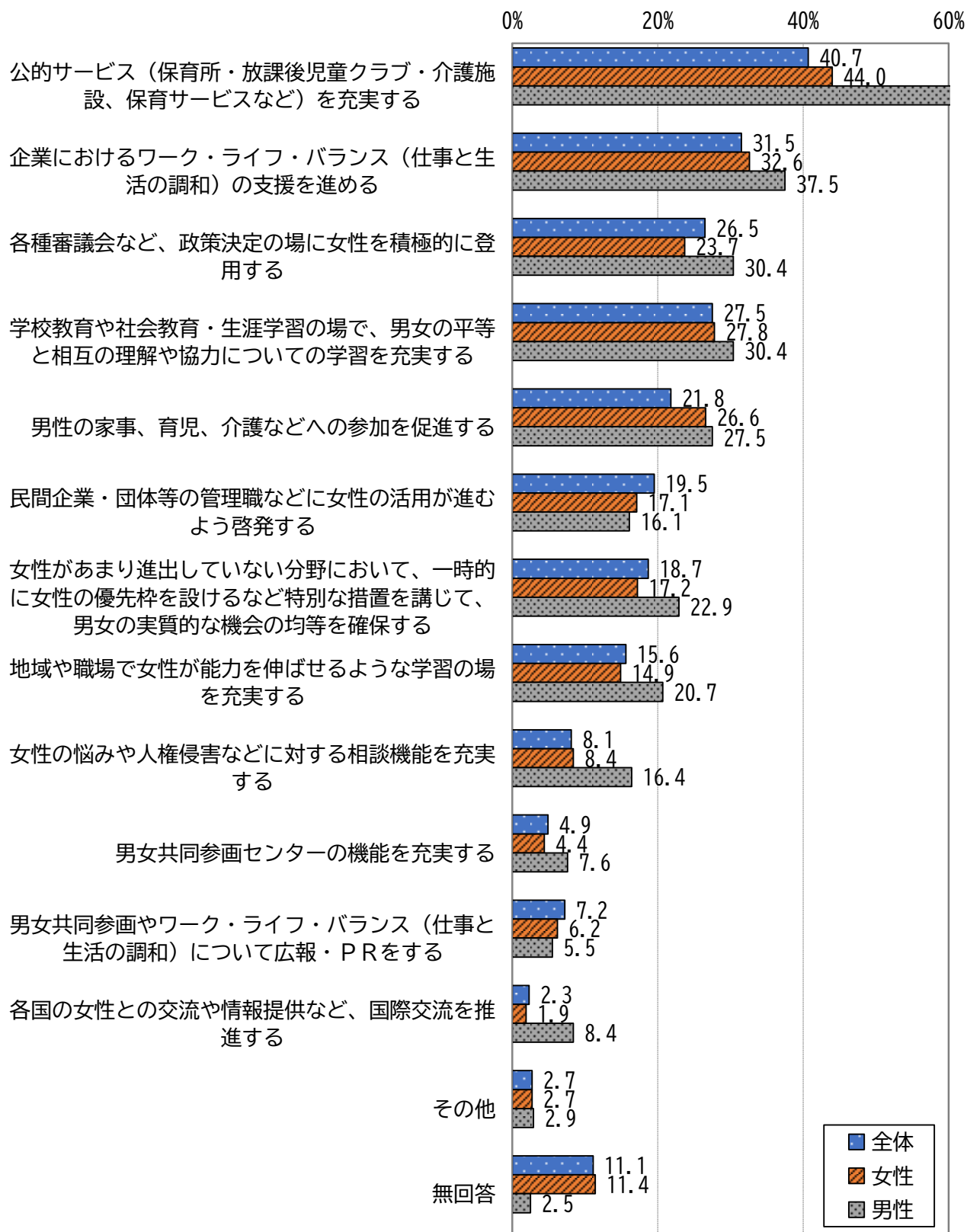
男女共同参画社会の実現のために、市はどのような施策を推進すべきだと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆男女共同参画社会の実現のために、市が推進すべき施策については、「公的サービス(保育所・放課後児童クラブ・介護施設、保育サービスなど)を充実する」が35.4%と最も高く、次いで、「企業におけるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の支援を進める」(33.0%)、「各種審議会など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」(29.7%)、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」(27.9%)と続いている。
- ◆前回調査と比較すると、「公的サービス(保育所・放課後児童クラブ・介護施設、保育サービスなど)を充実する」が5.3ポイント減少する一方、「各種審議会など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」は3.2ポイント増加した。
- ◆性別にみると、女性では「公的サービス(保育所・放課後児童クラブ・介護施設、保育サービスなど)を充実する」が最も高く、次いで、「企業におけるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の支援を進める」が続いている。男性では「各種審議会など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が最も高く、次いで、「企業におけるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の支援を進める」が続いている。また、女性では「公的サービス(保育所・放課後児童クラブ・介護施設、保育サービスなど)を充実する」が男性を10.6ポイント、「男性の家事、育児、介護などへの参加を促進する」が7.0ポイント上回る一方、男性では「各種審議会など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が10.2ポイント、「民間企業・団体等の管理職などに女性の活用が進むよう啓発する」が8.5ポイント女性を上回り、男女間で意識の差がみられる。

【今回調査】



【前回調査】



9 男女共同参画センターについて

9-(1) 四日市市男女共同参画センターの認知度

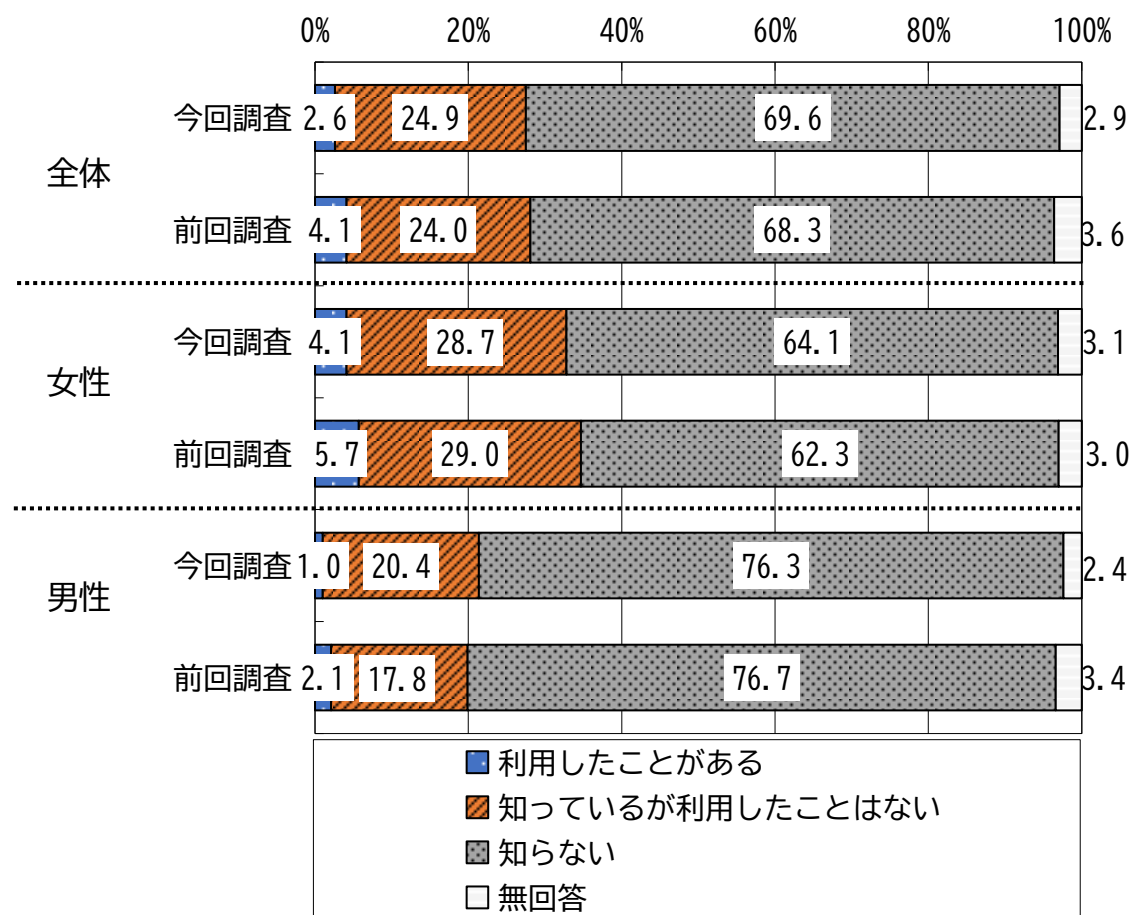
〔n=1,138〕 **前回共通**

問47 【すべての方におたずねします。】

あなたは、四日市市男女共同参画センター「はもりあ」をご存じですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

◆四日市市男女共同参画センターを「利用したことがある」方は2.6%と、前回調査の4.1%から1.5ポイント減少している。なお、「知っているが利用したことはない」までを含めた認知度は27.5%と、前回調査(28.1%)とほぼ同じ傾向となっている。

◆性別にみると、男女共同参画センターの認知度(「利用したことがある」、「知っているが利用したことはない」の合計)は男性では1.5ポイント増加している。



9-(2) 四日市市男女共同参画センターでの実施事業の認知度

〔n = 1, 138〕

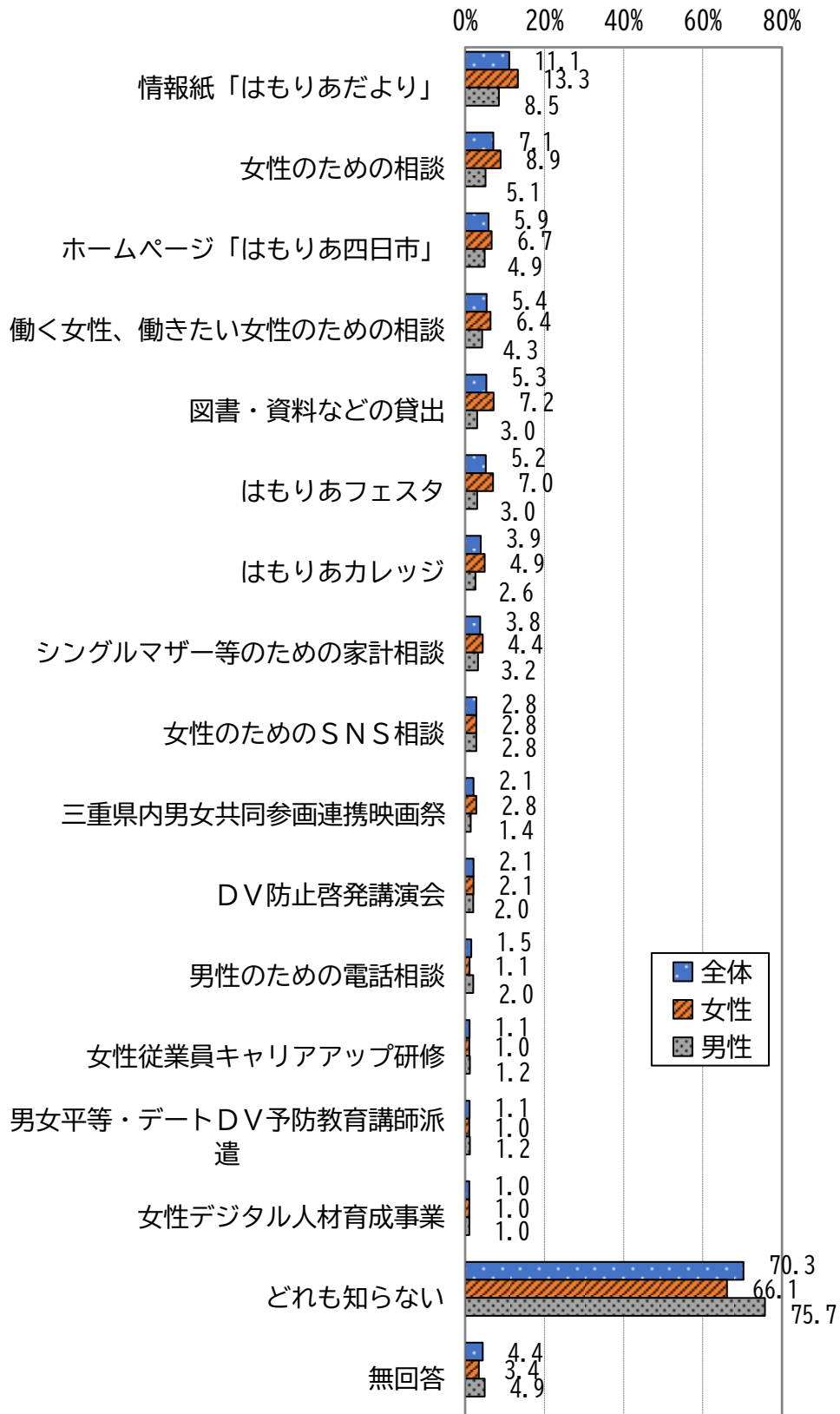
前回共通(一部変更)

問48 【すべての方におたずねします。】

四日市市男女共同参画センターで行っている、次のような事業をご存じですか。
次の中から、ご存じのものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆四日市市男女共同参画センターでの実施事業を知っている方は少なく、知っている事業では「情報紙「はもりあだより」」が11.1%と最も高くなっているが、その他の事業はいずれも10%未満と少ない。
- ◆性別にみると、女性ではほとんどの項目で男性を上回っており、「情報紙「はもりあだより」」は4.8ポイント、「図書・資料などの貸出」は4.2ポイント、「はもりあフェスタ」は4.0ポイント、「女性のための相談」は3.8ポイント、それぞれ男性を上回っている。また、「どれも知らない」は男性が女性を9.6ポイント上回っている。

【今回調査】



【前回調査】



男女共同参画に関する市民意識調査 回答用紙

1. 男女平等についておたずねします。

問1 【すべての方におたずねします。】

あなたは次の各項目の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

①～⑧の各項目について、それぞれ1つずつ選んで○印をつけてください。

	選 択 肢					
	1	2	3	4	5	6
	男性のほう が優遇されて いる	どちらかとい えば 男性のほう が優遇されて いる	平 等 に な っ て い る	ど ち ら か と い え ば 女性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る	女 性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い
①家庭で	1	2	3	4	5	6
②職場で	1	2	3	4	5	6
③学校で	1	2	3	4	5	6
④法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑤政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑥自治会活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念・慣習・しきたりで	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体で	1	2	3	4	5	6

問2 【すべての方におたずねします。】

今後、あなたが、社会のあらゆる分野でもっと男女が平等になるために最も重要だと思うことは何でしょうか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
2. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
5. 政府や企業等の重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
6. その他（具体的に： _____）
7. わからない

2. 結婚、家庭、子育てについておたずねします。

問3 【すべての方におたずねします。】

あなたは結婚していますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|-------------------------|--------|
| 1. 結婚している（配偶者と同居） | ⇒（問4へ） |
| 2. 結婚していないがパートナーと暮らしている | |
| 3. 結婚している（配偶者と別居） | ⇒（問7へ） |
| 4. 離婚、死別等により配偶者なし | |
| 5. 結婚していない | |

問4 【問3で「1」、「2」と回答された方におたずねします。】

あなたの配偶者又はパートナーは収入を伴う仕事をされていますか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

- | | |
|----------|--------|
| 1. している | ⇒（問5へ） |
| 2. していない | ⇒（問6へ） |

問5 【問4で「1. している」と回答された方におたずねします。】

あなたの配偶者又はパートナーの仕事について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|------------------------------------|-----------------|
| 1. 正社員・職員 | 4. 起業家・経営者（法人） |
| 2. 非正社員・非正職員
（パート、アルバイト、派遣、契約等） | 5. 自営業（家族従事者含む） |
| 3. 会社・団体の役員（経営者以外） | 6. 家庭内職 |
| | 7. その他（ ） |

問6 【問3で「1」、「2」と回答された方におたずねします。】

あなたと配偶者又はパートナーとの家事（育児や介護を含む）の分担比率はどの程度ですか。下記表にご記入ください。

	あなた	配偶者（又はパートナー）
（例）	4	6
（記入欄）		

問7 【すべての方におたずねします。】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方※について、あなたはどのように思いますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

※個人の能力や資質とは関係なく性別によって役割を決めようとする考え方（固定的性別役割分担意識）

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. そう思う | ⇒（問8へ） |
| 2. どちらかといえばそう思う | |
| 3. どちらかといえばそう思わない | ⇒（問9へ） |
| 4. そう思わない | |
| 5. わからない | |

問8 【問7で「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」と回答された方におたずねします。】
そう考えるのはどのような理由ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
2. 自分の両親も役割分担をしていたから
3. 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4. 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
5. 妻が家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから
6. その他 ()
7. 特にない
8. わからない

問9 【問7で「4. そう思わない」、「3. どちらかといえばそう思わない」と回答された方におたずねします。】
そう考えるのはどのような理由ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 男女平等に反すると思うから
2. 自分の両親も外で働いていたから
3. 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
4. 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
5. 家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは可能だと思うから
6. 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
7. その他 ()
8. 特にない
9. わからない

問10 【すべての方におたずねします。】

今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること
6. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
7. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの ICT を利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
8. 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
9. 男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
10. その他 ()
11. 特に必要なことはない

3. 職業生活についておたずねします。

問 11 【すべての方におたずねします。】

あなたは現在どのような仕事についていますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | | | |
|------------------------------------|-----------|------------|--------------------------|
| 1. 正社員・職員 | ⇒(問 12 へ) | 6. 家庭内職 | 2.~5. と回答された方は⇒(問 18 へ) |
| 2. 非正社員・非正職員
(パート、アルバイト、派遣、契約等) | | 7. 主婦・主夫 | |
| 3. 会社・団体の役員(経営者以外) | | 8. 学生 | 6.~10. と回答された方は⇒(問 20 へ) |
| 4. 起業家・経営者(法人) | | 9. 無職 | |
| 5. 自営業(家族従事者含む) | | 10. その他() | |

問 12 【問 11 で「1. 正社員・職員」と回答された方におたずねします。】

あなたは現在、管理職(課長相当職以上)への昇格を希望していますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | | |
|----------|-----------|-------------|
| 1. 希望する | ⇒(問 13 へ) | 3. 既に管理職である |
| 2. 希望しない | ⇒(問 14 へ) | 4. わからない |

問 13 【問 12 で「1. 希望する」と回答された方におたずねします。】

その理由をお答えください。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 給料が上がるから | 4. 上司・会社に期待されていると感じるから |
| 2. 能力的にできると思うから | 5. その他() |
| 3. 裁量権が大きくなりやりがいがあるから | |

問 14 【問 12 で「2. 希望しない」と回答された方におたずねします。】

その理由をお答えください。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 仕事と生活の両立ができないから | 4. 長く会社に在籍するつもりがないから |
| 2. 自分には務まらないから | 5. その他() |
| 3. 管理職の仕事にやりがいや魅力を感じないから | |

問 15 【問 11 で「1. 正社員・職員」と回答された方におたずねします。】

あなたの職場では、男性は育児休業を取りやすいと思いますか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

- | |
|------------------|
| 1. 取りやすいと思う |
| 2. 取りにくいと思う |
| 3. 男性の育児休業の制度がない |
| 4. 制度があるか知らない |
| 5. わからない |

問 16 【問 11 で「1. 正社員・職員」と回答された方におたずねします。】

あなたの職場で女性活躍の取り組みは進んでいると思いますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 進んでいる	⇒(問 18 へ)
2. どちらかといえば進んでいる	
3. あまり進んでいない	⇒(問 17 へ)
4. 進んでいない	⇒(問 18 へ)
5. わからない	

問 17 【問 16 で「3. あまり進んでいない」「4. 進んでいない」と回答された方におたずねします。】

あなたは、職場で女性活躍の取り組みが進まないのはどのような理由からだと思いますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 職場が男性中心の組織風土である
2. 仕事と生活が両立できるような職場づくりが進んでいない
3. 女性を登用するためのキャリア形成支援が不十分である
4. 男性の家事・育児参加が進まない
5. 職場での女性活躍を望んでいない女性が多い
6. その他 ()

問 18 【問 11 で 1～5 のいずれかを回答された方におたずねします。】

あなたの職場では、テレワーク（在宅勤務）が導入されていますか。導入されている場合、あなたは利用していますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 導入されており、利用している	⇒(問 19 へ)
2. 導入されているが、利用していない	⇒(問 20 へ)
3. 導入されていない	

問 19 【問 18 で 1 を回答された方におたずねします。】

テレワーク（在宅勤務）の利用は、家事・育児に有効に作用しましたか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 有効であった	2. 有効ではなかった	3. 変化はなかった
-----------	-------------	------------

問 20 【すべての方におたずねします。】

男性の育児休業についてお尋ねします。もし、子どもが生まれたら、あなたは（夫に）育児休業を取りたい（取ってもらいたい）ですか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

1. 取りたい（取ってもらいたい）	⇒(問 21 へ)
2. 取りたくない（取ってもらいたくない）	⇒(問 22 へ)
3. わからない	⇒(問 23 へ)

問 21 【問 20 で取りたい（取ってもらいたい）と回答された方におたずねします。】

育児休業を、どの程度の期間取りたい（取ってもらいたい）ですか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 10日未満
2. 10日以上～1か月未満
3. 1か月以上～3か月未満
4. 3か月以上～6か月未満
5. 6か月以上～

問 22 【問 20 で取りたくない（取ってもらいたくない）と回答された方におたずねします。】

取りたくない（取ってもらいたくない）と回答されたのはどのような理由からですか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 職場の理解が得られないから
2. 収入減の心配があるから
3. 後のキャリア形成に影響しそうだから
4. 復職時、仕事や職場の変化に対応できないと思うから
5. 配偶者や家族が家事・育児を担ってくれるから
6. 会社で育児休業制度が整備されていないから
7. 取得をする必要性を感じていないから
8. 男性が取得するべきではないと思っているから
9. その他（)

問 23 【すべての方におたずねします。】

女性が職業を持つことについてあなたはどのようにお考えですか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 女性は職業を持たないほうがよい
2. 結婚するまでは、職業を持つほうがよい
3. 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
4. 子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
5. 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい
6. その他（)
7. わからない

問 24 【すべての方におたずねします。】

女性が職業を持続ける上で障害となるものは、あなたは何だと思いますか。あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 家族の協力、理解などが得られないこと
2. 女性自身の職業に対する自覚が足りないこと
3. 企業内の配置・昇進等で女性に対する偏見があること
4. 勤務時間が長いこと
5. 夫又はパートナーの勤務時間が長いこと
6. 柔軟な勤務形態になっていないこと
7. 育児休業、保育施設などが整備されていないこと
8. 家事や育児、看護、介護を女性が担わなければならないこと
9. 男は仕事、女は家庭という社会通念があること
10. 夫又はパートナーの転勤
11. 本人の転勤
12. その他（)
13. わからない
14. 特にない

問 25 【すべての方におたずねします。】

女性が再就職するために、どのような施策や対策が必要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

1. 就職活動に必要な知識・対策や就職意欲を向上するセミナーの開催
2. 働きたい女性への個別相談の機会を増やす
3. 再就職希望者と企業とのマッチング（結びつける）の場を設ける
4. 資格取得やスキルアップ（技能向上）に対する支援
5. 女性採用の拡大を図るよう企業に働きかける
6. 保育園や学童保育所の充実（増設、受入定員増、利用料軽減など）
7. 子どもが病気の時などの支援体制（病児保育など）の充実
8. 男性も家事育児に参加できるようなワーク・ライフ・バランスの推進
9. 短時間勤務や在宅勤務など柔軟な働き方ができるよう企業に働きかける
10. 職場における女性差別やセクハラを防止する啓発活動
11. 賃金の男女差の是正
12. その他（)
13. わからない
14. 特にない

問 26 【すべての方におたずねします。】

仕事を探すとき、くるみん認定や、えるぼし認定の有無を参考にしたいと思いますか。

説明

【くるみん認定】子育てサポート企業として、次世代育成支援対策推進法に基づき一定の基準を満たすことで得られる認定。

【えるぼし認定】女性活躍推進企業として、女性活躍推進法に基づき一般事業主行動計画の策定・届出を行い、その取組状況が優良である等の要件を満たすことで得られる認定。

1. 大いに参考にしたい
2. どちらかといえば参考にしたい
3. 参考にしない
4. その他（具体的に：)

4. ワーク・ライフ・バランスについておたずねします。

説明

【ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）】一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活等においても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること。

問 27 【すべての方におたずねします。】

ワーク・ライフ・バランスに関して、現在あなたの思うような仕事と生活のバランスは実現できていますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 実現できている
2. もっと仕事を優先したい
3. もっと家庭生活を優先したい
4. もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい
5. その他（）
6. わからない

問 28 【すべての方におたずねします。】

男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには、何が重要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

1. 市民に対する意識啓発
2. 企業経営者に対する意識啓発
3. 先進的な取り組みをしている企業の事例の情報提供
4. 先進的な取り組みをしている企業の表彰
5. ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成
6. 育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化
7. 労働時間を縮減するための法制度の強化
8. 在宅勤務などができるような環境の整備
9. 保育サービスなどの子育て支援の充実
10. 介護サービスなどの充実
11. その他（）
12. わからない
13. 特にない

5. 社会活動等についておたずねします。

問 29 【すべての方におたずねします。】

あなたは次のような活動をしていますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|------------------------------------|----------|
| 1. 県・市町の審議会・委員会の委員 | } (問30へ) |
| 2. 自治会等の活動 | |
| 3. P T A・子ども会・青少年グループの活動 | |
| 4. 市民団体・N P O等の活動 | |
| 5. 消費者団体・生活協同組合等の消費者活動 | |
| 6. 生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動 | |
| 7. 消防団などの防災活動 | |
| 8. 外国人との交流などの国際交流活動 | |
| 9. その他 () | |
| 10. いずれも参加していない (したくない) ⇒ (問 31 へ) | |

問 30 【問 29 で「1.～9.」を選択された方のみお答えください。】

あなたが現在活動されている団体で、次のようなことはありますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある |) |
| 2. 女性が役職に就きたがらない | |
| 3. 活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある | |
| 4. 女性の参加が少ない | |
| 5. 男性の参加が少ない | |
| 6. 女性が表に出るべきでないという雰囲気がある | |
| 7. 男性が女性を対等なパートナーとして見ていない | |
| 8. 女性の意見が聞き入れられない | |
| 9. その他 () | |
| 10. わからない | |
| 11. 特にない | |

問 31 【問 29 で「10. いずれも参加していない (したくない)」と回答された方のみお答えください。】

その理由は何ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 仕事が忙しいから |) |
| 2. 参加したいと思うものがないから | |
| 3. 家庭で病人・高齢者等の介護をしているから | |
| 4. 家事や子育てに忙しいから | |
| 5. 家族の理解・協力が得られないから | |
| 6. 人間関係がわずらわしいから | |
| 7. その他 () | |
| 8. 特に理由はない | |

6. ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人などからの暴力）などについておたずねします。

問 32 【すべての方におたずねします。】

次のような行為を、配偶者等※又は交際相手にしたり、あるいは配偶者等又は交際相手から受けたりしたことがありますか。（各項目につきA欄とB欄で○は1つ）

※配偶者等には、恋人、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手・事実婚を解消した相手）も含まれます。	A 自分でしたことがある			B 相手から受けたことがある		
	何度もした	一、二度した	全くしなかった	何度も受けた	一、二度受けた	全く受けなかった
（例）何を言っても（言われても）長期間無視する	1	2	③	1	②	3
1. 何を言っても（言われても）長期間無視する	1	2	3	1	2	3
2. 交友関係や電話・メールをチェックする	1	2	3	1	2	3
3. 行動を制限する	1	2	3	1	2	3
4. 暴言を言う、大声でどなる	1	2	3	1	2	3
5. 避妊に協力しない	1	2	3	1	2	3
6. 意に反した性的な行為を強要する	1	2	3	1	2	3
7. 無理やりポルノビデオや雑誌等を見せる	1	2	3	1	2	3
8. 口汚くののしる	1	2	3	1	2	3
9. 大切にしているものをわざと壊したり捨てたりする	1	2	3	1	2	3
10. 殴るふりをする等して脅す	1	2	3	1	2	3
11. 首を絞める・刃物を持ち出す等命に危険を感じる行為をする	1	2	3	1	2	3
12. 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をする	1	2	3	1	2	3
13. 自由になるお金を制限する	1	2	3	1	2	3

問 33 【問 32 の「A 自分でしたことがある」で、13 の項目中1つ以上「1」又は「2」と回答された方のみお答えください。】

そのような行為をしたとき、あなたは、どなたかに相談しましたか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 家族に相談した 2. 友人・知人に相談した 3. 同じような経験をした人に相談した 4. 市の相談窓口相談した 5. 警察に相談した 6. 民間の機関の相談窓口（弁護士・カウンセラー・民間シェルター・NPO等）に相談した 7. 国・県の相談窓口相談した 8. 人権擁護委員に相談した 9. 医療関係機関（医師・看護師等）に相談した 10. 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した 11. その他（ ） 12. 相談しなかった（できなかった）⇒（問 34 へ）

問 34 【問 33 で「12. 相談しなかった（できなかった）」と回答された方のみお答えください。】
相談しなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつ
けてください。

1. 相談する人がいなかったから
2. どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
3. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
4. 相談してもむだだと思ったから
5. 世間体が悪いから
6. 相談するほどのことではないと思ったから
7. 相手が悪いから
8. その他（)
9. わからない

問 35 【問 32 の「B 相手から受けたことがある」で、13 の項目中1つ以上「1」又は「2」と回答された
方のみお答えください】

そのような行為を受けたとき、あなたは、どなたかに相談しましたか。次の中から、あて
はまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 家族に相談した
2. 友人・知人に相談した
3. 同じような経験をした人に相談した
4. 市の相談窓口相談した
5. 警察に相談した
6. 民間の機関の相談窓口（弁護士・カウンセラー・民間シェルター・NPO等）に相談した
7. 国・県の相談窓口相談した
8. 人権擁護委員に相談した
9. 医療関係機関（医師・看護師等）に相談した
10. 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）
11. その他（)
12. 相談しなかった（できなかった）⇒（問 36 へ）

問 36 【問 35 で「12. 相談しなかった（できなかった）」と回答された方のみお答えください。
相談しなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつ
けてください。

1. 相談する人がいなかったから
2. どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
3. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたりもっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
7. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 世間体が悪いから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. 他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
11. そのことについて思い出したくなかったから
12. 自分も悪いところがあると思ったから
13. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
14. 相談するほどのことではないと思ったから
15. その他（)
16. わからない

問 37 【問 32 の「B 相手から受けたことがある」で、13 の項目中1つ以上「1」又は「2」と回答された方のみお答えください】

あなたは、配偶者等又は交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 相手と別れた
2. 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった ⇒(問 38 へ)
3. 別れたい（別れよう）とは思わなかった

問 38 【問 37 で「2. 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と回答された方のみお答えください。】

別れなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつ
けてください。

1. 仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）
2. 経済的な不安があったから
3. 世間体が悪いと思ったから
4. 周囲の人から、別れることに反対されたから
5. 相手が別れることに同意しなかったから
6. 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから
7. これ以上は繰り返されないとと思ったから
8. 相手には自分が必要だと思ったから
9. 子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから ⇒(問 39 へ)
10. その他（)
11. わからない

9.以外を回答され
た方は⇒(問 40 へ)

問 42 【すべての方におたずねします。】

あなたは、今までに自分の恋愛対象の性について悩んだり、自分の性に違和感を感じたりしたことはありますか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

問 43 【すべての方におたずねします。】

あなたは、LGBTQ に対する否定的な言動を見聞きしたことはありますか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

問 44 【すべての方におたずねします。】

あなたは、性の多様性を認め合う社会を作るために、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 教育現場での啓発活動や配慮（性の多様性の講演会や授業、制服やトイレの配慮） |
| 2. 社会制度の見直し（パートナーシップ証明書の発行、性別移行の手続き等） |
| 3. 専門の相談窓口の設置 |
| 4. 市の広報誌やホームページ、講演会などの啓発活動 |
| 5. 性の多様性についての交流を行うコミュニティスペース |
| 6. その他（ ） |
| 7. わからない |

8. 男女共同参画社会についておたずねします。

説明

【男女共同参画社会】男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のこと。

問 45 【すべての方におたずねします。】

あなたは、政治や行政において、政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識 |
| 2. 男性優位の組織運営 |
| 3. 家族の支援・協力が得られない |
| 4. 女性の能力開発の機会が不十分 |
| 5. 女性側の積極性が十分でない |
| 6. 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない |
| 7. その他（ ） |
| 8. わからない |

10. あなたご自身についておたずねします。

問 49 【すべての方におたずねします。】

あなたの性別について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 女性 2. 男性 3. その他

※戸籍上の区分とは別にご自身の主観によりお答えください。

問 50 【すべての方におたずねします。】

あなたの年齢について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 20 歳未満 | 5. 50 歳代 |
| 2. 20 歳代 | 6. 60 歳代 |
| 3. 30 歳代 | 7. 70 歳代 |
| 4. 40 歳代 | 8. 80 歳以上 |

問 51 【すべての方におたずねします。】

家族構成について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- １．単身世帯（あなただけ）
- ２．１世代世帯（夫婦だけ）
- ３．２世代世帯（夫婦と子、夫婦と親、親と子など）
- ４．３世代世帯（祖父母と夫婦と子、親と子と孫など）
- ５．その他（ ）

問 52 【すべての方におたずねします。】

あなたには子どもがいらっしゃいますか。いる場合はどの年代の子どもがいらっしゃいますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。なお、子どもが2人以上いる場合は一番下の子どもの年代でお答えください。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. いる（就学前） | 4. いる（中学生以上 18 歳未満） |
| 2. いる（小学校 1～3 年生） | 5. いる（18 歳以上） |
| 3. いる（小学校 4～6 年生） | 6. いない |

最後に男女共同参画に関することについてご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

アンケートはここまでです。ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れてご返送ください。